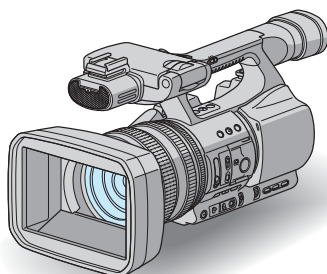
SONY

4-111-862-**04** (1)

デジタルHDビデオカメラレコーダー

HANDYCAM

取扱説明書

HDR-FX1000

G

⚠警告 **電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。**
この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

→111～113ページも
あわせてお読みください。

誤った使いかたをしたときに生じる**感電や傷害など人への危害**、また**火災などの財産への損害**を未然に防止するため、次のことを必ずお守りください。

「安全のために」の注意事項を守る

定期的に点検する

1年に1度は、電源プラグ部とコンセントの間にほこりがたまっていないか、電源コードに傷がないか、故障したまま使用していないか、などを点検してください。

故障したら使わない

カメラやACアダプター、バッテリーチャージャーなどの動作がおかしくなったり、破損していることに気がついたら、すぐにソニーの相談窓口へご相談ください。

万一、異常が起きたら

**変な音・においがしたら
煙が出たら**

➡

1. **電源を切る**
2. **電池をはずす**
3. **ソニーの相談窓口に連絡する**

裏表紙に**ソニーの相談窓口の連絡先**があります。

⚠危険 万一、電池の液漏れが起きたら

1. **すぐに火気から遠ざけてください。漏れた液や気体に引火して発火、破裂の恐れがあります。**
2. **液が目に入った場合は、こすらず、すぐに水道水などきれいな水で充分に洗ったあと、医師の治療を受けてください。**
3. **液を口に入れたり、なめた場合は、すぐに水道水で口を洗浄し、医師に相談してください。**
4. **液が身体や衣服についたときは、水でよく洗い流してください。**

警告表示の意味

この取扱説明書や製品では、次のような表示をしています。

⚠危険

この表示のある事項を守らないと、極めて危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生します。

⚠警告

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、その結果大けがや死亡にいたる危害が発生することがあります。

⚠注意

この表示のある事項を守らないと、思わぬ危険な状況が起こり、けがや財産に損害を与えることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

ぬれ手禁止

行為を指示する記号

プラグをコンセントから抜く

指示

電池について

「安全のために」の文中の「電池」とは、バッテリーパックも含みます。

使用前に必ずお読みください

お買い上げいただきありがとうございます。

本機で使えるカセットについて

Mini DV マーク付きミニDVカセットが使えます。カセットメモリー機能には非対応です（詳しくは101ページ）。

本機で使える"メモリースティック"について

本機では次のマークのついた"メモリースティック"が使えます（詳しくは102ページ）。

- MEMORY STICK DUO（"メモリースティック　デュオ"）
- MEMORY STICK PRO DUO（"メモリースティック　PRO　デュオ"）
- MEMORY STICK PRO-HG DUO（"メモリースティック　PRO-HG　デュオ"）

"メモリースティック　デュオ"（本機で使用するサイズ）

"メモリースティック"（本機では使用できません）

- "メモリースティック　デュオ"以外のメモリーカードは使用できません。
- "メモリースティック　PRO　デュオ"は"メモリースティック　PRO"対応機器でのみ使用可能です。
- 使用可能な"メモリースティック　デュオ"の最新情報についてはホームページ上の「"メモリースティック"対応表」をご確認ください（裏表紙）。
- "メモリースティック　デュオ"本体および"メモリースティック　デュオ"　アダプターにラベルなどは貼らないでください。

"メモリースティック　デュオ"を"メモリースティック"対応機器で使用する場合

必ず"メモリースティック　デュオ"を"メモリースティック　デュオ"　アダプターに入れてからお使いください。

"メモリースティック　デュオ"　アダプター

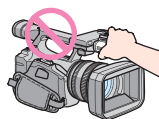
故障や破損の原因となるため、特にご注意ください。

- 次の部分をつかんで持たないでください。

レンズカバー付きフード

ファインダー

液晶パネル

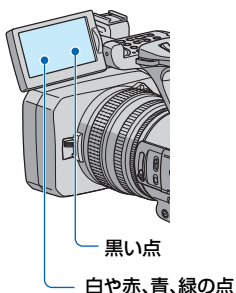
マイク

ご注意

- 本機は防じん、防滴、防水仕様ではありません。「本機の取り扱いについて」もご覧ください（106ページ）。
- 本機をケーブル類で他機と接続するときは、端子の向きを確認して接続してください。無理に押し込むと端子部の破損、または本機の故障の原因になります。

メニュー項目、液晶画面、ファインダーおよびレンズについてのご注意

- 灰色で表示されるメニュー項目は、その撮影/再生条件では使えません（同時に選べません）。

次のページへつづく➡

- 液晶画面やファインダーは有効画素99.99%以上の非常に精密度の高い技術で作られていますが、黒い点が現れたり、白や赤、青、緑の点が消えなかったりすることがあります。これは故障ではありません。これらの点は記録されません。

ファインダー、レンズ、および液晶画面を絶対に太陽や強い光源に向けたままにしない

- 特にファインダー、レンズを太陽や強い光源に向けたままにすると、集光により内部部品の破損の原因となります。使用しないときには、太陽や強い光源に向かないように置き場所を工夫するか、レンズカバー、バッグなどを使用して保護してください。

本機やバッテリーの温度に関するご注意

- 本機やバッテリーの温度によっては、カメラを保護するために撮影や再生ができなくなることがあります。この場合は、本機の液晶画面およびファインダーにメッセージが表示されます(97ページ)。

録画/録音に際してのご注意

- 事前にためし撮りをして、正常な録画/録音を確認してください。
- 万一、ビデオカメラレコーダーや記録メディアなどの不具合により記録や再生がされなかった場合、画像や音声などの記録内容の補償については、ご容赦ください。
- あなたがビデオで録画/録音したものは個人として楽しむほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示物などのうちには、個人として楽しむなどの目的があっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。
- 撮像素子(CMOSセンサー)の画像信号を読み出す方法の性質により、撮影条件によっては、画面をすばやく横切る被写体が少しゆがんで見えることがあります。また、動解像度表現に優れたモニタなどでは顕著に見える場合があります。

他機での再生に際してのご注意

HDV規格で記録したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません。
他機で再生する前に本機で再生して、テープの内容を確認することをおすすめします。

本書で使うマークについて

HDV1080i HDV規格だけで使える機能です。
DV DV規格だけで使える機能です。
i.LINK i.LINK接続時に使える機能です。
AS ASSIGNボタンに割り当てて使える機能です。

本書について

- 画像の例としてスチルカメラによる写真を使っています。実際に見えるものとは異なります。
- 記録メディアやアクセサリーの仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

目次

ハイビジョン映像を楽しもう

準備する

撮る/見る

メニューで設定を変更する

ダビングや編集をする

パソコンとつなぐ

次のページへつづく➡

困ったときは

その他

安全のために 111

各部のなまえ･索引

HDV規格で撮ろう！

とってもきれい

本機はHDV規格に対応し、高精細で臨場感あふれるハイビジョン映像を撮影することができます。

HDV規格とは？

HDV規格とは、現在普及しているDV規格のカセットテープを使ってハイビジョンの映像を撮影・再生するための映像規格です。

- **本機では、「HDV規格」の中で、有効走査線数1,080本を実現するHDV規格の1080i方式を採用しています。**記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。

有効走査線数1,080本

- 本書では、とくに説明する場合を除き、HDV1080i方式のことをHDVと書きます。

なぜHDV規格で撮るの？

映像の世界がデジタル方式へと移行していくなかで、大切な場面をHDV規格で撮影しておくことで後々まで高画質な映像をお楽しみいただくことができます。
従来のワイドテレビや4:3テレビでも本機のダウンコンバート機能によりHDV規格の画像をSD（標準）画質で再生できるので、ハイビジョンテレビをお持ちでないかたも将来に備えてHDV規格で撮影することをおすすめします。

- ダウンコンバートとは、HDV1080i方式非対応のテレビやビデオ機器と本機をつないだときに、HDV規格の映像をDV規格に変換して再生、編集を可能にする機能のことです。画質はSD（標準）画質になります。

本機の特長

本機は以下の特長を備えたHDV1080i方式デジタルHDビデオカメラレコーダーです。
旅先の美しい風景などを、ハイビジョン画質で記録できます。

1 **「3 クリアビッド CMOS センサーシステム」を搭載**
「3 クリアビッド CMOS センサーシステム」を搭載。ソニーがハイビジョン用に開発した「クリアビッドCMOSセンサー」を3枚用いて優れた分光特性と高解像度を実現しました。感度・色再現性に優れたデジタルハイビジョン映像を表現できます。

2 **光学20倍「Gレンズ」を搭載**
光学20倍「Gレンズ」搭載により、離れた被写体もハイビジョン画質で高倍率ズーム撮影できます。

3 **内蔵高性能マイクで臨場感たっぷりの音声を記録**
本体内蔵の高性能ステレオマイクにより、臨場感のある音声が記録できます。

4 **細かなマニュアル設定でより本格的に**
豊富なマニュアル設定機能搭載により、思い通りの設定でハイビジョン映像を撮影できます。

–「ズームリング」、「フォーカスリング」、「アイリスリング」で、思い通りのマニュアル調節ができます。

–「シャッタースピード」、「ホワイトバランス」、「ゲイン」を細かくマニュアル設定できます。

5 **いろいろな機器とつないで楽しめます**
本機背面には、i.LINK(HDV/DV)端子、A/Vリモート端子(D端子A/Vケーブル、コンポーネントA/Vケーブル、S映像ケーブル付きのA/V接続ケーブル、A/V接続ケーブルに対応)、HDMI出力端子、LANC端子、ヘッドホン端子を、右側面には、“メモリースティック デュオ”スロットを搭載。豊富な外部接続環境を備えています。

撮影のための便利な機能

静止画デュアル記録(25ページ)

動画撮影中に、1.2Mの静止画を"メモリースティック デュオ"に撮影できます。

なめらかスロー録画(63ページ)

動きのある被写体を、なめらかなスローモーション映像として撮影できます。

カメラプロファイルを保存(74ページ)

明るさや色合いなどの設定情報を本体に2個保存できます。保存した設定情報を使って、適切な撮影設定をすばやく再現できます。

アイリスリング(29ページ)

アイリスリングを使って明るさを調節できます。アイリスリングで調節する項目は、[アイリス]、[カメラ明るさ]から選べます。

HDV 規格で撮った画像を楽しもう！

ハイビジョンテレビで見る（52ページ）

HDV規格で撮影した画像を高精細で鮮やかなHD（ハイビジョン）画質で再生できます。
•HD1080i方式（i.LINK）対応のテレビについては53ページをご覧ください。

ワイドテレビ/4:3テレビで見る（54ページ）

HDV規格で撮影した画像を本機でダウンコンバートして、従来のテレビで見ることができます。画質はSD（標準）になります。

他のビデオ機器にダビングする（77ページ）

■HDV1080i方式対応機器につなぐ

i.LINKケーブルでつないでHD（ハイビジョン）画質でダビングできます。

■HDV1080i方式対応以外の機器につなぐ

HDV規格で撮影した画像を本機でダウンコンバートして、SD（標準）画質でダビングできます。

パソコンとつなぐ（83ページ）

■テープの動画をパソコンに取り込む

動画をパソコンに取り込んだり、取り込んだ画像をDVDに保存したりできます。パソコンに取り込む画像規格（HDV規格またはDV規格）によって、パソコンに必要な装備が異なります。詳しくは、83ページと下記のURLをご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

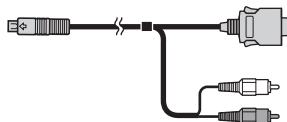
準備 1:付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確認してください。万一、不足の場合はお買い上げ店にご相談ください。
(　)内は個数。

- ビデオカセット、"メモリースティック　デュオ"、リチャージャブルバッテリーパック、ACアダプター/チャージャーは別売です。本機で使えるカセットテープと"メモリースティック　デュオ"については3ページ、101ページ、102ページをご覧ください。

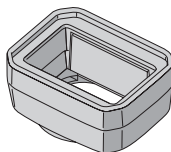
ワイヤレスリモコン(1)(49、118ページ)

ボタン型リチウム電池があらかじめ取り付けられています。

D端子A/Vケーブル(1)(51ページ)

A/V接続ケーブル(1)(51、78ページ)

大型アイカップ(1)(20ページ)

レンズカバー付きフード(1)(14ページ)

本機にあらかじめ取り付けられています。

取扱説明書 <本書>(1)

保証書(1)

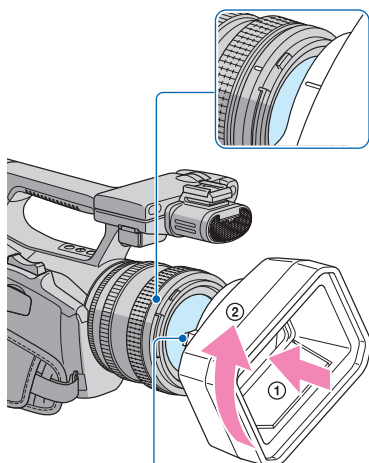
準備 2:レンズカバー付きフードを取り付ける

本体とフードの印を合わせて、矢印②の方向に回す。

レンズカバー付きフードを取りはずすには

PUSH(レンズフード取りはずし)ボタンを押しながら、取り付けた方向と反対方向に回す。

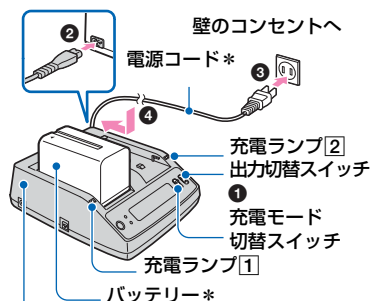
ちょっと一言

- 直径72ミリの偏光フィルターや保護フィルターを取り付けたり取りはずしたりするときは、レンズカバー付きフードを取りはずしてください。

レンズカバーを開閉するには

開閉するにはレンズカバーレバーを上下に動かす。

準備3:バッテリーを充電する

別売りのアクセサリーキットの取扱説明書もあわせてご覧ください。
専用の"インフォリチウム"バッテリー(Lシリーズ)をACアダプター/チャージャーに取り付けて充電します。

ご注意
- "インフォリチウム"バッテリー(Lシリーズ)(104ページ)以外のバッテリーは使えません。

＊別売りのACCKIT-D20に付属

1 出力切替スイッチをCHARGEに、充電モード切替スイッチを「NORMAL CHARGE」(実用充電)または「FULL CHARGE」(満充電)にする。

2 電源コードをACアダプター/チャージャーにつなぐ。

3 電源コードをコンセントにつなぐ。

4 バッテリーを押しながら、矢印の方向にずらして取り付ける。

充電ランプが点灯し、充電が始まります。

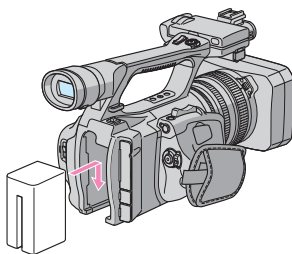
充電について

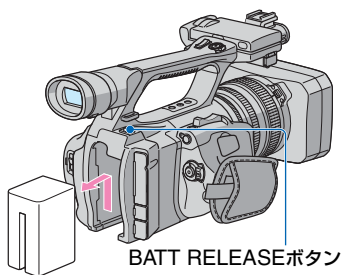
充電モード切替スイッチを「NORMAL CHARGE」にすると実用充電まで、「FULL CHARGE」にすると若干長く使える満充電まで充電します。充電が終わると表示窓のバッテリーマーク()がすべて点灯します。

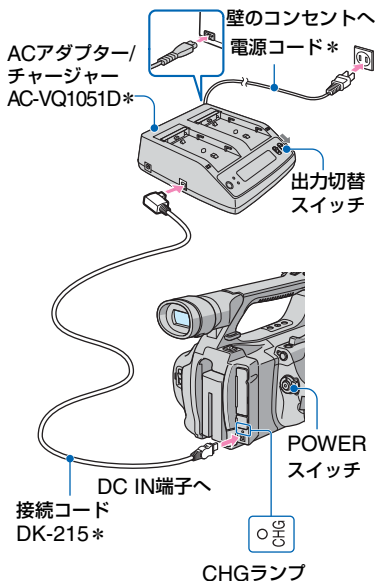
ちょっと一言
- バッテリーインフォでバッテリー残量を確認できます(48ページ)。

本機にバッテリーを取り付けるには

バッテリーを押しながら、下にずらして取り付ける。

次のページへつづく→

バッテリーを取りはずすには

POWERスイッチを「OFF(CHG)」にする。BATT RELEASEボタンを押しながら、バッテリーを取りはずす。

本体内充電するには

本機に取り付けたバッテリーを充電できます。

＊別売りのACCKIT-D20に付属

① バッテリーを本機に取り付ける。
② 接続コードを本機のDC IN端子につなぐ。
③ 接続コードをACアダプター/チャージャーにつなぐ。
④ 電源コードをACアダプター/チャージャーにつなぐ。
⑤ 電源コードをコンセントにつなぐ。
⑥ ACアダプター/チャージャーの出力切替スイッチを「VCR/CAMERA」側にする。

ご注意

- ACアダプター/チャージャーの出力切替スイッチが「CHARGE」側になっていると電源は供給されません。

⑦ 本機のPOWERスイッチを「OFF(CHG)」にする。

本機のCHGランプ(充電ランプ)が点灯し、充電が始まります。

充電が終わると、CHGランプが消えます(満充電)。

接続コードを本機のDC IN端子から抜いてください。

保管するときは

長い間使わないときは、バッテリーを使い切ってから保管してください。(保管について詳しくは104ページをご覧ください。)

コンセントにつないで使うには

バッテリーが切れることを心配しないで使えます。また、バッテリーを取り付けたまま使っても、バッテリー自体は消耗しません。

① ACアダプター/チャージャーの出力切替スイッチを「VCR/CAMERA」側にする。
② 「本体内充電するには」と同じ方法で接続する(16ページ)。

ご注意

- バッテリーで使用するときは、DC IN端子から接続コードを抜いてください。電源コードをコンセントから抜いても、DC IN端子に接続コー

ドがつながっていると、バッテリーから電源が供給されません。

充電時間

ACアダプター/チャージャーの取扱説明書を参照してください。

撮影可能時間

満充電からのおよその時間（分）。

ご注意

- NP-F330はご使用できません。

HDV規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-F770	290	145
	295	145
NP-F970	430	215
	445	220

DV規格で撮影したとき

バッテリー型名	連続撮影時	実撮影時*
NP-F770	300	150
	310	155
NP-F970	450	225
	465	230

上段：液晶画面バックライトが「入」のとき

下段：液晶画面を閉じてファインダーを使用したとき

* 実撮影時とは、録画スタンバイ、POWER スイッチの切り換え、ズームなどを繰り返したときの時間です。

再生可能時間

満充電からのおよその時間（分）。

HDV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面で再生*	液晶画面を閉じて再生
NP-F770	415	435
NP-F970	630	660

DV規格の画像を再生したとき

バッテリー型名	液晶画面で再生*	液晶画面を閉じて再生
NP-F770	445	470
NP-F970	675	705

* 液晶画面バックライトが「入」のとき

バッテリーについて

- バッテリーの交換は、POWERスイッチを「OFF(CHG)」にしてから行ってください。
- 次のとき、充電中の充電ランプが点滅したり、バッテリーインフォ（48ページ）が正しく表示されないことがあります。
  – バッテリーを正しく取り付けていないとき
  – バッテリーが故障しているとき
  – バッテリーが劣化しているとき（バッテリーインフォ表示のみ）
  – バッテリーの温度が低いとき
  バッテリーをはずして暖かいところに置いてください。
  – バッテリーの温度が高いとき
  バッテリーをはずして涼しいところに置いてください。
- 電源コードをコンセントから抜いても、ACアダプター/チャージャーが本機のDC IN端子につながれている限り、バッテリーからは電源供給されません。

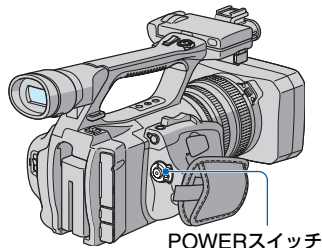
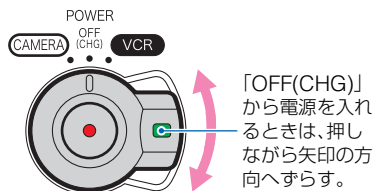
充電/撮影/再生時間について

- 25℃（10℃〜30℃が推奨）で使用したときの時間です。
- 低温の場所で使うと、撮影/再生可能時間はそれぞれ短くなります。
- 使用状態によって、撮影/再生可能時間が短くなります。

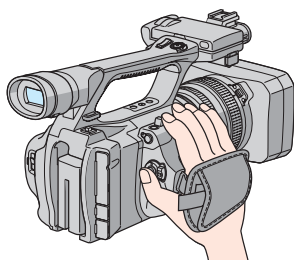
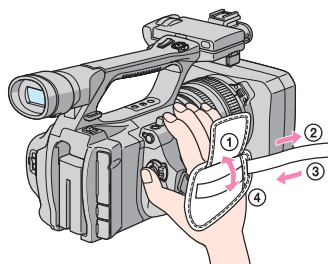
ACアダプター/チャージャーについて

- ACアダプター/チャージャーのDCプラグやバッテリー端子を金属類でショートさせないでください。故障の原因になります。

準備 4：電源を入れて正しく持つ

撮影や再生時は、POWERスイッチをそれぞれの電源モードに切り換えます。
初めて電源を入れると自動的に[日時あわせ]画面になります（21ページ）。

1 緑のボタンを押しながら、POWERスイッチを切り換える。

「CAMERA」：撮影時
「VCR」：再生や編集時

ご注意
- [日時あわせ]（21ページ）を行った後で本機の電源を入れると、液晶画面に現在の日時が数秒間表示されます。

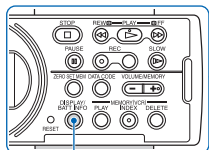
2 本機を正しく構える。

3 ベルトをしっかりと締める。

電源を切るには

POWERスイッチをずらして、「OFF(CHG)」にする。

ご注意
- お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください（98ページ）。

準備 5:液晶画面とファインダーを調節する

液晶画面を見やすく調節する

液晶画面を180゜に開ききった状態(①)で、見やすい角度に調節する(②)。

ちょっと一言

- 対面撮影にも活用できます。液晶画面には左右反転で映りますが、実際には左右正しく録画されます。

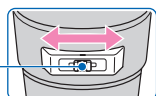
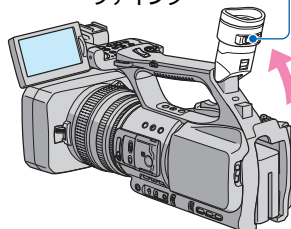
液晶画面バックライトを消してバッテリーを長持ちさせるには

DISPLAY/BATT INFOボタンを が表示されるまで数秒間押したままにする。明るい場所で使うときや、バッテリーを長持ちさせるときに効果的です。録画される画像には影響ありません。
再びバックライトを点灯させるには、DISPLAY/BATT INFOボタンを押す。
が消えます。

ちょっと一言

- 液晶画面の明るさは、[パネル明るさ](69ページ)で調節できます。

ファインダーを見やすく調節する

バッテリー切れが心配なときや液晶画面で画像を見づらいときなどは、液晶画面を閉じて、ファインダーで画像を見ることもできます。

ご注意

- ビューファインダー内で視線を動かした場合などに原色が見えることがありますが、故障ではありません。
  また、原色が実際に記録メディアに記録されることはありません。

ちょっと一言

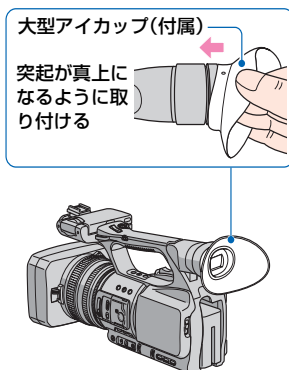
- ファインダーのバックライトの明るさは、メニューの[VFバックライト]で設定できます(70ページ)。
- 液晶画面とファインダーの両方に画像を映すには、[VF点灯モード]を[入]にします(70ページ)。

次のページへつづく➡

ファインダーの画像が見えにくいときは

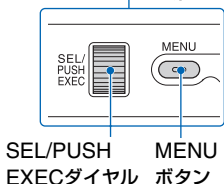
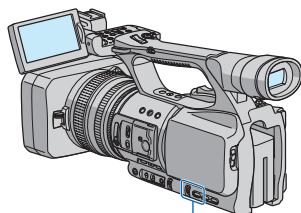
周囲が明るすぎるなど、ファインダーの画像が見えにくいときは、付属の大型アイカップをお使いください。大型アイカップを少し伸ばし、本体に装着されているアイカップの溝に合わせて大型アイカップを取り付けます。大型アイカップは左右のどちらの向きでも取り付けることができます。

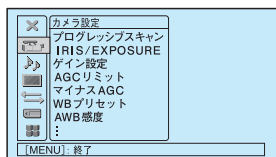
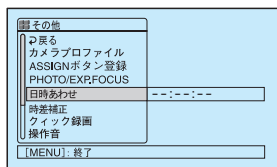
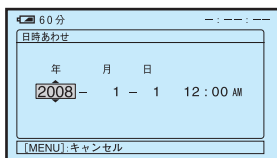
ご注意

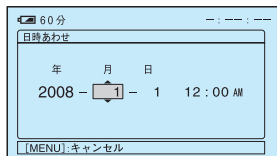
- 本体にあらかじめ装着されているアイカップは取りはずさないでください。

準備 6:日付時刻を合わせる

初めて電源を入れたときは日付、時刻を設定してください。設定しないと、電源を入れたり、POWERスイッチを切り換えるたびに[日時あわせ]画面が表示されます。

ちょっと一言

- **3か月**近く使わないでおくと内蔵の充電式電池が放電して、日付、時刻の設定が解除されます。充電式電池を充電してから設定し直してください(108ページ)。

初めて時計を合わせるときは、手順**4**から操作してください。

1 MENUボタンを押す。

2 SEL/PUSH EXECダイヤルを回して (その他)メニューを選び、押して決定する。

3 SEL/PUSH EXECダイヤルを回して[日時あわせ]を選び、押して決定する。

4 SEL/PUSH EXECダイヤルを回して[年]を選び、押して決定する。

2079年まで設定できます。

5 同様に、[月]、[日]、時、分を合わせ、SEL/PUSH EXECダイヤルを押して決定する。

時計が動き始めます。
真夜中は12:00AM、正午は12:00PMです。

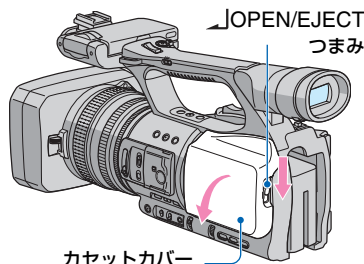
ちょっと一言

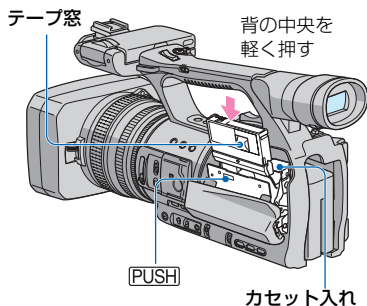
- 日付時刻は撮影時には表示されません。自動的にテープに記録され、再生時に表示させることができます(DATA CODEボタン、47ページ)。

準備 7:カセットや"メモリースティック　デュオ"を入れる

カセットを入れる

Mini DV マーク付きミニDVカセットのみ使えます(101ページ)。

1 ⏏OPEN/EJECTつまみを矢印の方向にずらしたまま、カセットカバーを開ける。

カセット入れが自動的に出て開きます。

2 テープ窓を外側にして、カセットを入れ、PUSH マークを押す。

カセット入れが自動的に収納されます。

ご注意

- カセット入れが引き込まれているときに DO NOT PUSH の刻印部分を押さないでください。無理に押し込むと故障の原因になります。

3 カセットカバーを手で閉める。

ちょっと一言

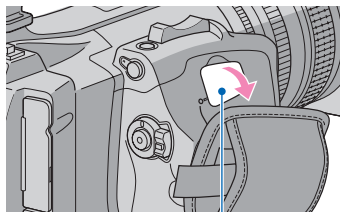
- [DV録画モード]によって、録画可能時間は異なります(71ページ)。DV

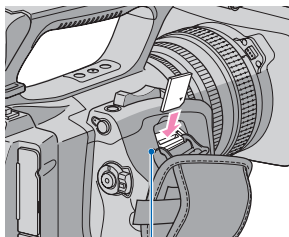
カセットを取り出すには

手順**1**と同じ操作でカセットカバーを開けて、カセットを取り出す。

"メモリースティック　デュオ"を入れる

MEMORY STICK DUO、MEMORY STICK PRO DUO、MEMORY STICK PRO-HG DUO マーク付き"メモリースティック　デュオ"のみ使えます(102ページ)。

1 "メモリースティック　デュオ"スロットカバーを開ける。

"メモリースティック　デュオ"
スロットカバー

2 “メモリースティック　デュオ”を正しい向きに、「カチッ」というまで押し込む。

アクセスランプ

ご注意

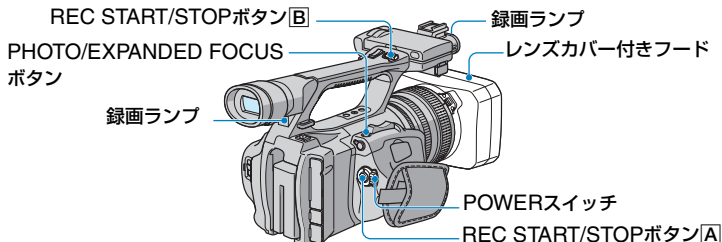
- 誤った向きで無理に入れると、“メモリースティック　デュオ”や“メモリースティック　デュオ”スロット、画像データが破損することがあります。

“メモリースティック　デュオ”を取り出すには

“メモリースティック　デュオ”を軽く1回押して取り出す。

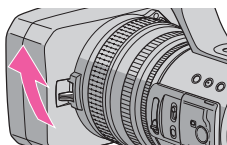
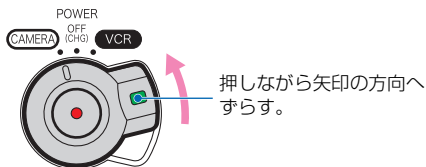
ご注意

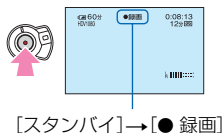
- アクセスランプの点灯中や点滅中は、データの読み込みや書き込みを行っています。本機に振動や強い衝撃を与えないでください。また、電源を切ったり、“メモリースティック　デュオ”やバッテリーを取りはずしたりしないでください。画像データが壊れることがあります。
- 出し入れ時には“メモリースティック　デュオ”の飛び出しにご注意ください。

撮る

本機は動画をテープに、静止画を"メモリースティック　デュオ"に記録します。下記の手順で動画を撮影します。

ちょっと一言

- 動画はHDV規格とDV規格どちらの録画フォーマットでも記録できます。お買い上げ時はHDV規格で撮影するように設定されています。（[録画フォーマット]、71ページ）。

1 レンズカバー付きフードのシャッターを開ける。

2 緑のボタンを押しながら、POWERスイッチを「CAMERA」にする。

3 REC START/STOPボタンA（またはB）を押して撮影を始める。

[スタンバイ]→[● 録画]

撮影中は録画ランプが点灯します。

動画撮影を止めるには、REC START/STOPボタンをもう一度押す。

ちょっと一言
- HDV規格撮影時は、画像の横縦比は16:9に固定されます。DV規格で録画するときは、4:3に切り換えることもできます([DVワイド記録]、72ページ)。
- 撮影中の画面表示の切り換えについては、47ページをご覧ください。
- 撮影中の画面表示については、119ページをご覧ください。
- 録画ランプが点灯しないように設定できます([録画ランプ]、76ページ)。
- “メモリースティック　デュオ”に動画録画はできません。
- ローアングルで撮るときは、ハンドル部のREC START/STOPボタンを使うと便利です。HOLDレバーを解除してから操作してください。液晶画面を上に向ける、または液晶画面を下に向けてから閉じる、あるいはビューファインダーを上げて撮影することをおすすめします。

静止画を撮るには

PHOTO/EXPANDED FOCUSボタン、またはリモコンのPHOTOボタンを押す。
“メモリースティック　デュオ”に静止画が記録されます。
IIIIIIII が消えると記録が完了します。動画撮影中も静止画撮影できます。

ご注意
- ソニー製“メモリースティック　デュオ”使用時。枚数は撮影環境や“メモリースティック”の種類によって異なる場合があります。
- 以下のときは、静止画記録できません。
  - [プログレッシブスキャン]の設定が[切]または[30]で、シャッタースピードが1/60より遅いとき
  - [プログレッシブスキャン]の設定が[24]で、シャッタースピードが1/48より遅いとき
  - フェーダー中
  - なめらかスロー録画中
  - ショットトランジション確認、実行中

ちょっと一言
- 動画撮影していないときは、「カシャ」と音が出ます。
- 静止画の画像サイズは以下のとおりです。
  - HDV規格/DV規格(16:9)撮影時:1.2M
  - DV規格(4:3)撮影時:0.9M
  - HDV規格再生時:1.2M
  - DV規格(16:9)再生時:0.2M
  - DV規格(4:3)再生時:VGA
- 撮影中の画面については119ページをご覧ください。
- PHOTO/EXPANDED FOCUSボタンを押すと拡大フォーカスするように設定できます([PHOTO/EXP.FOCUS]、75ページ)。
- ソニー独自のクリアビッドCMOSセンサーの画素配列と画像処理システム、エンハンスドイメージングプロセッサーにより、静止画は表記の記録サイズを実現しています。

“メモリースティック　デュオ”の容量(MB)と撮影可能枚数(枚)

	1.2M 1440×810	0.9M 1080×810	VGA 640×480	0.2M 640×360
512MB	760	1000	2850	3600
1GB	1550	2100	5900	7300
2GB	3150	4300	12000	15000
4GB	6300	8500	23500	29500
8GB	12500	17000	48000	60000
16GB	25500	34500	97500	122000

テープに録画した動画を“メモリースティック　デュオ”に静止画として記録するには

静止画を“メモリースティック　デュオ”に記録できます。あらかじめ録画済みのテープと“メモリースティック　デュオ”を入れておいてください。

① POWERスイッチを「VCR」にする。

② 場面を探して、取り込む。
　▶(再生)を押してテープを再生し、取り込む場面でPHOTO/EXPANDED

撮る/見る

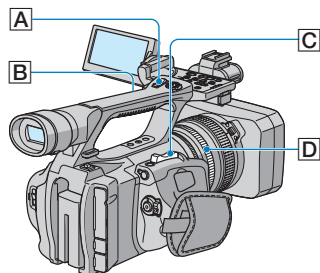
次のページへつづく➡

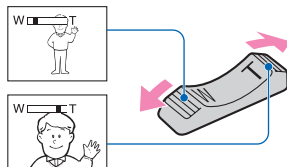
FOCUSボタン、またはリモコンの
PHOTOボタンを押す。

ご注意

- テープに記録した日時と"メモリースティック デュオ"に記録した日時の両方が記録されます。本機で再生したときの日時表示はテープに記録したときの日時が表示されます(データコード、47ページ)。
- テープに記録されているカメラデータは、記録されません。
- [再生ズーム]を使用中は、記録できません(75ページ)。

思い通りの設定で撮る

ズームする

ズームレバー[C]を軽く動かすとゆっくり、さらに動かすと速くズームする。

広角：Wide（ワイド）

望遠：Telephoto（テレフォト）

ちょっと一言

- ピント合わせに必要な被写体との距離は、広角は約1cm以上、望遠は約80cm以上です。
- 被写体との距離が80cm以内の被写体は、ズーム位置によってはピントが合わないことがあります。
- ズームレバー[C]から指を離さずに操作してください。指を離すとズームレバー[C]の操作音が記録されることがあります。

ハンドルズームを使うには

① ハンドルズーム切換スイッチ [B] を「VAR」または「FIX」にする。

ちょっと一言

- 「VAR」にすると押し具合によってズームスピードが変化します。
- 「FIX」にすると押し具合にかかわらず固定スピードで動きます（スピードはメニューで設定します。[ハンドルズームスピード]、63ページ）。

② ハンドルズームレバー[A] を押してズームする。

ご注意

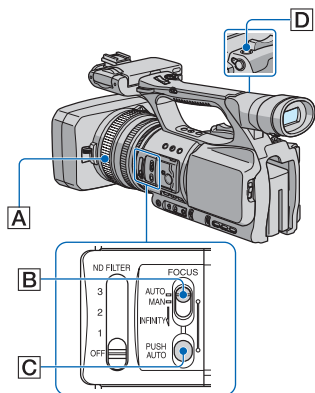
- ハンドルズーム切換スイッチ[B]が「OFF」になっていると、ハンドルズームレバー[A]は使えません。
- ハンドルズーム切換スイッチ[B]で本体のズームレバー[C]の速さを変えることはできません。

ズームリングを使うには

ズームリング[D]を回して好みの速さでズームすることができます。微調整も可能です。

ご注意

- ズームリングは適度な速さで回してください。速すぎると、ズームがリングの回転に追いつかないことがあります。また、ズームの駆動音が動画に記録されることがあります。

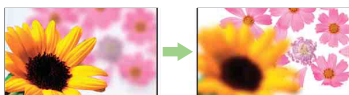
ピントを手動調節する

撮影状況に応じて、手動でピント合わせができます。

以下のようなときに使います。

– 水滴の付いた窓の向こうの被写体

撮る/見る

次のページへつづく➡

– 横じまの多い被写体
– 背景とコントラストの弱い被写体
– 意図的にピントを手前の被写体から奥の被写体に送るとき

– 三脚で撮影する静止した被写体

1 撮影またはスタンバイ中に、FOCUSスイッチBを「MAN」にする。

が表示されます。

2 フォーカスリングAを回し、ピントが合うように調節する。

は、ピントをそれ以上遠くに合わせられないとき に変わり、それ以上近くに合わせられないとき に変わります。

ちょっと一言

ピント合わせのコツ

- 始めにズームをT側(望遠)でピントを合わせてから、W側(広角)に戻していきます。
- 接写時は、逆にズームをW側(広角)いっぱいにしてピントを合わせます。

自動調節にするには

FOCUSスイッチBを「AUTO」にする。
が消え自動調節に戻ります。

一時的にオートフォーカスで撮る(プッシュオートフォーカス)

PUSH AUTOボタンCを押したまま撮影する。

指を離すと手動ピント合わせに戻ります。
手動ピント合わせで、ある被写体から別の被写体にピントを移すようなときに使うと、なめらかな場面展開になります。

ちょっと一言

- 次のとき、フォーカス距離情報(ピントが合う距離。暗くてフォーカスが合わせにくいときに目安として使用します)を約3秒間表示します。(別売りのコンバージョンレンズを付けているときは正しく表示されません。)
  – FOCUSスイッチBを「MAN」にして を表示させたとき
  – 表示中にフォーカスリングを回したとき

拡大表示をしてピントを合わせる(拡大フォーカス)

あらかじめ、PHOTO/EXPANDED FOCUSボタンDに[拡大フォーカス]を割り当てておいてください([PHOTO/EXP.FOCUS]、75ページ)。
スタンバイ中にPHOTO/EXPANDED FOCUSボタンDを押す。
[拡大フォーカス]が表示され、画面中央が約2倍に拡大されます。ピントが合っているかを確認するときに便利です。もう一度押すと元に戻ります。

ご注意

- 拡大表示中にREC START/STOPボタンまたはPHOTO/EXPANDED FOCUSボタンDを押すと、拡大表示は解除されます。

ちょっと一言

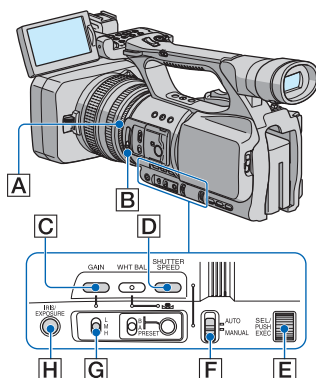
- 拡大フォーカス時の画像タイプを選択できます([EXP.FOCUSタイプ]、69ページ)。
- ASSIGNボタンに[拡大フォーカス]を割り当てることもできます(39ページ)。

遠くの被写体にピントを合わせる(フォーカス無限)

FOCUSスイッチBを「INFINITY」までスライドさせたままにする。
 が表示されます。

指を離すと、手動ピント合わせに戻ります。
遠くの被写体を撮りたいのに、近くの被写体にピントが合ってしまうときに使います。

ご注意
- フォーカス無限は、ピントを手動調節中のみ有効です。

明るさを調節する

アイリス、ゲイン、シャッタースピードを調節したり、NDフィルターBを使って光量を調節したりして、明るさを調節できます。また、カメラ明るさ調節機能を使えば、アイリス、ゲイン、シャッタースピードをアイリスリングAで調節できます。アイリスリングAで調節できる機能を（カメラ設定）メニューで[アイリス]（お買い上げ時の設定）、[カメラ明るさ]から選びます（60ページ）。

ご注意
- アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち2つ以上が手動設定のとき、[逆光補正]や[スポットライト]は[切]になります。
- [AEシフト]は、アイリス、ゲイン、シャッタースピードのすべてを手動調節していると効果はありません。

アイリスを調節する

レンズに入る光量をF 1.6～F 11、クローズの範囲で調節できます。絞りを開く（アイリス値を小さくする）と光量が増えます。絞りを閉じる（アイリス値を大きくする）と、光量が減ります。
画面にアイリス値が表示されます。

① （カメラ設定）メニュー→[IRIS/EXPOSURE]→[リング割当]→[アイリス]を選ぶ（60 ページ）。
② 撮影またはスタンバイ中に AUTO/MANUAL スイッチ F を「MANUAL」にする。
③ アイリスが自動調節になっているときは、IRIS/EXPOSURE ボタン H を押す。
アイリス値の横のAが消えます（69 ページ）。または、アイリス値が表示されます。
④ アイリスリング A を回して調節する。

ちょっと一言
- アイリス値をF3.4よりも絞りを開いた（アイリス値が小さい）値（例：F1.6）に設定してもズームがW→TになるにつれてアイリスはF3.4に変化します。
- 絞りの重要な効果であるピントの合う範囲のことを「被写界深度」といいます。被写界深度は絞りを開けると浅く（ピントの合う範囲が狭く）なり、絞りを閉じると深く（ピントの合う範囲が広く）なります。撮影の意図によって絞りの効果を上手に使い分けてください。
- 背景をぼけさせたり、くっきりさせたいときに便利です。

自動調節にするには

IRIS/EXPOSUREボタンHを押す。または、AUTO/MANUALスイッチFを「AUTO」にする。
アイリス値が消えます。または、アイリス値の横にAが表示されます。

次のページへつづく→

ご注意
- AUTO/MANUALスイッチFを「AUTO」にすると、他の手動調節(ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランス)も解除されます。

カメラ明るさを調節する

カメラ明るさ調節では、画像の明るさをアイリス、ゲイン、シャッタースピードで調節できます。
シャッタースピードを任意の値に設定し、アイリス、ゲインのみで調節したり、ゲインを任意の値に設定し、アイリス、シャッタースピードのみで調節したりすることもできます。

① (カメラ設定)メニュー→[IRIS/EXPOSURE]→[リング割当]→[カメラ明るさ]を選ぶ(60 ページ)。
② 撮影またはスタンバイ中に、AUTO/MANUAL スイッチ F を「MANUAL」にする。
③ [カメラ明るさ]が自動調節になっているときは、IRIS/EXPOSURE ボタン H を押す。
自動調節していた機能の横に E が表示され、アイリスリング A での操作が可能となります。また、手動調節していた機能の設定値はそのまま保持されます。
E が表示されていないときは、以下の操作を行なえば E が表示され、アイリスリング A での操作が可能になります。
– ゲインの場合
GAINボタンCを押す。
– シャッタースピードの場合
SHUTTER SPEEDボタンDを2回押す。シャッタースピードが固定されていないときは1回押す。
④ アイリスリング A を回して、好みの明るさ設定にする。

自動調節にするには

IRIS/EXPOSUREボタンHを押す。または、AUTO/MANUALスイッチFを「AUTO」にする。
E が表示されていた機能の設定値が消えます。または、E が表示されていた機能の設定値の横に A が表示されます。

ご注意
- AUTO/MANUALスイッチFを「AUTO」にすると、アイリス、ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランスのすべてが自動調節になります。

ちょっと一言
- ゲイン値の横に E が表示されているときに、GAINボタンCを押すと、ゲイン値の横に表示されている E が消え、ゲインを任意に変更できます。もう一度押すと、E が表示され、カメラ明るさ調節に戻ります。ゲインの変更については、「ゲインを調節する」の手順③をご覧ください(30ページ)。
- シャッタースピード値の横に E が表示されているときに、SHUTTER SPEEDボタンDを押すと、シャッタースピードの横に表示されている E が消え、シャッタースピードを任意に変更できます。もう一度押すと、E が表示され、カメラ明るさ調節に戻ります。シャッタースピードの変更については、「シャッタースピードを調節する」の手順③、④をご覧ください(31ページ)。

ゲインを調節する

AGC(オートゲインコントロール)によるゲインアップを行いたくないときなどに使います。

① 撮影またはスタンバイ中に、AUTO/MANUAL スイッチ F を「MANUAL」にする。
② ゲインが自動調節になっているときは、GAIN ボタン C を押す。
ゲイン値が表示されます。または、ゲイン値の横の A が消えます。
③ ゲインスイッチ G で H/M/L を選択する。
設定されたゲイン値が表示されます。

H/M/L の値は、（カメラ設定）メニューの[ゲイン設定]でそれぞれ設定します（60 ページ）。

ちょっと一言

- ゲインを[-6dB]に設定して録画した場合、再生時にデータコード表示をすると、ゲインは[---]表示となります。

自動調節にするには

GAINボタンCを押す。または、AUTO/MANUALスイッチFを「AUTO」にする。
ゲイン値が消えます。または、ゲイン値の横にAが表示されます。

ご注意

- AUTO/MANUALスイッチFを「AUTO」にすると、他の手動調節（アイリス、シャッタースピード、ホワイトバランス）も解除されます。

シャッタースピードを調節する

シャッタースピードを自由に調節し、固定できます。被写体の動きを止めたり、逆に流動感を強調して撮影するときに便利です。

① 撮影またはスタンバイ中に、AUTO/MANUAL スイッチ F を「MANUAL」にする。

② シャッタースピード値が反転表示されるまで、SHUTTER SPEED ボタン D を押す。

③ SEL/PUSH EXECダイヤルEを回して、シャッタースピードを調節する。
1/4 秒～ 1/10000 秒の範囲で選べます。
シャッタースピードが画面に表示されます。例えば、1/100 秒にすると[100]と表示されます。画面上の数値が大きくなるほどシャッタースピードが速くなります。

④ SEL/PUSH EXECダイヤルEを押して、シャッタースピードを固定する。
再度変更したい場合は、手順 ② から ④ を行います。

ちょっと一言

- 以下のときは、シャッタースピードを1/3～1/10000秒の範囲で設定できます。
  - （カメラ設定）メニュー→[プログレッシブスキャン]の設定が[24]のとき
- シャッタースピードが遅いと、自動でピントが合いにくくなります。三脚などに固定して、手動でピントを合わせることをおすすめします。
- 蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの放電管による照明下で撮影すると、画面が明滅したり（フリッカー現象）、色が変化したりすることがあります。このようなときは、シャッタースピードを関東地方など50Hzの地域では1/100、関西地方など60Hzの地域では1/60に設定することをおすすめします。

自動調節にするには

シャッタースピード固定状態からSHUTTER SPEEDボタンDを2回押す。
または、AUTO/MANUALスイッチFを「AUTO」にする。
シャッタースピード値が消えます。または、Aが表示されます

ご注意

- AUTO/MANUALスイッチFを「AUTO」にすると、他の手動調節（アイリス、ゲイン、ホワイトバランス）も解除されます。

光量を調節する（NDフィルター）

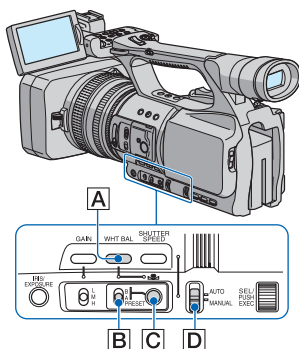
撮影状況が明るすぎるときは、NDフィルターBを使うと被写体を鮮明に撮影できます。
NDフィルター1は光量を約1/4に、NDフィルター2は約1/16に、NDフィルター3は約1/64に削減するようにそれぞれ設定されています。
アイリスを自動調節しているとき、ND1 1/4が点滅したときは、NDフィルター1に、ND2 1/16が点滅したときはNDフィルター2に、ND3 1/64が点滅したときはNDフィルター3にする。
NDフィルター表示が点滅から点灯に変わります。

次のページへつづく→

ND OFF CLR が点滅したときは、ND フィルタースイッチBを「OFF」にしてください。NDフィルター表示が消えます。

ご注意
- 撮影中にNDフィルターBを切り換えると、画像が乱れたり音声にノイズが入ることがあります。
- アイリスを手動で調節しているときは、NDフィルターの設定が必要な場合でも、NDフィルターの点滅表示が出ません。

ちょっと一言
- 明るい被写体を撮影するとき、アイリスを極端に絞ると回折現象が生じピントが甘くなることがあります。(ビデオカメラでは一般的に起こる現象です。)NDフィルターBを使うと、この現象を抑え、より良好な撮影結果を得ることができます。

自然な色合いに調節する(ホワイトバランス)

撮影する場面の光に合わせてホワイトバランスを固定するときに使います。
A(A)、またはB(B)を選ぶと、ホワイトバランスの調整値をメモリーAとBに個別に記憶させることができます。調整値は、再調整しない限り電源を切っても保持されます。

「PRESET」を選ぶと、あらかじめ(CAMERA SET)メニューの[WBプリセット]で選んだ[屋外]、[屋内]を設定できます。

1 **撮影またはスタンバイ中に、AUTO/MANUALスイッチDを「MANUAL」にする。**

2 **WHT BALボタンAを押す。**

3 **ホワイトバランスメモリースイッチBを、PRESET/A/Bのいずれかにセットする。**

表示	撮影状況例
A(メモリーA) B(メモリーB)	● メモリーA/Bそれぞれに、光源に合わせたホワイトバランスの調整値を記憶させることができます。「メモリーA,Bにホワイトバランスの調整値を記憶させるには」の手順に従ってください(32ページ)。
(屋外)	● 夜景やネオン、花火などを撮るとき ● 日の出、日没などを撮るとき ● 昼光色蛍光灯の下
(屋内)	● パーティー会場など照明条件が変化する場所 ● スタジオなどビデオライトの下 ● ナトリウムランプや水銀灯の下

メモリーA,Bにホワイトバランスの調整値を記憶させるには

① 「自然な色合いに調節する(ホワイトバランス)」の手順 **3** で A(A)または B(B)を選ぶ。

② 被写体と同じ照明条件のところで、白い紙などを画面いっぱいに映す。

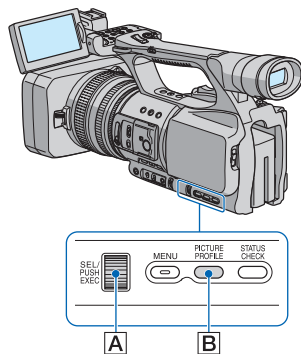
③ (ワンプッシュ)C ボタンを押す。
A または B が早い点滅に変わる。ホワイトバランスが調節されると、点滅から点灯に変わり、選んだ A または B 調整値が記憶されます。

自動調節にするには

WHT BALボタンAを押す。または、AUTO/MANUALスイッチDを「AUTO」にする。

ご注意

- AUTO/MANUALスイッチDを「AUTO」にすると、他の手動調節(アイリス、ゲイン、シャッタースピード)も解除されます。

あらかじめ設定した画像で撮る(ピクチャープロファイル)

[色のこさ]や[シャープネス]などを調節して好みの画質設定を作れます。撮影時間帯や気象条件、または使う人ごとに設定できます。
設定するときは、本機をテレビやモニターにつないで、画像を確認しながら調節してください。

お買い上げ時は、[PP1]から[PP6]に、撮影条件に合わせた設定値があらかじめ登録されています。

ご注意

- (カメラ設定)メニュー→[x.v.Color]が[入]のときは、ピクチャープロファイルは[切]に固定されます。

ピクチャープロファイル番号(設定名)	撮影条件
PP1 (USER)	お好みに合わせて登録できます。
PP2 (USER)	お好みに合わせて登録できます。
PP3 (PORTRAIT)	人物撮影向けの設定値
PP4 (CINEMA)	映画のような映像を撮影するときの設定値
PP5 (SUNSET)	夕焼けを撮影するときに適した設定値
PP6 (MONOTONE)	モノトーン撮影するときの設定値

1 スタンバイ中に、PICTURE PROFILEボタンBを押す。

2 SEL/PUSH EXECダイヤルAを回してピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

[PP1]から[PP6]まで選べます。

選択したピクチャープロファイルの設定で撮影できます。

3 SEL/PUSH EXECダイヤルAで[決定]を選んで、押して決定する。

次のページへつづく→

ピクチャープロファイル撮影をやめるには

手順**2**で［切］を選び、SEL/PUSH EXECダイヤルAを押して決定します。

ピクチャープロファイルの内容を変更するには

［PP1］～［PP6］の設定内容を変更できます。

① PICTURE PROFILE ボタン B を押す。
② SEL/PUSH EXECダイヤルAを回して、設定を変更するピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。
③ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して［設定変更］を選び、押して決定する。
④ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して調節したい項目を選び、押して決定する。
⑤ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して画質を調節し、押して決定する。
⑥ 手順④～⑤を繰り返して他の項目を調節する。
⑦ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して［ 戻る］を選び、押して決定する。
⑧ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して［決定］を選び、押して決定する。
ピクチャープロファイルの表示が出ます。

ガンマ

ガンマカーブを選ぶ。

設定項目	調節する内容
[スタンダード]	標準のガンマカーブ。
[シネマトーン1]	フィルム撮影した映像のようなトーンのガンマカーブ1。
[シネマトーン2]	フィルム撮影した映像のようなトーンのガンマカーブ2。

ブラック補正

暗部のガンマカーブ特性を選ぶ。

設定項目	調節する内容
[切]	通常の撮影
[ストレッチ]	暗部のガンマカーブ特性を上げて、暗部の階調表現を増加させる。
[コンプレス]	暗部のガンマカーブ特性を抑制して、引き締まった黒を表現する。

ニーポイント

被写体の高輝度部分の信号をカメラのダイナミックレンジに収め、白つぶれを防ぐため、ビデオ信号を圧縮しはじめるポイントを設定する。

設定項目	調節する内容
[オート]	自動でニーポイントを調整する。
[高]	ニーポイント:100%
[中]	ニーポイント:95%
[低]	ニーポイント:80%

カラーモード

発色のタイプを設定する。

設定項目	調節する内容
[スタンダード]	標準の色合い。
[シネマトーン1]	[ガンマ]が[シネマトーン1]のときに適したフィルム調の色合い。
[シネマトーン2]	[ガンマ]が[シネマトーン2]のときに適したフィルム調の色合い。

色のこさ

色の濃さを設定する。

設定項目	調節する内容
	-7(薄くなる)~+7(濃くなる)、-8:白黒で撮影する。

色相

色相を設定する。

設定項目	調節する内容
	-7(緑がかる)~+7(赤みがかる)

次のページへつづく➡

色の深さ

色の深さを変更する。
濃い色ほど効果が大きく、色のない被写体に対して変化はありません。+側にすると暗くなり、色が深く見えます。-側にすると明るくなり、色が浅く見えます。[色のこさ]を-8（モノトーン）にしたときも有効です。

設定項目	調節する内容
	-7(浅くなる)～+7（深くなる）

WBシフト

ホワイトバランスシフトを設定する。

設定項目	調節する内容
	-9（画像が青みがかる）～+9（赤みがかる）

シャープネス

被写体の輪郭を調節する。

設定項目	調節する内容
	-7（輪郭が柔らかくなる）～+7（くっきりする）

スキントーンディテール

肌色部分の輪郭をなめらかにして、しわを目立たなくする。

設定項目	調節する内容
[入/切]	[入]にすると肌色などの輪郭をなめらかにして、しわを目立たなくする。肌色以外も選択できる。
[レベル]	輪郭をなめらかにする度合いを設定する。 1（輪郭を少しなめらかにする）～8（輪郭をよりなめらかにする）
[色選択]	輪郭をなめらかにする色を選ぶ。 [範囲]：色の範囲を選ぶ。 0（選択色なし）、1（狭い：単色のみ選ぶ）～31（広い：色相と彩度の近い他の色も選ぶ） 0の場合、輪郭を滑らかにする効果はなくなります。 [ワンプッシュ取込]：センターマーカーの中心部に映した被写体に合わせて、色の対象を自動選択する。 [範囲]は変更されません。

プロファイル名

設定したピクチャープロファイル[PP1]から[PP6]に名前を付ける（37ページ）。

コピー

他のピクチャープロファイル番号に設定をコピーする。

リセット

ピクチャープロファイルをお買い上げ時の設定に戻す。

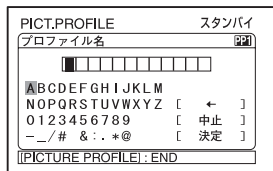
ピクチャープロファイルの各設定に名前をつけるには

[PP1]～[PP6]それぞれに任意で名前がつけられます。

① PICTURE PROFILE ボタン B を押す。

② SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して名前を設定するピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

③ SEL/PUSH EXECダイヤルAで[設定変更]→[プロファイル名]を選ぶ。

④ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して文字を選択し、押して決定する。この操作を繰り返してプロファイル名を入力する。

ちょっと一言

- 12文字までの名前をつけられます。
  使用できる文字
  – A～Z
  – 0～9
  – － _ / # & : . * @

⑤ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A で[決定]を選び、押して決定する。

プロファイル名が変更されます。

⑥ SEL/PUSH EXECダイヤルAを回して、[戻る] → [決定]を選ぶ。

ピクチャープロファイルを他のピクチャープロファイル番号にコピーするには

① PICTURE PROFILE ボタン B を押す。

② SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回してコピー元のピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

③ SEL/PUSH EXECダイヤルAで[設定変更]→[コピー]を選ぶ。

④ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回してコピー先のピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

⑤ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して[はい]を選び、押して決定する。

⑥ SEL/PUSH EXECダイヤルAを回して、[戻る] → [決定]を選ぶ。

お買い上げ時の設定に戻すには

ピクチャープロファイル番号ごとに取り消せます。すべての設定を一度に取り消すことはできません。

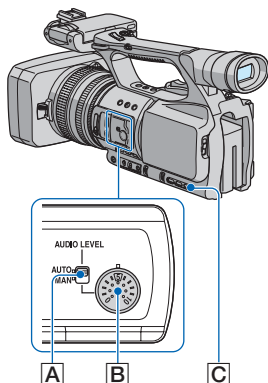
① PICTURE PROFILE ボタン B を押す。

② SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回してお買い上げ時の設定に戻したいピクチャープロファイル番号を選び、押して決定する。

③ SEL/PUSH EXEC ダイヤル A を回して[設定変更]→[リセット]→[はい]→[戻る]→[決定]を選ぶ。

次のページへつづく→

好みの音に設定する

内蔵マイク、または外部マイク入力端子にとりつけたマイクを好みの音量に調整できます。

1 **AUDIO LEVELスイッチAを「MAN」にする。**

画面に♪Mが表示されます。

2 **撮影中、またはスタインバイ中にAUDIO LEVELダイヤルBを回して、マイク音量を調節する。**

自動調節に戻すには

AUDIO LEVELスイッチAを「AUTO」にする。

ちょっと一言

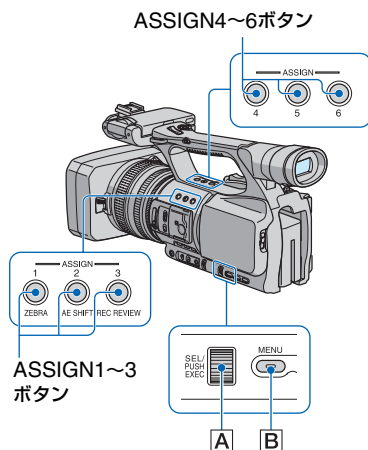
- 音声設定の詳しい情報を確認するときは、STATUS CHECKボタンCを押してください。マイク音レベルを確認することもできます。
- その他の設定については♪♪（音声設定）メニューをご覧ください（67ページ）。

ASSIGN ボタンに機能を設定する

機能によっては、ASSIGNボタンに割り当てて操作することができます。
ASSIGN1～6ボタンに1つずつ割り当てられます。

割り当てられる機能

（　）内のボタン名は、お買い上げ時に機能が割り当てられていることを示しています。

- 拡大フォーカス（75ページ）
- デジタルエクステンダー（63ページ）
- リング操作方向（60ページ）
- AEシフト（61ページ）（ASSIGN2ボタン）
- インデックス打込み（40ページ）
- 手ブレ補正（62ページ）
- 逆光補正（62ページ）
- スポットライト（62ページ）
- フェーダー（63ページ）
- なめらかスロー録画（63ページ）
- カラーバー（66ページ）
- レックレビュー（40ページ）（ASSIGN3ボタン）
- エンドサーチ操作（40ページ）
- ゼブラ（68ページ）（ASSIGN1ボタン）
- マーカー（69ページ）
- ピーキング（68ページ）
- ピクチャープロファイル（33ページ）
- ショットトランジション（41ページ）

1 MENUボタンBを押す。

2 SEL/PUSH EXECダイヤルAで（その他）メニュー→［ASSIGNボタン登録］を選ぶ。

3 SEL/PUSH EXECダイヤルAを回して設定したいASSIGNボタン番号（［ASSIGN1］～［ASSIGN6］）を選び、押して決定する。

- 機能が割り当てられていないボタンには、［------］が表示されます。
- ［ショットトランジション］を選んだときは［はい］を選んでから、手順**6**に進んでください。

4 SEL/PUSH EXECダイヤルAを回して割り当てる機能を選び、押して決定する。

撮る/見る

次のページへつづく→

5 **SEL/PUSH EXECダイヤルAを回して[決定]を選び、押して決定する。**

6 **MENUボタンBを押して、メニュー画面を消す。**

ちょっと一言
- ショットトランジションはASSIGN4/5/6ボタンに割り当てられます（41ページ）。ショットトランジションの割り当てを解除すると、設定前の割り当てに戻ります。
- ショットトランジションを解除するには、手順**3**で[ショットトランジション]→[はい]を選んでください。

インデックス信号を打ち込む

インデックス信号を打ち込んで撮影すると、その場面を頭出しできます（50ページ）。インデックスの変わり目を確認したり、インデックスごとに編集するときに便利です。

1 **ASSIGNボタンに[インデックス打込み]を設定する（39ページ）。**

2 **[インデックス打込み]を割りあてたASSIGNボタンを押す。**

撮影中に押したとき
約7秒間 が表示され、インデックス信号が記録されます。

スタンバイ中に押したとき
 が点滅します。
REC START/STOPボタンを押して録画を始めると、約7秒間 が表示され、インデックス信号が記録されます。

インデックス打ち込みを取り消すには
録画を始める前に、インデックス機能を割り当てたASSIGNボタンをもう一度押す。

ご注意
- 撮影したテープにインデックスを後から打ち込むことはできません。

テープを停止した場面を確認する（レックレビュー）

テープを停止させた場面を約２秒間再生し、確認できます。直前に撮影した映像を確認するのに便利です。

1 **ASSIGNボタンに[レックレビュー]を割り当てる（39ページ）。**

2 **スタンバイ中に、[レックレビュー]を割り当てたASSIGNボタンを押す。**

テープを停止した部分が約２秒間再生され、スタンバイに戻ります。

最後に録画した場面を頭出しする（エンドサーチ操作）

1 **ASSIGNボタンに[エンドサーチ操作]を設定する（39ページ）。**

2 [エンドサーチ操作]を割り当てたASSIGNボタンを押す。

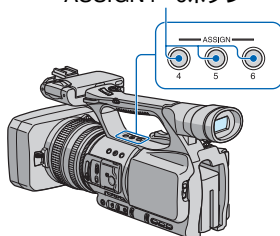
最後に録画した場面の末尾の約5秒間が再生され、最後の録音が終わった場面でスタンバイに戻ります。

ご注意

- カセットをいったん取り出すと、エンドサーチは働きません。
- テープの途中に無記録部分があると、エンドサーチが正しく働かない場合があります。

ショットトランジションを使う

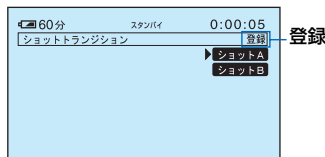
フォーカス、ズーム、アイリス、ゲイン、シャッタースピード、ホワイトバランスの設定を登録し、登録した設定へなめらかに遷移(ショットトランジション)することができます。
例えば、画面手前にフォーカスが合っている状態から徐々に画面奥の被写体にフォーカス送りをしたり、アイリスを設定して被写界深度を変化させたりできます。
また、ホワイトバランスなどの手動調節機能を登録して、屋内の被写体から屋外の被写体へと、異なる撮影環境の間もなめらかに場面を切り換えることができます。
手ブレを防ぐために三脚を使うことをおすすめします。

[ショットトランジション]で遷移カーブや遷移時間を設定できます(65ページ)。

1 ASSIGNボタンに[ショットトランジション]を設定する(39ページ)

ちょっと一言

- ショットトランジションは、ASSIGN4/5/6ボタンに同時に設定されます。

2 設定(ショット)を登録する

① ASSIGN4ボタンを繰り返し押して、ショットトランジション登録画面にする。

② 手動で設定を調節する。
各機能の調整のしかたについては、27～33ページをご覧ください。

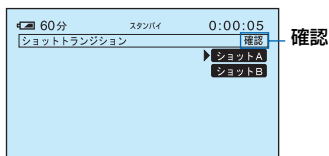
③ ショットAに登録する場合はASSIGN5ボタンを、ショットBに登録する場合はASSIGN6ボタンを押す。

ご注意

- 登録したショットA、ショットBの設定値は、POWERスイッチを「OFF(CHG)」にすると消去されます。

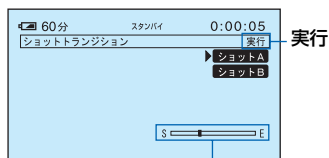
次のページへつづく➡

3 登録したショットを確認する

① ASSIGN4ボタンを繰り返し押して、ショットトランジション確認画面にする。

② ショットAを確認するにはASSIGN5ボタンを、ショットBを確認するにはASSIGN6ボタンを押す。
登録したショットの画像に変わります。フォーカスやズームなどが登録した設定に自動的に調節されます。

ご注意
- ショットトランジション確認画面では、［トランジションタイム］や［トランジションカーブ］（65ページ）で設定した時間やカーブで遷移はしません。

4 ショットトランジションを使って撮影する

① ASSIGN4ボタンを繰り返し押して、ショットトランジション実行画面にする。

② REC START/STOPボタンを押す。

③ ショットAで撮影するにはASSIGN5ボタンを、ショットBで撮影するにはASSIGN6ボタンを押す。
現在の録画設定から、登録した設定に遷移します。

ちょっと一言
- ショットトランジションを中止するには、ASSIGN4ボタンを繰り返し押して、ショットトランジションを解除してください。

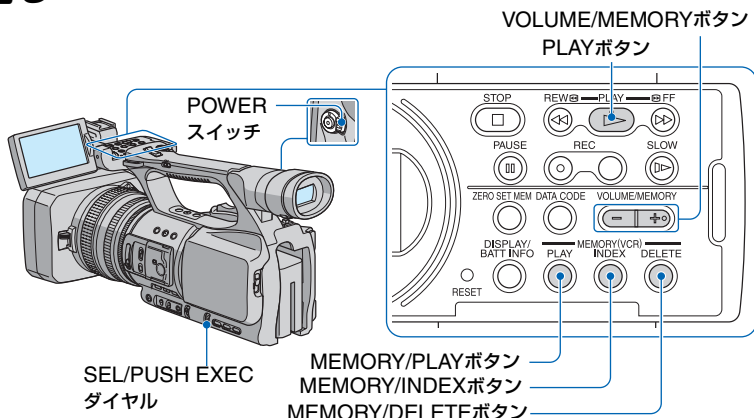
ご注意
- ショットトランジションの確認と実行操作中は、手動調節やズーム、フォーカスは働きません。
- ［ショットトランジション］（65ページ）を変更するときは、ASSIGN4ボタンを繰り返し押して、ショットトランジション画面を抜けてから変更してください。
- 任意の設定からショットトランジションを実行したとき、登録したショットA、またはショットBから元の設定に戻すことはできません。
- ショットトランジション操作中に次のボタンを押すと、ショットトランジションが解除されます。
  - PICTURE PROFILEボタン
  - MENUボタン
  - ［拡大フォーカス］を割り当てたPHOTO/EXPANDED FOCUSボタン、またはASSIGNボタン
  - STATUS CHECKボタン
  - ［なめらかスロー録画］を割り当てたASSIGNボタン

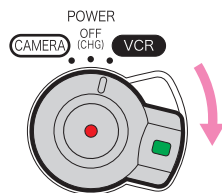
ちょっと一言
- 登録したショットAからショットBへ、またはその逆に遷移することもできます。例えばショットAからショットBに遷移するときは、ショットトランジション確認画面を表示させてASSIGN5ボタンを押して、あらかじめショットAの状態にしてから、REC START/STOPボタンを押します。次にショットトランジション実行画面を表示させてASSIGN6ボタンを押してください。
- 手順**4**でREC START/STOPボタンを押す前に、希望の設定を登録したASSIGNボタン（5

または6)を押すと、ショットトランジションのリハーサルができます。

ショットトランジションを解除するには

ASSIGN4ボタンを繰り返し押して、
ショットトランジション画面から抜ける。

見る

下記の手順で動画を再生します。

1 緑のボタンを押しながら、POWERスイッチを「VCR」にする。

2 再生を始める。

◀◀（巻戻し）ボタンを押して、見たい位置まで巻き戻し、▶（再生）ボタンを押す。

- ■：STOP
- ❚❚：PAUSE（▶または❚❚を押すと通常の再生に戻る）
- ◀◀：REW（早戻し、レビュー）
- ▶▶：FF（キュー、早送り）
- ❚▶：SLOW

ご注意

- 一時停止が3分以上続くと、自動的に停止します。
- HDV規格とDV規格が混在したテープを再生するときは、HDV規格とDV規格の信号が切り替わるときに、一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- HDV規格で記録したテープは、DV規格のビデオカメラやミニDVデッキでは再生できません。

ちょっと一言

- 再生中の画面表示については120ページをご覧ください。
- 再生中の画面表示の切り換えについては、47ページをご覧ください。
- モノラルマイクを接続して撮影したテープを再生するときは、[バイリンガル]（67ページ）をご覧ください。

● テープカウンターを「0:00:00」にするには、ZERO SET MEMボタンを押します。リモコンのZERO SET MEMORYボタンでも同様の操作が可能です（49ページ）。

動画を見ながら場面を探すには

再生中に◀◀/▶▶を押したままにする（ピクチャーサーチ）。早送り中に見るときは▶▶を、巻戻し中は◀◀を押したままにする（高速アクセス）。

音量を調節するには

VOLUME/MEMORYボタンで調節する。

静止画を見るには

① POWER スイッチを「VCR」にする。

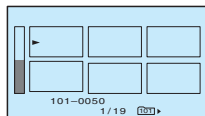
② MEMORY/PLAY ボタンを押す。

③ VOLUME/MEMORY ボタンを押して静止画を選ぶ。

静止画再生をやめるには、もう一度MEMORY/PLAYボタンを押します。

静止画を一覧表示するには（インデックス表示）

① POWER スイッチを「VCR」にする。

② MEMORY/INDEX ボタンを押す。

③ VOLUME/MEMORY ボタンを押して、画像を選ぶ。

▶を表示したい画像に合わせてMEMORY/PLAYボタンを押すと、1枚表示になります。
一覧表示をやめるには、もう一度MEMORY/INDEXボタンを押します。

“メモリースティック　デュオ”の画像を消すには

① 「静止画を見るには」の手順で削除する画像を表示させる。

② MEMORY/DELETEボタンを押す。

③ SEL/PUSH EXEC ダイヤルで、[はい]を選び、押して決定する。
画像が消去されます。

ご注意

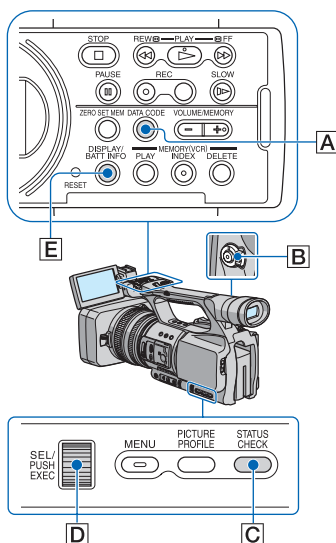
● いったん削除した画像は元に戻せません。
● “メモリースティック　デュオ”が誤消去防止になっているとき（102ページ）やプロテクトされている画像（89ページ）は削除できません。

撮る/見る

次のページへつづく➡

ちょっと一言

- インデックス表示している画像を消すには、VOLUME/MEMORYボタンで▶マークを削除したい画像に移動してから手順②と③を行ってください。
- すべての画像を消去するには、（メモリー設定）メニューの［ 全消去］（73ページ）で削除します。

本機の設定を変更／確認する

画面表示を切り換える

タイムコードなどの情報を画像とあわせて表示できます。

DISPLAY/BATT INFOボタンEを押す。

押すたびに、（非表示）↔（表示）と変わります。

ちょっと一言

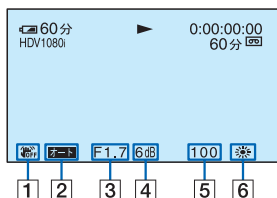
- テレビにつないで見るときは、［画面表示出力］を［ビデオ出力／パネル］または［全出力］に設定すると、テレビ画面でも同様に画面表示できます（70ページ）。

再生時に情報を表示する（データコード）

撮影時に自動的に記録された情報（日時やカメラデータ）を再生時に表示できます。

1 POWERスイッチBを「VCR」にする。

2 再生または一時停止中にDATA CODEボタンAを押す。

押すたびに、日付時刻表示→カメラデータ→（表示なし）と切り替わります。

1 手ブレ補正

2 明るさ調節
アイリス/ゲイン/シャッタースピードを自動調節で撮影すると オート 、手動調節で撮影すると マニュアル と表示されます。

3 アイリス
手動でアイリスを最大にしておくと、アイリスの場所に クローズ と表示されます。

4 ゲイン

5 シャッタースピード

6 ホワイトバランス
ショットトランジション撮影した画像を再生すると、 PWB が表示されます。

ご注意

- "メモリースティック　デュオ"の静止画再生時は、露出補正値（0EV）とシャッタースピード、アイリスが表示されます。
- 日付時刻表示のときは、同じエリアに日時が表示されます。日時、時刻を設定せずに撮影すると、［---- -- --］と［--:--:--］が表示されます。

撮る/見る

次のページへつづく→

- 本機で撮影したテープを異なる機器で再生し、カメラデータを表示させた際に、正しいシャッタースピード情報が表示されないことがあります。正しいシャッタースピードの情報は本機にてご確認ください。
- ゲインを[-6dB]に設定して録画した場合、再生時にデータコード表示をすると、ゲインは[---]表示となります。

本機の設定を確認する(ステータスチェック)

以下の項目がどのような設定値になっているかを確認できます。

- [風音低減]などの音声設定(67ページ)
- 出力に関する設定([VCR HDV/DV](71ページ)など)
- ASSIGNボタンに割り当てた機能(39ページ)
- カメラに関する設定(60ページ)

1 **STATUS CHECKボタンCを押す。**

2 **SEL/PUSH EXECダイヤルDを回して、項目を表示する。**

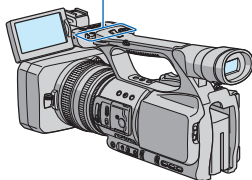
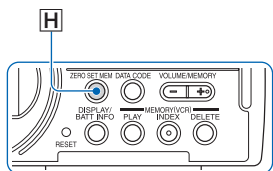
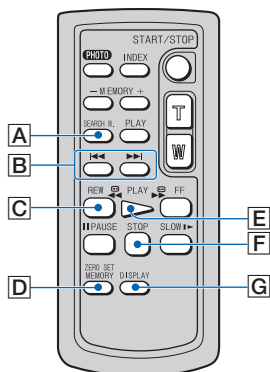
POWERスイッチが「CAMERA」のときは、オーディオ→出力→ASSIGN→カメラと切り替わります。
POWERスイッチが「VCR」のときは、オーディオ→出力→ASSIGNと切り替わります。

情報表示を消すには

STATUS CHECKボタンCを押す。

バッテリー残量を確認する(バッテリーインフォ)

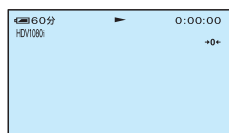
POWERスイッチを「OFF(CHG)」にしたあと、DISPLAY/BATT INFOボタンEを押すと、選択している録画フォーマットでの録画可能時間とバッテリーの情報が約7秒間表示されます。情報が表示されている間に再度ボタンを押すと、最大20秒まで表示を延長できます。

テープの頭出しをする

ご注意

- リモコンについては118ページもご覧ください。

見たい場面にすばやく戻す（ゼロセットメモリー）

1 再生中に後で頭出ししたい場面で、本機のZERO SET MEMボタンH、またはリモコンのZERO SET MEMORYボタンDを押す。

テープカウンターが「0:00:00」になり、→0← が点灯します。

テープカウンターが表示されないときは、画面表示ボタンGを押す。

2 見終わったら、STOPボタンFを押す。

3 ◀◀REWボタンCを押す。

テープカウンターが「0:00:00」付近になると、自動的に停止します。

テープカウンターがタイムコード表示に戻り、→0← が消えます。

4 PLAYボタンEを押す。

「0:00:00」の場面からもう一度再生します。

撮る/見る

次のページへつづく➡

ゼロセットメモリーを解除するには

巻き戻す前に、本機のZERO SET MEMボタンH、またはリモコンのZERO SET MEMORYボタンDをもう一度押す。

ご注意
- タイムコードとテープカウンターに多少誤差が生じることがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かないことがあります。

撮影日でテープを頭出しする(日付サーチ)

撮影日の変わり目を頭出しできます。

1 POWERスイッチを「VCR」にする。

2 リモコンのSEARCH M.ボタンAを繰り返し押して、[日付サーチ]を選ぶ。

3 リモコンの⏮(前の日付)/⏭(後の日付)ボタンBを押して、頭出しする。

現在のテープ位置に対して前後の日付を選びます。
選んだ場面で自動的に再生します。

日付サーチを中止するには

リモコンのSTOPボタンFを押す。

ご注意
- 日付の変更点の間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく頭出しできないことがあります。

録画の開始位置を探す(インデックスサーチ)

撮影開始時に打ち込んだインデックス(40ページ)を頭出しできます。

1 POWERスイッチを「VCR」にする。

2 リモコンのSEARCH M.ボタンAを繰り返し押して、[インデックスサーチ]を選ぶ。

3 リモコンの⏮(前のインデックス)/⏭(後のインデックス)ボタンBを押して、頭出しする。

現在のテープ位置に対して前後のインデックスを選びます。選んだ場面で自動的に再生します。

インデックスサーチを中止するには

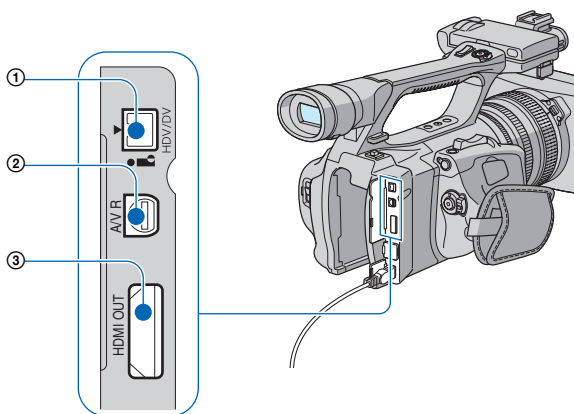
リモコンのSTOPボタンFを押す。

ご注意
- インデックスの間隔は2分以上必要です。間隔が短いと正しく頭出しできないことがあります。
- テープの途中に無記録部分があると、正しく働かない場合があります。

テレビにつないで見る

テレビの種類や接続する端子によって接続方法や再生される画質が異なります。
電源は、別売りのACアダプター/チャージャーを使ってコンセントからとってください（16ページ）。
また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。

ご注意

- 本機のメニュー設定は接続の前に行ってください。i.LINKケーブルにつないでから[VCR HDV/DV]や[i.LINK DV変換]の設定を変えると、テレビが映像信号を正しく認識できないことがあります。

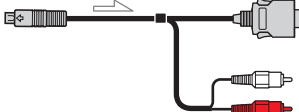
撮る/見る

ハイビジョンテレビの接続方法

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

ご注意

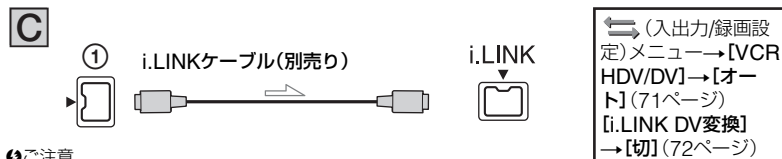
- コンポーネントプラグ(D端子)のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するには白と赤のプラグも接続してください。

:信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定

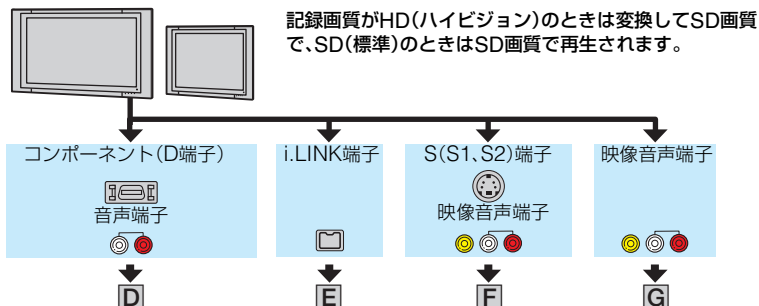
（入出力/録画設定）メニュー→[VCR HDV/DV]→[オート]（71ページ）

ご注意
- **HDMIケーブルはHDMIロゴがついているものをお使いください。**
- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、HDMI出力端子から出力することはできません。
- i.LINKでDV入力された画像（81ページ）を出力することはできません。
- 一部の機器では、映像や音声が出ないなど正常に動作しない場合があります。また、本機と接続機器の出力端子同士での接続はしないでください。故障の原因となります。

ちょっと一言
- HDMI（High Definition Multimedia Interface）とはテレビ接続機器のデジタル映像/音声信号を直接つなぐインターフェースです。HDMI端子とテレビを1本のケーブルで接続することで、高画質な映像とデジタル音声を楽しめます。

（入出力/録画設定）メニュー→[VCR HDV/DV]→[オート]（71ページ）
[i.LINK DV変換]→[切]（72ページ）

ご注意
- **テレビにはHDV1080i方式対応のi.LINK端子が必要です。詳しくはお使いのテレビの仕様をご確認ください。対応するソニー製機種の情報については、下記のURLをご覧ください。**
  http://www.sony.co.jp/cam/support
- お使いのテレビがHDV1080i方式に対応していない場合は、付属のD端子A/Vケーブルで A の接続をしてください。
- テレビに本機を認識させるためにテレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機のi.LINK端子は４ピンです。テレビ側はテレビに合わせて端子を選んでください。

次のページへつづく→

ワイドテレビ/4:3テレビの接続方法

テレビ(ワイド/4:3)に合わせて画像の比率を変えるには

ご覧になるテレビに合わせて[TVタイプ]を変更してください(72ページ)。

ご注意

- DV規格で記録したテープをワイド信号非対応の4:3テレビで再生する場合は、撮影時に[DVワイド記録]を[切]に設定してから撮影してください(72ページ)。

ちょっと一言

- モノラルテレビ(音声端子がひとつ)のときはA/V接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ(左音声)か赤いプラグ(右音声)のどちらかを音声入力へつないでください。モノラル音声で聞くときは、市販の接続ケーブルを使ってください。

⇨：信号の流れ

接続方法	本機の端子	必要なケーブル	テレビの端子	必要なメニュー設定
D	②	D端子A/Vケーブル（付属）	コンポーネント映像入力（D1） （白）（赤）音声	⇆（入出力/録画設定）メニュー→[VCR HDV/DV]→[オート]（71ページ） [コンポーネント出力]→[D1]（72ページ） [TVタイプ]→[16:9]/[4:3]*（72ページ）
E	①	i.LINKケーブル（別売り）	i.LINK	⇆（入出力/録画設定）メニュー→[VCR HDV/DV]→[オート]（71ページ） [i.LINK DV変換]→[入]（72ページ）
F	②	S映像ケーブル付きのA/V接続ケーブル（別売り）	S（S1、S2）ビデオ 映像（黄） （白）（赤）音声	⇆（入出力/録画設定）メニュー→[VCR HDV/DV]→[オート]（71ページ） [TVタイプ]→[16:9]/[4:3]*（72ページ）

D

ご注意
- コンポーネントプラグ（D端子）のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するには白と赤のプラグも接続してください。

E

ご注意
- テレビに本機を認識させるためにテレビ側の設定が必要です。詳しくはテレビの取扱説明書をご覧ください。
- 本機のi.LINK端子は４ピンです。テレビ側はテレビに合わせて端子を選んでください。

F

ご注意
- S（S1、S2）映像端子のみつないだ場合、音声は出力されません。音声を出力するにはS映像ケーブル付きのA/V接続ケーブルの白と赤のプラグも接続してください。
- A/V接続ケーブル（接続 G ）に比べ、画像をより忠実に再現できます。
- 本機はS1映像端子対応のため、つなぐ端子がSまたはS2映像端子のときは画像が正しく表示されない場合があります。その場合、テレビの設定を変更することで改善されることがあります。テレビの取扱説明書もあわせてお読みください。

次のページへつづく→

* お使いのテレビに合わせて設定してください。

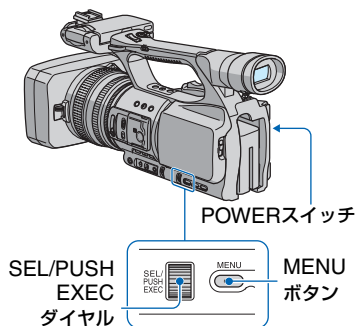
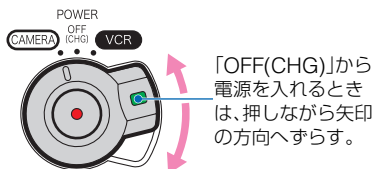
ちょっと一言

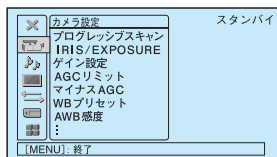
- i.LINK以外の端子から画像を出力するときに、複数のケーブルでテレビをつないでいるときは、HDMI端子→コンポーネントビデオ端子→S(S1、S2)映像端子→映像/音声端子の順で優先されます。
- i.LINKについて詳しくは105ページをご覧ください。

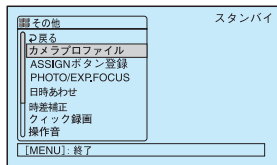
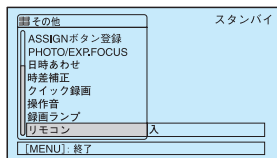
ビデオ経由でテレビにつなぐには

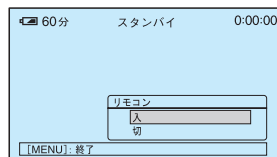
ビデオの入力端子によって77ページで接続方法を選ぶ。ビデオの外部入力端子につなぎ、ビデオに入力切り換えスイッチがある場合は「外部入力」(ビデオ1、ビデオ2など)に切り換える。

メニューの使いかた

画面に表示されるメニューで、お好みの設定やより細かい設定ができます。

1 **緑のボタンを押しながら、POWERスイッチを切り換える。**

2 **MENUボタンを押す。**

メニューインデックス画面が表示されます。

3 **SEL/PUSH EXECダイヤルを回してメニューのマークを選び、押して決定する。**

カメラ設定(60ページ)
音声設定(67ページ)
表示設定(68ページ)
入出力/録画設定(71ページ)
メモリー設定(73ページ)
その他(74ページ)

4 **SEL/PUSH EXECダイヤルを回して設定する項目を選び、押して決定する。**

設定できる項目は、POWERスイッチの位置ごとに異なります。選択できない項目は暗くなります。

5 **SEL/PUSH EXECダイヤルを回して希望の設定を選び、押して決定する。**

6 **MENUボタンを押して、メニュー画面を消す。**

[戻る]を選ぶと1つ前の階層に戻ります。

メニュー一覧

POWERスイッチの位置によって、使用可能(●)メニューが異なります。

POWERスイッチの位置:	CAMERA	VCR
(カメラ設定)メニュー(60ページ)		
プログレッシブスキャン	●	–
IRIS/EXPOSURE AS	●	–
ゲイン設定	●	–
AGCリミット	●	–
マイナスAGC	●	–
WBプリセット	●	–
AWB感度	●	–
AEシフト AS	●	–
AEレスポンス	●	–
オートアイリスリミット	●	–
フリッカー低減	●	–
コントラストエンハンサー	●	–
逆光補正 AS	●	–
スポットライト AS	●	–
手ブレ補正 AS	●	–
AFアシスト	●	–
ハンドルズームスピード	●	–
デジタルエクステンダー AS	●	–
フェーダー AS	●	–
なめらかスロー録画 AS	●	–
インターバル録画	●	–
DVコマ撮り DV	●	–
ショットトランジション AS	●	–
x.v.Color HDV1080i	●	–
カラーバー AS	●	–
(音声設定)メニュー(67ページ)		
DV音声モード DV	●	–
音声リミッター	●	–
風音低減	●	–
バイリンガル	–	●
DV音声 ミックス DV	–	●
(表示設定)メニュー(68ページ)		
ゼブラ AS	●	–
ヒストグラム	●	–
ピーキング AS	●	–
マーカー AS	●	–
EXP.FOCUSタイプ	●	–
カメラデータ表示	●	–
音声レベル表示	●	–
パネル明るさ	●	●

POWERスイッチの位置:	CAMERA	VCR
パネル色のこさ	●	●
パネルバックライトレベル	●	●
VFバックライト	●	●
VF点灯モード	●	●
メニュー文字サイズ	●	●
残量表示	●	●
画面表示出力	●	●
(入出力/録画設定)メニュー(71ページ)		
録画フォーマット	●	–
VCR HDV/DV	–	●
DV録画モード DV	●	●
DVワイド記録 DV	●	–
コンポーネント出力	●	●
i LINK DV変換	●	●
TVタイプ	●	●
(メモリー設定)メニュー(73ページ)		
全消去	–	●
フォーマット	●	●
ファイルナンバー	●	●
フォルダ作成	●	●
記録フォルダ選択	●	●
再生フォルダ選択	–	●
(その他)メニュー(74ページ)		
カメラプロファイル	●	●
ASSIGNボタン登録	●	●
PHOTO/EXP.FOCUS	●	●
日時あわせ	●	●
時差補正	●	●
再生ズーム	–	●
クイック録画 HDV1080i	●	–
操作音	●	●
録画ランプ	●	–
リモコン	●	●

(カメラ設定)メニュー

撮影状況に合わせるための設定(ゲイン設定/逆光補正/手ブレ補正など)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は57ページをご覧ください。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXEC ダイヤルで、(カメラ設定)を選択すると表示されます。

プログレッシブスキャン

垂直解像度1,080本のプログレッシブ動画を撮影できます。

▶切

24(24pSCAN)
映画と同じ1秒間24コマの動画を撮影する。

30(30pSCAN)
CM撮影などと同じ1秒間30コマの動画を撮影する。

ご注意
- 撮影した画像は60iに変換して記録されます。

IRIS/EXPOSURE AS

■ リング割当

アイリスリングに割り当てる機能を[アイリス](お買い上げ時の設定)、[カメラ明るさ]から選べます(29ページ)。

■ リング操作方向

アイリスリングの回転方向を選びます。

▶ノーマル
リングを時計回りに回すと暗くなる。

逆方向
リングを反時計回りに回すと暗くなる。

ご注意
- AUTO/MANUALスイッチを「AUTO」にしているときは、IRIS/EXPOSUREボタンは使えません。

ちょっと一言
- AUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」にしているときに[リング割当]を変更すると、アイリス、ゲイン、シャッタースピードの設定方法が以下のように変わります。
  – [リング割当]を[アイリス]から[カメラ明るさ]に変更した場合
    [アイリス]が自動調節であれば、変更後の[カメラ明るさ]は自動調節になり、[アイリス]が手動調節であれば、変更後の[カメラ明るさ]は手動調節になります。
    アイリス、ゲイン、シャッタースピードの各設定値の横に E が表示されているときにアイリスリングで調節ができます。
    ゲイン、シャッタースピードは、[カメラ明るさ]連動／手動調節の選択ができます。
  – [リング割当]を[カメラ明るさ]から[アイリス]に変更した場合
    [カメラ明るさ]が自動調節であれば、変更後の[アイリス]は自動調節になり、[カメラ明るさ]が手動調節であれば、変更後の[アイリス]は手動調節になります。
    ゲイン、シャッタースピードは、自動調節／手動調節の選択ができます。
- [リング操作方向]は、ASSIGNボタンに割り当てることができます(39ページ)

ゲイン設定

GAINスイッチ「H」「M」「L」の値を設定するときに選びます(お買い上げ時の設定は、[H]:18dB、[M]:9dB、[L]:0dB)。

① SEL/PUSH EXECダイヤルで[H][M][L]のいずれかを選ぶ。
② SEL/PUSH EXECダイヤルでゲインの値を選び、押して決定する。
　−6dB〜21dBの間で、3dB間隔で選択できます。数値が大きくなるほど、ゲインが上がります。
③ SEL/PUSH EXECダイヤルで[決定]を選ぶ。

④ MENUボタンを押して、メニュー画面を消す。

AGC リミット

オートゲインコントロール(AGC)の上限値を[切](21dB、お買い上げ時の設定)、[18dB]、[15dB]、[12dB]、[9dB]、[6dB]、[3dB]、[0dB]から選べます。

ご注意
- ゲインを手動調節していると効果はありません。

マイナスAGC

[入]に設定すると、ゲインを自動調節しているときに最適なゲイン設定でノイズの少ない撮影ができます。特に、十分な光量が得られるときは、ゲインをマイナスの領域まで変動させることで、よりノイズの少ない映像を撮影することができます。[マイナスAGC]を[入]にしても本機のダイナミックレンジが狭くなることはありません。

▶**入**
ゲインを自動調節しているときに、状況に応じてマイナスゲインになる。

切
ゲインを自動調節しているときに、マイナスゲインにならない。

WB プリセット

プリセットホワイトバランスを使うときに選びます。詳しくは32ページをご覧ください。

AWB 感度

白熱電球やろうそくなど赤みの強い光源下や、屋外の日陰など青みの強い光源下でのオートホワイトバランスの動作を設定できます。

▶**インテリジェント**
シーンの明るさに応じて自然な雰囲気になるように自動調節する。

高
赤みや青みが減る。

中

低
赤みや青みが増す。

ご注意
- ホワイトバランスが自動調節されているときのみ有効です。
- 晴天時の日向では効果がありません。

AE シフト AS

SEL/PUSH EXECダイヤルで明るさを-7(暗い)～+7(明るい)の範囲で調節できます(お買い上げ時の設定は[0])。お買い上げ時の設定以外にすると、AS と設定した数値が表示されます。

ご注意
- アイリス、シャッタースピード、ゲインのすべてを手動調節していると効果はありません。
- [カメラ明るさ]を手動調節すると、[AEシフト]は解除されます。

AE レスポンス

被写体の明るさに追従して露出を自動調整する速度を選びます。[高速]、[中速]、[低速]から選びます(お買い上げ時の設定は[高速])。

オートアイリスリミット

アイリス設定が自動のとき、絞りの上限値を[F11](お買い上げ時の設定)、[F9.6]、[F8]、[F6.8]、[F5.6]、[F4.8]、[F4]から選びます。

次のページへつづく➡

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、（カメラ設定）を選択すると表示されます。

ご注意
- アイリスを手動調節していると効果はありません。

フリッカー低減

▶入

通常の撮影時に選ぶ。電源周波数が50Hzの蛍光灯などの光源下で画面のちらつきを軽減します。

切

フリッカー低減を行わない。

ご注意
- 照明によっては低減効果が現れないことがあります。

コントラストエンハンサー

[入]に設定すると、逆光シーンなどコントラストが高い画像を検出して、画像の黒つぶれを自動で軽減します（お買い上げ時の設定は[入]）。

ご注意
- [逆光補正]を[入]にすると、設定が一時的に解除されます。

逆光補正 AS

[入]に設定すると、が表示されて逆光補正されます（お買い上げ時の設定は[切]）。

ご注意
- 逆光補正中に[スポットライト]を[入]にすると[逆光補正]は[切]になります。
- [カメラ明るさ]を手動調節すると、[逆光補正]は[切]になります。
- アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち2つ以上を手動で設定していると、[逆光補正]は[切]になります。

スポットライト AS

[入]（）に設定すると、舞台など、強い光が当たっている被写体を撮影するときに、人物の顔などが白く飛んでしまうのを防げます（お買い上げ時の設定は[切]）。

ご注意
- スポットライト中に[逆光補正]を[入]に設定すると、[スポットライト]は[切]になります。
- [カメラ明るさ]を手動調節すると、[スポットライト]は[切]になります。
- アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち2つ以上を手動で設定していると、[スポットライト]は[切]になります。

手ブレ補正 AS

■ 入/切

[入]に設定すると、手ブレ補正を使って撮影できます。三脚（別売り）を利用するときは、[切]（）にすると自然な画像になります（お買い上げ時の設定は[入]）。

■ タイプ

撮影状況に合わせて手ブレ補正の効果を選ぶことができます。

ハード

強めに手ブレ補正を働かせる。
パン・ティルト撮影には向きません。

▶スタンダード

通常の手ブレ補正を使う。

ソフト

自然な手ブレ感を残しつつ、手ブレ補正を働かせる。

ワイドコンバージョン

ワイドコンバージョンレンズ（別売り）を使って撮影する。
ソニー製のワイドコンバージョンレンズ（別売り）を使うときに最適な設定です。

AFアシスト

[入]に設定すると、オートフォーカスのとき、フォーカスリングを回して一時的に手動でピントを合わせることができます（お買い上げ時の設定は[切]）。

ハンドルズームスピード

ハンドルズーム切り換えスイッチが「FIX」のとき、ズームスピードを[1]（遅い）～[8]（速い）から選べます（お買い上げ時の設定は[3]）。

デジタルエクステンダー AS

[入]（ ）に設定すると、約1.5倍に画像を拡大表示します。デジタル処理のため画質は劣化します。野鳥などの遠方の被写体を拡大するときに便利です（お買い上げ時の設定は[切]）。

ご注意

- 本機の電源を入れなおすと自動的に[切]になります。

フェーダー AS

場面間に、効果を入れながら、つなぎ撮りできます。

① スタンバイ中（フェードインのとき）または録画中（フェードアウトのとき）に使いたい効果を選ぶ。

② REC START/STOPボタンを押す。
フェーダー表示が点灯に変わり、終了後消えます。

操作開始前に解除するには①で[切]を選ぶ。
もう一度REC START/STOPボタンを押すと、設定は解除されます。

フェードアウト　　フェードイン

ホワイトフェーダー

ブラックフェーダー

ご注意

- 本機の電源を入れなおすと[フェーダー]は自動的に解除されます。

なめらかスロー録画 AS

通常撮影では見ることができない高速な動作、現象を、なめらかなスローモーション映像として撮影します。ゴルフ、テニスなどの速い動きの撮影時に便利です。

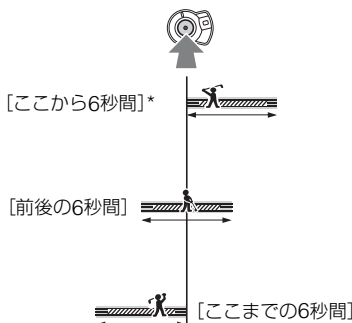
[実行]を選んでから[なめらかスロー録画]画面で、REC START/STOPボタンを押す。
約6秒間の記録が、約24秒間のスローモーション映像として録画されます。[テープに録画中]が消えると録画が完了します。

解除するにはMENUボタンを押します。

ASSIGNボタンを押して[なめらかスロー録画]を実行した場合は、そのASSIGNボタンをもう一度押して解除することもできます。ASSIGNボタンの使い方は、39ページをご覧ください。
撮影状況にあわせて[なめらかスロー録画]の設定を選ぶことができます。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、（カメラ設定）を選択すると表示されます。

■ タイミング

[タイミング]を選択すると、REC START/STOPボタンを押して記録を開始するタイミングを選択できます。

* お買い上げ時の設定は[ここから 6 秒間]です。

■ 音声トリガー

[入]を選択すると、REC START/STOPボタンを押す代わりに、音に反応して自動的に記録を開始することができます。（お買い上げ時の設定は[切]）。

[音声トリガー]の設定は、電源を入れなおすと自動的に解除されます。

■ 記録開始音レベル

[音声トリガー]の反応音のレベルを[大]、[中]、[小]から選択することができます（お買い上げ時の設定は[大]）。

ご注意

- 音声は記録されません。
- 録画時間は条件により設定した時間より短くなることがあります。
- 通常撮影時より画質は劣化します。

ちょっと一言

- [音声トリガー]を[入]に設定しているときは、REC START/STOPボタンで録画を開始することもできます。
- マイク音量を手動で小さく設定している場合は、[音声トリガー]が動作しないことがあります。[記録開始音レベル]を[中]または[小]に設定することをおすすめします。

インターバル録画

一定時間ごとにテープへ画像を録画します。雲の動きや日照変化などを観察するときに便利です。再生するとなめらかに見えます。長時間撮影時は、ACアダプター/チャージャーから電源をとってください。

① SEL/PUSH EXECダイヤルで[入/切]→[入]を選ぶ。

② １回の録画時間をお買い上げ時の設定（[0.5秒]）から変更する場合は次の手順を行う。変更しない場合は、③に進む。
SEL/PUSH EXECダイヤルで[録画タイム]→[0.5秒]、[1秒]、[1.5秒]、[2秒]から録画時間を選ぶ。

③ インターバル時間をお買い上げ時の設定（[30秒]）から変更する場合は次の手順を行う。変更しない場合は、④に進む。
SEL/PUSH EXECダイヤルで[ウェイトタイム]→[30秒][1分]、[5分]、[10分]からインターバル時間を選ぶ。

④ SEL/PUSH EXECダイヤルで[決定]を選ぶ。

⑤ MENUボタンを押して、メニュー画面を消す。

⑥ REC START/STOPボタンを押す。
インターバル録画が始まります。

中止するにはREC START/STOPボタンを押す。

REC START/STOPボタンを押すタイミングによって、以下のように動作します。
インターバル録画実行中に押したときは、インターバル録画を一時停止します。もう一度押すと、インターバル録画が始まります。
インターバル録画のインターバル中に押したときは、インターバル録画は停止し

通常の録画が始まります。もう一度押すと通常録画が中止され、さらにもう一度押すとインターバル録画が始まります。解除するにはSEL/PUSH EXECダイヤルで[入/切]→[切]を選ぶ。

ご注意
- 録画時間とインターバル時間は、それぞれの設定時間と若干の誤差が生じることがあります。
- 手動でピントを合わせておくと、光が変化してもぼやけずに撮影できます。
- 撮影時の効果音は、[操作音]で消すことができます(76ページ)。

DV コマ撮り DV

本機を固定した状態で人形やおもちゃなどを少しずつ動かしながらコマ撮りをすると、アニメーションのような効果を出せます。リモコンを使うと手ブレを防げます。

▶切
通常の撮影をする。

入(⏵)
コマ撮りする。

① SEL/PUSH EXEC ダイヤルを回して[入]を選び、押して決定する。
② MENUボタンを押して、メニュー画面を消す。
③ REC START/STOPボタンを押す。
1コマ(約6フレーム)分を撮影し、スタンバイに戻ります。
④ 被写体を動かし、手順③を繰り返す。

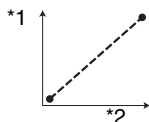
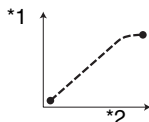
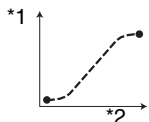
ご注意
- 連続してコマ撮りをすると、テープ残量は正しく表示されません。
- 最終カットは通常の1コマよりも長くなります。
- コマ撮り中にはインデックスは打ち込めません。
- 本機の電源を入れなおすと自動的に[切]になります。

ショットトランジション AS

ショットトランジションの[トランジションタイム]と[トランジションカーブ]を設定するときに選びます。ショットトランジションの操作方法については、41ページをご覧ください。

■ トランジションタイム
遷移時間を[3.5秒]～[90.0秒]から選びます(お買い上げ時の設定は[4.0秒])。

■ トランジションカーブ
遷移カーブを選びます。
各モードのトランジションカーブは図のように遷移します。
* 1:パラメーター量
* 2:時間の遷移

リニア
直線的に遷移したいときに選びます。

▶ソフトストップ
終了地点付近をゆっくり遷移したいときに選びます。

ソフトトランジション
開始と終了地点付近はゆっくり遷移し、中間は直線的に遷移したいときに選びます。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、（カメラ設定）を選択すると表示されます。

ご注意

- ショットトランジション登録/確認/実行中は［トランジションタイム］、［トランジションカーブ］の設定変更はできません。ASSIGN4ボタンを繰り返し押して、ショットトランジションの設定を解除してから設定変更してください。

x.v.Color HDV1080i

［入］に設定して撮影すると、より広い色域で記録できます。今までは表現できなかった鮮やかな花の色や、南国の海の美しい青緑色などを再現することが可能になります。

ご注意

- ［入］にして撮影した画像をx.v.Colorに非対応のテレビで再生すると、色が正しく再現されない場合があります。
- 次のとき［x.v.Color］は設定できません。
  - －SD（標準）画質で記録するとき
  - －動画を撮影中
- ［x.v.Color］が［入］のとき、ピクチャープロファイルは無効になります。

カラーバー AS

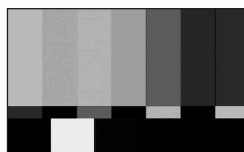
■ 入/切

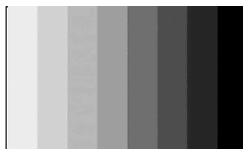
［入］に設定するとカラーバーを表示したり、テープに記録することができます。本機で撮影した画像をテレビやモニターで見るときに、カラーバーを見ながら色味を調節するときに便利です（お買い上げ時の設定は［切］）。

ご注意

- 本機の電源を入れなおすと自動的に［切］になります。

■ タイプ

カラーバーのタイプを選べます。

タイプ1

タイプ2

タイプ3

タイプ4
（タイプ3に対して輝度75%）

♪(音声設定)メニュー

録音に関する設定(DV音声モード/DV音声ミックスなど)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は57ページをご覧ください。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、♪(音声設定)を選択すると表示されます。

DV 音声モード DV

12BIT(♪12b)
12ビット(2つのステレオ音声)で記録する。

▶16BIT(♪16b)
16ビット(高音質で1つのステレオ音声)で記録する。

ご注意
- HDV規格のときは、自動的に[16BIT]で記録されます。

音声リミッター

音割れ防止機能の設定をします。

▶**切**
機能を使わないときに選ぶ。

入
機能を使うときに選ぶ。

ご注意
- AUDIO LEVELスイッチが「MAN」のときのみ有効です。

風音低減

▶**入**
内蔵マイクの風音低減をするときに選ぶ。

切
内蔵マイクの風音低減をしないときに選ぶ。

バイリンガル

他機で二重音声(またはステレオ音声)で記録したテープを、本機で再生するときの音声が選べます。

▶**切**
主＋副音声(またはステレオ音声)で再生する。

メイン
主音声(または左音声)で再生する。

サブ
副音声(または右音声)で再生する。

ご注意
- 本機は二重音声を再生できますが、記録はできません。

DV 音声ミックス DV

他機でアフレコや4CHマイク録音したテープの音声を再生時に確認できます。アフレコしたテープの再生時に、出力される音声を選びます。

▶ST1
撮影時の音声のみを出力するときに選ぶ。

ミックス
撮影時の音声とアフレコ音声を合成して出力するときに選ぶ。

ST2
アフレコした音声のみを出力するときに選ぶ。

ご注意
- [DV音声モード]を[16BIT]に設定して記録されたテープを再生するときは、この機能は無効です。

（表示設定）メニュー

画面/ファインダーの表示設定（マーカー/VFバックライト/画面表示出力など）

▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は57ページをご覧ください。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、（表示設定）を選択すると表示されます。

ゼブラ AS

明るさ調整をするときの目安にすると便利です。

■ 入/切

[入]にすると、 とレベルが表示されます。テープや"メモリースティック　デュオ"にゼブラは記録されません。

■ レベル

輝度レベルを70〜100または100+から選べます。

ちょっと一言

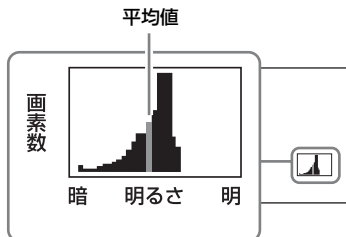
- ゼブラとは、画面に映る画像の中で、設定した輝度レベル部分に表示される縞模様のことです。

ヒストグラム

ヒストグラム（画像の明るさの分布を表した図（グラフ））を見ながら、アイリスを調節できます（29ページ）。明るさを調節するときの目安にすると便利です。テープや"メモリースティック　デュオ"にヒストグラムは記録されません。

▶切
ヒストグラムを表示しない。

ノーマル
ヒストグラムを表示する。

アドバンス
ヒストグラム上に画像の中心部（マーカー表示部分）の平均値を示すバーを表示する。

ちょっと一言

- グラフの左側は画面の暗い部分、右側は明るい部分を示します。
- ゼブラ設定時には、ヒストグラム上にガイドが表示されます。

ピーキング AS

■ 入/切

[入]（ピーキング）に設定すると、画面上に画像の輪郭が強調して表示されるので、ピントが合わせやすくなります（お買い上げ時の設定は[切]）。

■ 色

ピーキングの色を[白]、[赤]、[黄]から選べます（お買い上げ時の設定は[白]）。

■ レベル

ピーキング感度を[高]、[中]、[低]から選べます（お買い上げ時の設定は[中]）。

ご注意

- 輪郭強調された画像はテープや"メモリースティック　デュオ"に記録されません。

ちょっと一言

- 拡大フォーカス（28ページ）と一緒に使うと、ピントが合わせやすくなります。

マーカー AS

■ 入/切

[入]にするとマーカーが表示されます(お買い上げ時の設定は[切])。
テープや"メモリースティック デュオ"にマーカーは記録されません。

■ センター

[入]にすると画面の中心にマーカーを表示する(お買い上げ時の設定は[入])。

■ ガイドフレーム

[入]に設定すると、フレームを表示して被写体が水平/垂直になっているかを確認できる(お買い上げ時の設定は[切])。

ご注意

- マーカー表示中は、画面表示を外部出力することはできません。

ちょっと一言

- [センター]、[ガイドフレーム]を同時に表示できます。
- ガイドフレームの交差点に被写体を置くと、バランスの良い構図になります。
- マーカー表示は、LCDパネルとファインダーのみに表示されます(外部に出力することはできません)。

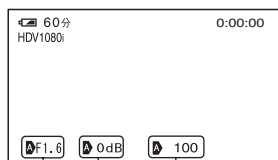
EXP.FOCUS タイプ

拡大フォーカスの表示方法を設定できます。

▶タイプ1
画像をそのまま拡大する。

タイプ2
画像を白黒にして拡大する。

カメラデータ表示

[入]に設定するとアイリス、シャッタースピード、ゲインの値を常に表示します(お買い上げ時の設定は[切])。

ちょっと一言

- カメラデータ表示の設定にかかわらず、マニュアル設定時は設定値が表示されます。
- A は自動設定されていることを示します。
- DATA CODEボタンを押したときに表示される項目とは異なります(47ページ)。

音声レベル表示

画面にオーディオレベルメーターが表示されます。(お買い上げ時の設定は[入])。

パネル明るさ

SEL/PUSH EXECダイヤルで、液晶画面の明るさを調節できます。録画される画像に影響はありません。

ちょっと一言

- 液晶画面バックライトを消すこともできます(19ページ)。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、(表示設定)を選択すると表示されます。

パネル色のこさ

SEL/PUSH EXECダイヤルで、液晶画面の濃さを調節できます。録画される画像に影響はありません。

パネルバックライトレベル

液晶画面バックライトの明るさを調節できます。

▶ **ノーマル**
通常の設定(標準の明るさ)。

明るい
画面が暗いと感じたときに選ぶ。

ご注意
- コンセントにつないで使うと、設定は自動的に[明るい]になります。
- [明るい]を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が若干短くなります。

VF バックライト

ファインダーの明るさを調節できます。

▶ **ノーマル**
通常の設定(標準の明るさ)。

明るい
ファインダーが暗いと感じたときに選ぶ。

ご注意
- コンセントにつないで使うと、設定は自動的に[明るい]になります。
- [明るい]を選ぶと、バッテリー撮影可能時間が若干短くなります。

VF 点灯モード

▶ **オート**
液晶画面を閉じたときと対面撮影時に、ファインダーが点灯する。

入[常時]
常にファインダーが点灯する。

メニュー文字サイズ

▶ **ノーマル**
通常の大きさでメニュー表示する。

2x
選択されたメニュー項目を縦2倍角で表示する。

残量表示

▶ **オート**
次のときにテープ残量を約8秒間表示する。
- カセットが入った状態でPOWERスイッチを「VCR」か「CAMERA」にしたとき
- ►(再生)ボタンまたはDISPLAY/BATT INFOボタンを押したとき

入
テープ残量を常に表示する。
新品のテープやテープトップまで巻き戻したテープを挿入したときは、テープ残量は表示されません。テープの再生や録画を開始すると、テープ残量が表示されます。

画面表示出力

タイムコードなどの画面表示の出力先を設定します。

▶ **パネル**
ファインダーと液晶画面に出力する。

ビデオ出力/パネル
ファインダー、映像音声出力と液晶画面に出力する。

全出力
ファインダー、HDMI出力、コンポーネント出力、映像音声出力と液晶画面に出力する。

ご注意
- [マーカー]が[入]のときは、ファインダーと液晶画面にのみ画面表示が出力されます。

⇆（入出力/録画設定）メニュー

録画、入出力に関する設定（VCR HDV/DV/DV録画モード/DVワイド記録/TVタイプなど）

▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は57ページをご覧ください。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、⇆（入出力/録画設定）を選択すると表示されます。

録画フォーマット

撮影する録画規格を選択できます。

▶HDV1080i（HDV1080i）
HDV規格の1080i方式で撮影する。

DV（DV）
DV規格で撮影する。
DV規格で撮影するときは、[DV録画モード]も設定する。

ご注意
- 撮影中の画像をi.LINK出力するときは、必要に応じて[i.LINK DV変換]（72ページ）もあわせて設定してください。

VCR HDV/DV

再生するときの信号を選びます。通常は[オート]に設定してください。
i.LINKケーブル接続時は HDV/DV端子（i.LINK）から入力/出力する信号を選びます。ここで選択した信号をテープに記録/再生します。

▶オート
テープ再生時、自動でHDV/DV規格の信号を切り換えて、再生する。
i.LINK接続時は、自動でHDV/DV規格の信号に切り換えて、 HDV/DV端子（i.LINK）から入出力して、記録/再生する。

HDV（HDV1080i）
テープ再生時、HDV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時はHDV規格の信号のみを HDV/DV端子（i.LINK）から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続するときに選ぶ。

DV（DV）
テープ再生時、DV規格で記録された部分のみ再生する。
i.LINK接続時はDV規格の信号のみを HDV/DV端子（i.LINK）から入出力して、記録/再生する。また、パソコンなどと接続するときに選ぶ。

ご注意
- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。
- [オート]を選ぶと、HDVとDVの信号が切り替わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- [i.LINK DV変換]が[入]になっているときは、次の信号が出力されます。
  – [オート]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号はそのまま出力されます。
  – [HDV]のときは、HDV信号はDVに変換され、DV信号の部分は出力されません。
  – [DV]のときは、DV信号はそのまま出力され、HDV信号の部分は出力されません。

DV 録画モード DV

[録画フォーマット]が[DV]のときに有効です。

▶SP（SP）
テープへSP（標準）モードで録画する。

LP（LP）
テープへSPモードの1.5倍の録画時間で長時間録画する。

ご注意
- LPモードで録画したテープを他機で再生すると、モザイク状のノイズが現れたり、音声が途切れたりすることがあります。

次のページへつづく➡

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、(入出力/録画設定)を選択すると表示されます。

- テープの途中でSP/LPモードを切り換えると、画像が乱れたり、タイムコードが正しくつながらないことがあります。
- HDV規格で録画するときは、LPモードに切換えられません。

DV ワイド記録 DV

つなぐテレビの画像の比率に合った画像サイズで撮影できます。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

▶入
ワイド(16:9)テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

切(4:3)
4:3テレビ画面いっぱいに映るように撮影する。

ご注意
- 再生時に接続するテレビに合わせて[TVタイプ]を正しく設定してください(72ページ)。
- HDV規格で録画する場合は、画像サイズは16:9に固定され、4:3にできません。

コンポーネント出力

D端子のあるテレビとつなぐときに選びます。

D1
D1/D2端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

▶D3
D3/D4/D5端子があるテレビとつなぐときに選ぶ。

i.LINK DV 変換

HDV規格の信号をDV規格に変換してHDV/DV端子(i.LINK)から出力します。

▶切
[録画フォーマット]と[VCR HDV/DV]の設定に従って、HDV/DV端子(i.LINK)から信号を出力する。

入
HDV/DV端子(i.LINK)から出力される信号は、HDV規格の場合はDV変換され、DV規格の場合はそのままDV規格で出力する。

ご注意
- i.LINK入力については、[VCR HDV/DV]をご覧ください(71ページ)。
- 設定を変える前に、必ずi.LINKケーブルを抜いてください。つないだまま設定を変えると、ビデオ機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

TV タイプ

テレビで見るときに、使用するテレビにあわせて信号の変換が必要です。撮影した画像は下記のように再生されます。

▶16:9
ワイドテレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像
DV(16:9)規格画像　**DV(4:3)規格画像**

4:3
4:3テレビで再生するときに選ぶ。

HDV規格画像
DV(16:9)規格画像　**DV(4:3)規格画像**

ご注意
- i.LINKの出力には無効です。
- ID-1対応テレビやテレビのS(S1、S2)映像入力端子につないで再生する場合、[TVタイプ]を[16:9]に設定してください。テレビが自動的に再生画像の比率に切り替わります。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

（メモリー設定）メニュー

“メモリースティック　デュオ”に関する設定（全消去/フォーマットなど）

▶は、お買い上げ時の設定。
（　）内の表示が画面に出ます。
操作方法は57ページをご覧ください。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、（メモリー設定）を選択すると表示されます。

全消去

プロテクトのかかっていない“メモリースティック　デュオ”内または選択フォルダ内の全画像を消します。

① ［全ファイル］か［フォルダ内］を選ぶ。
［全ファイル］：“メモリースティック　デュオ”内のすべての画像を消去。
［フォルダ内］：選択しているフォルダ内のすべての画像を消去。

② SEL/PUSH EXECダイヤルで［はい］→［はい］を選ぶ。
［　全消去中です］と表示される。プロテクトのかかっていないすべての画像が消去されると、［完了しました］と表示される。

ご注意

- 誤消去防止スイッチのある“メモリースティック　デュオ”は、誤消去防止を解除する（102ページ）。
- 全消去しても、フォルダは消去されません。
- ［　全消去中です］が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – POWERスイッチ/ボタン操作
  – “メモリースティック　デュオ”の取り出し

フォーマット

“メモリースティック　デュオ”はお買い上げ時にフォーマット済みのため、フォーマットする必要はありません。
フォーマットを実行するには［はい］→［はい］の順に選ぶ。

ご注意

- ［　フォーマット中です］が表示されているとき、次の操作はしないでください。
  – POWERスイッチ/ボタン操作
  – “メモリースティック　デュオ”の取り出し
- 新しく作成したフォルダやプロテクトのかかっている画像もすべて消去されます。

ファイルナンバー

▶**連番**
“メモリースティック　デュオ”を取り換えても、ファイル番号を連続して付ける。フォルダを新しく作成、または記録先フォルダを変更した場合はリセットされる。

リセット
“メモリースティック　デュオ”ごとに、ファイル番号を0001から付ける。

フォルダ作成

［はい］を選ぶと“メモリースティック　デュオ”内に、新フォルダ（102MSDCF～999MSDCFまで）を作成できます。1つのフォルダの静止画が9,999枚になると、自動的に新フォルダを作成します。

ご注意

- 1度作成した新フォルダは、本機で削除できません。“メモリースティック　デュオ”をフォーマットするか（73ページ）、パソコンなどで削除してください。
- フォルダが増えると、“メモリースティック　デュオ”の残量が減ることもあります。

記録フォルダ選択

SEL/PUSH EXECダイヤルで記録するフォルダを選んでSEL/PUSH EXECダイヤルを押す。

ちょっと一言

- お買い上げ時の設定では、ファイルは「101MSDCF」に記録されます。

次のページへつづく→

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、(メモリー設定)を選択すると表示されます。

- いったん画像を記録すると、そのとき選ばれている記録先フォルダが、再生フォルダに設定されます。

再生フォルダ選択

SEL/PUSH EXECダイヤルで再生するフォルダを選んでSEL/PUSH EXECダイヤルを押す。

(その他)メニュー

テープ撮影時の設定や、各種基本設定(クイック録画/操作音など)

▶は、お買い上げ時の設定。
(　)内の表示が画面に出ます。
操作方法は57ページをご覧ください。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、(その他)を選択すると表示されます。

カメラプロファイル

カメラの設定内容をカメラプロファイルとして本機内に2つまで保存できます。保存した設定を使って適切なセットアップ状態をすばやく再現できます。

ちょっと一言

- カメラプロファイルで保存される項目はメニュー、ピクチャープロファイル、ボタンなどの設定値です。これらの設定値をまとめてカメラプロファイルに保存します。

■ カメラプロファイルを読み込む

カメラプロファイルを読み込んで、設定を実行します。

① SEL/PUSH EXEC ダイヤルで[読み込み]を選ぶ。
② SEL/PUSH EXEC ダイヤルで読み込むカメラプロファイルを選ぶ。
③ 確認画面で[はい]を選択する。
いったん本機が再起動して、選択したカメラプロファイルが反映される。

■ カメラプロファイルを保存する

① SEL/PUSH EXEC ダイヤルで[保存]を選ぶ。
② SEL/PUSH EXEC ダイヤルで、[新規保存]、または既存のプロファイル名を選ぶ。
③ SEL/PUSH EXEC ダイヤルで、確認画面で[はい]を選ぶ。

カメラプロファイルが保存されます。

ちょっと一言

- [新規保存]した場合は、プロファイル名は[CAM1]または[CAM2]になります。

- 既存のカメラプロファイルを保存先に選んだ場合は上書き保存されます。

■ プロファイル名を変える

保存したカメラプロファイルの名前を変えられます。

① SEL/PUSH EXECダイヤルで[プロファイル名]を選ぶ。

② SEL/PUSH EXEC ダイヤルで名前を変えるカメラプロファイルを選ぶ。
プロファイル名画面になる。

③ SEL/PUSH EXEC ダイヤルで名前を入力する。

ちょっと一言

- 名前の入力方法はピクチャープロファイルの名前の設定方法と同じです(37ページ)。

④ SEL/PUSH EXEC ダイヤルで[決定]を選び、押して決定する。
プロファイル名が変更されます。

■ カメラプロファイルを削除する

① SEL/PUSH EXEC ダイヤルで[削除]を選ぶ。

② SEL/PUSH EXEC ダイヤルで削除するカメラプロファイルを選ぶ。

③ 確認画面で[はい]を選択する。

ASSIGN ボタン登録

39ページをご覧ください。

PHOTO/EXP.FOCUS

PHOTO/EXPANDED FOCUSボタンに割り当てる機能を選びます。

▶フォト
PHOTO(フォト)ボタンとして機能します(25ページ)。

拡大フォーカス
EXPANDED FOCUS(拡大フォーカス)ボタンとして機能します(28ページ)。

ご注意

- [拡大フォーカス]を選択した場合、静止画の記録は本機のボタンでは出来なくなります。リモコンのPHOTOボタンをご使用ください。

日時あわせ

21ページをご覧ください。

時差補正

海外で使うときは、SEL/PUSH EXECダイヤルで時差を設定し、現地時刻に合わせる。時差を0に設定すると元の設定に戻ります。

再生ズーム

[入]に設定すると、再生中の動画をハンドルズームレバーで約1.1倍~約5倍の範囲で拡大表示できます(お買い上げ時の設定は[切])。静止画の再生時は、約1.5倍~約5倍の範囲で拡大表示できます。
終了するには、ハンドルズームレバーのW側を押し続けてください。

ちょっと一言

- 再生ズーム中に、SEL/PUSH EXECダイヤルを押してから回すと、左右にズーム位置を変更できます。SEL/PUSH EXECダイヤルをもう一度押してから回すと、上下にズーム位置を変更できます。

クイック録画 HDV1080i

[入]に設定すると、POWERスイッチが「OFF(CHG)」の状態から録画を再開するときに、撮影開始までの時間を少し短縮することができます。

▶切
撮影開始までの時間は少しかかるが、つなぎめがきれいに撮れる。

MENUボタンを押す→SEL/PUSH EXECダイヤルで、(その他)を選択すると表示されます。

入(Q.REC)
POWERスイッチが「OFF(CHG)」の状態からの撮影開始時間を短縮できる。録画チャンスを逃したくないときに選ぶ。

ちょっと一言
- [入]にすると、場面と場面の間が一瞬止まります。(パソコンでの編集をおすすめします。)
- 撮影スタンバイの状態が約3分以上続くと、自動的にドラムの回転が止まり、スタンバイ状態が解除されます。これはテープを保護し、バッテリーの消耗を防ぐためです。録画を再開するには、もう一度REC START/STOPボタンを押してください。

操作音

▶入
撮影スタート/ストップ時の操作時などにメロディが鳴る。

切
操作音を出さない。

録画ランプ

[切]に設定すると、録画ランプが撮影中に点灯しないようにできます(お買い上げ時の設定は[入])。

リモコン

[入]に設定すると、付属のワイヤレスリモコン(118ページ)が使えます(お買い上げ時の設定は[入])。

ちょっと一言
- [切]に設定すると、他機のリモコンによる誤動作を防げます。

他のビデオ、DVD/HDDレコーダーにダビングする

電源は、別売りのACアダプター/チャージャーを使ってコンセントからとってください（16ページ）。
また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

接続する

ビデオ、DVD/HDD機器の種類や接続する端子によって、接続方法や取り込まれる画質が異なります。

本機の端子について

端子カバーを開けて接続してください。

* DV規格で撮影した画像は、どの接続でもSD（標準）画質でダビングされます。

** モノラル（ひとつの音声入力）の場合は、A/V接続ケーブルの黄色いプラグを映像入力へ、白いプラグ（左音声）または赤いプラグ（右音声）を音声入力へつないでください。

ご注意

- HDMIケーブルを使ってのダビングはできません。

i.LINKケーブル（別売り）でつなぐときは

ダビングされる画像の規格（HDVまたはDV）は、撮影した画像や相手機器が対応している規格によって異なります。下記の表でダビングしたい規格を選び、必要なメニュー設定を行ってください。

ご注意

- メニュー設定を変える前に、i.LINKケーブルを抜いてください。つないでから設定を変えると、ビデオ/DVD機器が映像信号を正しく認識できないことがあります。

ちょっと一言

- 本機のi.LINK端子は４ピンです。接続する機器側の端子は、接続する機器に合わせてください。

ダビングしたい規格	本機で撮影した画像の規格	相手機器の対応規格		メニュー設定	
		HDV規格*1	DV規格	[VCR HDV/DV]（71ページ）	[i.LINK DV変換]（72ページ）
HDV画像をHDVでダビング	HDV	HDV	–*3	[オート]	[切]
HDV画像をDVに変換してダビング	HDV	DV	DV		[入]
DV画像をDVでダビング	DV	DV	DV		[切]
HDV規格とDV規格が混在したテープのときは					
HDV、DVどちらもDVに変換してダビング	HDV/DV	DV	DV	[オート]	[入]
HDV規格で撮影した部分のみダビング	HDV	HDV	–*3	[HDV]	[切]
	DV	–*2	–*3		
DV規格で撮影した部分のみダビング	HDV	–*2	–*2	[DV]	[切]
	DV	DV	DV		

*1 HDV1080i方式に対応している機器です。
*2 無記録部分としてダビングします（画像、音声は記録されません）。
*3 画像を認識できません（無記録状態になります）。

ご注意

- [VCR HDV/DV]が[オート]のときは、HDVとDVの信号が切り替わるときに一時画面が消えて、画像と音声が途切れます。
- 録画側にHDR-FX1000を使用する場合は、[VCR HDV/DV]を[オート]にしてください（71ページ）。
- 再生側と録画側の両方にHDR-FX1000などのHDV1080i方式対応機器を使用して、i.LINKケーブルで接続したときは、録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。
- A/V接続ケーブルでつなぐときは、[画面表示出力]を[パネル]（お買い上げ時の設定）にしてください（70ページ）。

S（S1、S2）端子付きのA/V接続ケーブル（別売り）でつなぐときは

映像プラグ（黄色）のかわりにS（S1、S2）映像端子を接続してください。A/V接続ケーブルでの接続に比べ、画像をより忠実に再現できます。DV方式の高解像度を生かすためにはこの接続を行ってください。S映像ケーブルのみをつないだ場合、音声は出力されません。

次のページへつづく➡

ダビングする

1 本機(再生側)の準備をする。

撮影済みのカセットを入れる。
POWERスイッチを「VCR」にする。

再生機器(テレビなど)に合わせて、[TVタイプ]を設定してください(72ページ)。

2 ビデオ(録画側)の準備をする。

ビデオは録画用カセット、DVDレコーダーは録画用DVDを入れる。

入力切り換えスイッチがある場合は「入力」(ビデオ1、ビデオ2入力など)にする。

3 本機とビデオ/DVD機器などをつなぐ。

接続について詳しくは、77ページをご覧ください。

4 本機で再生を始め、ビデオ/DVD機器などで録画する。

詳しくは、ビデオ/DVD機器などの取扱説明書をご覧ください。

5 ダビングが終わったら、ビデオ/DVD機器の録画を停止し、本機の再生を停止する。

ご注意

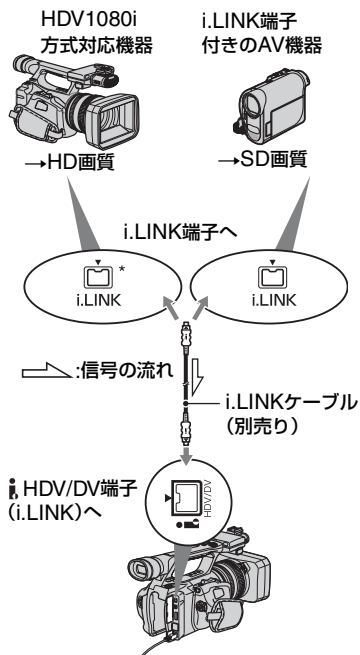
- HDV/DV端子(i.LINK)接続では、次のものは録画されません。
  - 画面表示
  - 他機で付けたタイトル
- HDV規格の場合は、再生一時停止中の画像や変速再生している画像はHDV/DV端子(i.LINK)から出力されません。
- i.LINKケーブル接続時は、次のことにご注意ください。
  - 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  - ご使用する機器やアプリケーションなどによっては日時やカメラデータが表示、記録されないことがあります。
  - 映像または音声のみを記録することはできません。
- i.LINKケーブルで接続してダビングするとき、DVDレコーダー側から本機の操作が可能と説明されている機器でも操作ができない場合があります。DVDレコーダーの入力モードを「HDV」または「DV」に切り換えるなどして映像の入出力が可能なときは、「i.LINKケーブル(別売り)でつなぐときは」の手順でダビングしてください。

ちょっと一言

- A/V接続ケーブルでつないで日時やカメラデータなどをダビングしたいときは、それらを表示させてください。
- ソニー製DVDレコーダーとのi.LINKケーブル接続について詳しくは、下記のURLをご覧ください(2008年10月現在)。
  http://www.sony.jp/products/i-link/
- i.LINKケーブル接続時は、デジタル信号でやりとりをするので画質・音質の劣化がほとんどありません。
- i.LINKケーブル接続時は、出力される信号の規格(HDVOUT i.LINK またはDVOUT i.LINK)が本機の液晶画面に表示されます。

ビデオの画像を本機で録画する i.LINK

ビデオの画像を本機のテープや“メモリースティック　デュオ”に録画できます。
“メモリースティック　デュオ”には静止画として記録できます。
HDV1080i方式対応機器をつなぐと、ＨＤＶ規格のまま録画できます。
あらかじめ、本機に録画用テープまたは“メモリースティック　デュオ”を入れておいてください。本機とビデオをi.LINKケーブルでつなぎます。本機の電源は、別売りのACアダプター/チャージャーを使ってコンセントからとってください（16ページ）。また、つなぐ機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意
- この操作にはi.LINKケーブルが必要です。
- A/V接続ケーブルでこの操作はできません。
- 本機のi.LINK端子は4ピンです。接続するビデオ機器の端子は、接続する機器に合わせて選んでください。

* HDV1080i 方式の i.LINK 端子が必要です。

動画を録画する

1 本機のPOWERスイッチを「VCR」にする。

2 本機の入力信号を設定する。

HDV対応機器から録画するときには[VCR HDV/DV]を[オート]にする。
DV対応機器から録画するときには[VCR HDV/DV]を[DV]または[オート]にする（71ページ）。

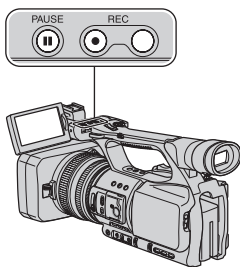
ダビングや編集をする

3 ビデオを再生機としてつなぐ。

i.LINKケーブル接続時は、入力される信号の規格(HDVIN i.LINK またはDV IN i.LINK)が本機の液晶画面に表示されます。(再生側の画面にも表示されることがありますが、録画はされません。)

4 ビデオにダビングするカセットを入れる。

5 本機を録画一時停止にする。

❚❚(PAUSE)ボタンを押したまま、
●(REC)ボタンを2つ同時に押す。

6 ビデオを再生する。

再生側の画像が本機の画面に映ります。

7 録画を開始したい画面でもう一度❚❚(PAUSE)ボタンを押して、録画を始める。

8 ■(STOP)ボタンを押して、録画を止める。

ご注意

- テレビ放送などの番組を i HDV/DV端子(i.LINK)から録画することはできません。
- DV機器から画像を録画するとき、HDV規格で録画することはできません。
- 接続時は、次のことにご注意ください。
  - 再生一時停止中の画像を録画すると、画像が粗くなることがあります。
  - 映像または音声のみを記録することはできません。
  - 録画を一時停止または停止したあとで再開すると、スムーズにつながりません。

ちょっと一言

- 4:3の映像信号を入力すると、本機の画面には左右が黒く表示されます。

静止画を記録する

あらかじめ、本機に"メモリースティック デュオ"を入れておいてください(22ページ)。
また、[PHOTO/EXP.FOCUS]を[フォト](お買い上げ時の設定)に設定してください(75ページ)。

1 「動画を録画する」の手順1〜4を行う。

2 ビデオを再生する。

再生側の画像が本機の液晶画面に映ります。

3 記録したい場面でPHOTO/EXPANDED FOCUSボタンまたはリモコンのPHOTOボタンを押す。

テープの動画をパソコンに取り込む

i.LINKケーブルで本機とパソコンをつなぎ、編集ソフト（別売り）を使って動画を取り込むことができます。
お手持ちのパソコンにi.LINK端子が装備されていて、ビデオ信号の取り込みができる編集ソフトウェアがインストールされている必要があります。

編集ソフトウェアについては下記のURLをご覧下さい。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

ちょっと一言
- Macintoshについての情報も、上記サポートホームページをご参照ください。

撮影した画像やパソコンに取り込まれる規格（HDVまたはDV）によって、必要なソフトウェアが次の通り異なります。

撮影画像の規格	パソコンに取り込む規格	必要なソフトウェア
HDV	HDV	HDV規格の信号取り込み可能の編集ソフト
HDV	DV	DV規格の信号取り込み可能の編集ソフト
DV	DV	DV規格の信号取り込み可能の編集ソフト

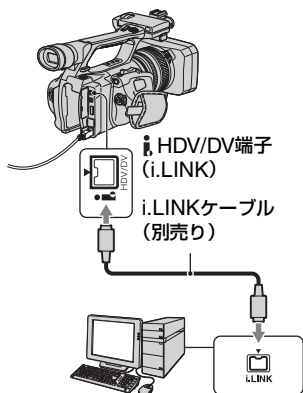
ご注意
- 本機の HDV/DV端子には、電源供給機能はありません。
- i.LINKケーブルで本機とパソコンを接続する場合、端子の向きを確認してからつないでください。無理に押し込むと、端子部が破損することがあります。また、本機の故障の原因となります。
- i.LINKケーブルで接続して、"メモリースティック　デュオ"の画像をパソコンに取り込むことはできません。
- 画像の取り込み方法について詳しくは、ソフトウェアの説明書をご覧ください。
- パソコンの推奨環境については、お使いになるソフトウェアの説明書をご覧ください。
- 使用するパソコンのソフトウェアによっては、正しく働かない場合があります。
- DV規格→HDV規格に変換はできません。

撮影した画像やパソコンに取り込まれる規格（HDV規格またはDV規格）によって、必要なメニュー設定が異なります。

撮影画像の規格	パソコンに取り込む規格	メニュー設定*
HDV	HDV	[VCR HDV/DV]→[HDV] [i.LINK DV変換]→[切]
HDV	DV	[VCR HDV/DV]→[HDV] [i.LINK DV変換]→[入]
DV	DV	[VCR HDV/DV]→[DV] [i.LINK DV変換]→[切]

* メニュー設定については、57 ページをご覧ください。

ちょっと一言
- HDV規格の画像をそのまま取り込むには、HDV規格に対応した環境が必要になります。詳しくは各ソフトウェアの取扱説明書、もしくはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
- 一般的なDVDプレーヤーで再生できるようにするためには、SD画質でDVDビデオを作成する必要があります。この場合、作成されたDVDはHDV規格ではありません。

操作:1　i.LINKケーブルにつなぐ

パソコン接続時のご注意

- i.LINKケーブルは先にパソコンとつないでから、本機とつないでください。先に本機とつなぐと、静電気の発生などにより、本機の故障の原因となります。
- 次の場合、パソコンが本機を正しく認識できなかったり、パソコンがハングアップしたりすることがあります。
  - 本機の画面上に表示されている規格(HDVまたはDV)の信号が扱えないパソコンに入出力する。
  - i.LINKケーブル接続中に、[VCR HDV/DV](71ページ)と[i.LINK DV変換](72ページ)の設定を変える。
  - POWERスイッチが「CAMERA」でi.LINKケーブル接続中に、[録画フォーマット](71ページ)の設定を変える。
  - i.LINKケーブル接続中に、本機のPOWERスイッチを切り換える。
- i.LINKケーブル接続時は、本機の画面に入出力信号の規格(HDVまたはDV)が表示されます。

操作:2　動画を取り込む

本機の電源は別売りのACアダプター/チャージャーを使ってください(15ページ)。

① 編集ソフトウェア(編集ソフトウェアは付属していません)を用意する。
② パソコンの電源を入れる。
③ 本機にテープを入れ、POWERスイッチを「VCR」にする。
④ 本機のメニューを設定する。
撮影画像や取り込まれる規格によってメニュー設定が異なります(57 ページ)。
⑤ パソコンのソフトウェアを操作して動画を取り込む。

ご注意

- HDV規格で取り込みをおこなっても認識しない場合は編集ソフトウェアがHDV規格に対応していない可能性がありますので手順④でDV規格へ変換して取り込みを行ってください。
- DV規格で記録したテープをHDV規格でパソコンに取り込むことはできません。

ちょっと一言

- ソフトウェアの仕様や特徴、最新情報に関しては、各社の公式サイト等をご確認ください。
- HDV規格で記録した画像データをパソコンに取り込んだ際のファイルの容量は、映像圧縮方式をMPEG2のまま変換せずに取り込んだ場合、10分の映像で、約2GBです。(DVファイルとほぼ同じです。)

パソコンから本機にHDV規格で取り込むには

[VCR HDV/DV]を[HDV]に、[i.LINK DV変換]を[切]にする(71、72ページ)。

ご注意

- パソコンで編集したHDV規格の映像を、テープへHDV規格で書き戻すには、お使いの編集ソフトウェアがHDV規格映像のテープへの書き出しに対応していれば可能です。詳しくは各ソフトウェアメーカーへお問い合わせください。

パソコンから本機にDV規格で取り込むには

［VCR HDV/DV］を［DV］にする（83ページ）。

静止画をパソコンに取り込む

パソコン環境について

- 接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。
- 必要な装置：“メモリースティック デュオ” スロット、“メモリースティック デュオ” 対応の“メモリースティック” リーダー/ライター

静止画を取り込む

Windowsパソコンのとき

撮影に使った“メモリースティック デュオ”をパソコンの“メモリースティック デュオ”スロットに入れて、画像を取り込むことができます。

① パソコンの電源を入れる。

② パソコンの“メモリースティック デュオ” スロットに録画済みの“メモリースティック デュオ”を入れる。

③ ［マイコンピュータ］内に表示される［リムーバブルディスク］アイコンをダブルクリックし、フォルダ内の画像をパソコンのハードディスクへコピーする。

1 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで撮影した静止画が入っているフォルダ（再生のみ可能）

パソコンとつなぐ

次のページへつづく➡

2 本機の画像フォルダ（新しくフォルダを作成していない場合は［101MSDCF］のみ）

3 フォルダ作成機能がない他のビデオカメラレコーダーで撮影した動画が入っているフォルダ（再生のみ可能）

フォルダ名	ファイル名	意味
101MSDCF （~999MSDCF）	DSC0□□ □□.JPG	静止画 ファイル

ファイル名の□□□□には、0001～9999までの数字が入ります。

Macintoshのとき

ドライブアイコンをダブルクリックし、取り込みたい画像ファイルをパソコンのハードディスクアイコンにドラッグ＆ドロップする。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、
ソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

電源/画面/リモコンについて

電源が入らない、途中で切れる。

- 充電されたバッテリーを取り付ける(15ページ)。
- ACアダプター/チャージャーをコンセントに差し込む(15ページ)。

電源が入っているのに操作できない。

- 電源(バッテリーまたはACアダプター/チャージャーの電源コード)を取りはずし、約1分後に電源を取り付け直す。
- RESET(リセット)ボタン(115ページ)を先のとがったもので押す。

本体があたたかくなる。

- 本機使用中に本体があたたかくなることがありますが、故障ではありません。

バッテリーの充電中、CHGランプが点灯しない。

- ACアダプター/チャージャーの出力切替スイッチを「VCR/CAMERA」側にする(16ページ)。
- POWERスイッチを「OFF(CHG)」にする(15ページ)。
- バッテリーを正しく取り付け直す(15ページ)。
- コンセントにプラグを正しく差し込む。
- すでに充電が完了している(15ページ)。

バッテリーの充電中、CHGランプが点滅する。

- バッテリーを正しく取り付け直す(15ページ)。それでも点滅するときは、故障のおそれがあるため、コンセントからプラグを抜き、ソニーの相談窓口に問い合わせる(裏表紙)。
- バッテリーの温度が高すぎる、または低すぎると、充電できずにCHGランプがゆっくり点滅することがあります。

次のページへつづく➡

バッテリー残量が正しく表示されない。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも正しく表示されないときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（15、104ページ）。
- 使用状況や環境によっては正しく表示されません。液晶画面を開閉したときは正しい残量時間を表示するまで約1分かかります。

バッテリーの消耗が早い。

- 周囲の温度が極端に高い/低い、または充電が不充分。故障ではありません。
- 満充電し直す。それでも消耗が早いときは、寿命のため、新しいバッテリーに交換する（15、104ページ）。

液晶画面に画像が残る。

- 電源を入れた状態でバッテリーをはずしたり、DCプラグを抜いたためで、故障ではありません。

ファインダーの画像がはっきりしない。

- 視度調整つまみを画像がはっきり見えるように動かす（19ページ）。

ファインダーの画像が消えている。

- ［VF点灯モード］を［オート］にしていると、液晶パネルを開いている間はファインダーは消灯します（70ページ）。

付属のワイヤレスリモコンが操作できない。

- ［リモコン］を［入］にする（76ページ）。
- リモコンと本機リモコン受光部の間にある障害物を取り除く。
- 本機のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たっていると、リモコン操作できないことがある。
- 電池を交換する。電池の＋極と－極を正しく入れる（118ページ）。

リモコン操作中にほかのビデオが誤動作する。

- ビデオのリモコンスイッチをVTR2以外のモードに切り換える。
- 黒い紙でビデオのリモコン受光部をふさぐ。

カセット/“メモリースティック　デュオ”について

カセットが取り出せない。

- 電源(バッテリーやACアダプター/チャージャー)が正しく接続されているか確認する(15ページ)。
- 本機が結露しかけている(106ページ)。

カセットメモリー機能付きカセットで、カセットメモリー表示やタイトル表示が出ない。

- 本機は、カセットメモリーに対応していないため、表示されません。

テープ残量表示が出ない。

- 常に表示させたいときは、[残量表示]を[入]にする(70ページ)。

テープの巻き戻し、早送り時の音が大きい。

- ACアダプター/チャージャー使用時は、バッテリー使用時より高速になるため音が大きくなります。故障ではありません。

“メモリースティック　デュオ”の画像消去ができない。

- プロテクトが設定されている。パソコンなどでプロテクトを解除する。

撮影について

「カセット/“メモリースティック　デュオ”について」(89ページ)もご覧ください。

スタート/ストップボタンを押しても、撮影が始まらない。

- POWERスイッチを「CAMERA」にする(24ページ)。
- テープが最後まで行っている。巻き戻すか、新しいカセットを入れる。
- カセットの誤消去防止ツマミをRECにする。または新しいカセットを入れる(101ページ)。
- 結露でテープがヘッドドラムに貼り付いている。カセットを取り出して、約1時間してから入れ直す(106ページ)。

ハンドルズームが働かない。

- ハンドルズーム切換スイッチを「FIX」または「VAR」にする(27ページ)

次のページへつづく→

“メモリースティック　デュオ”に撮影できない。

- メモリー容量いっぱいの場合は、不要な画像を消す（45ページ）。
- 本機で“メモリースティック　デュオ”をフォーマットし直すか（73ページ）、別の“メモリースティック　デュオ”を入れる（22ページ）。
- 次の設定のときは“メモリースティック　デュオ”に静止画を記録できません。
  – ［フェーダー］実行中
  – ［なめらかスロー録画］実行中
  – ［プログレッシブスキャン］の設定が［切］または［30］で、シャッタースピードが1/60より遅いとき
  – ［プログレッシブスキャン］の設定が［24］で、シャッタースピードが1/48より遅いとき
  – ショットトランジション確認/実行時
- ［PHOTO/EXP.FOCUS］を［フォト］に設定する（75ページ）。

テープできれいにつなぎ撮りできない。

- エンドサーチする（40ページ）。
- カセットを取り出さない（電源を切ってもきれいにつなぎ撮りできます）。
- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させない。
- 同じテープにSPとLPの両モードを混ぜてつなぎ撮りしない。DV
- LPモードでつなぎ撮りしない。DV
- ［クイック録画］が［入］のときは、きれいにつなぎ撮りできません（75ページ）。HDV1080i

静止画撮影時にシャッター音が出ない。

- ［操作音］を［入］にする（76ページ）。
- 動画撮影中はシャッター音は出ません。

エンドサーチができない。

- 撮影後にカセットを取り出さない（40ページ）。
- カセットを入れてからエンドサーチするまでに、1回も撮影していない。
- テープの始めや途中に無記録部分があるためで、故障ではありません。

オートフォーカスができない。

- FOCUSスイッチを「AUTO」にして自動調節にする（27ページ）。
- オートフォーカスが働きにくい状況のときは、手動でピントを合わせる（27ページ）。

メニュー項目が灰色で表示され、選択できない。

- 灰色で表示されるメニュー項目は、その撮影/再生条件では選択できません。
- 機能によっては、一緒に使えないものがあります。下表は、同時に設定できない機能やメニュー項目の例です。

使えない機能	以下のとき
[プログレッシブスキャン]	[インターバル録画]が[入]のとき
[コントラストエンハンサー]	[逆光補正]が[入]のとき
[逆光補正]	アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち2つ以上が手動設定のとき [カメラ明るさ]が手動調節のとき [スポットライト]が[入]のとき
[スポットライト]	アイリス、ゲイン、シャッタースピードのうち2つ以上が手動設定のとき [カメラ明るさ]が手動調節のとき [逆光補正]が[入]のとき
[フェーダー]	テープが入っていないとき 本機が結露しているとき テープの誤消去防止ツマミを「SAVE」側にしているとき [インターバル録画]が[入]のとき
[ゼブラ]、[ピーキング]、[カメラデータ表示]、[ヒストグラム]	[カラーバー]が[入]のとき
[なめらかスロー録画]	[プログレッシブスキャン]が[24]または[30]のとき [カラーバー]が[入]のとき
[パネルバックライトレベル]、[VFバックライト]	AC電源を使用しているとき
[時差補正]	日付、時刻が設定されていないとき
[x.v.Color]	[録画フォーマット] が[DV]のとき
[インターバル録画]	[プログレッシブスキャン]が[24]または[30]のとき
[DVコマ撮り]	[録画フォーマット]が[HDV1080i]のとき

シャッタースピード、ゲイン、ホワイトバランス、アイリスが手動調節できない。

- AUTO/MANUALスイッチを「MANUAL」にする。

画面に白や赤、青、緑の点が出ることがある。

- シャッタースピード(31ページ)が遅いときに出る現象で、故障ではありません。

画面をすばやく横切る被写体が曲がって見える。

- フォーカルプレーンと呼ばれる現象で、故障ではありません。撮像素子(CMOSセンサー)の画像信号を読み出す方法の性質により、撮影条件によっては、画面をすばやく横切る被写体が少しゆがんで見えることがあります。

次のページへつづく➡

画面が白すぎて画像が見えない。

- ［逆光補正］を解除する（62ページ）。

画面が暗すぎて画像が見えない。

- DISPLAY/BATT INFOボタンを押して、バックライトを点灯させる（19ページ）。

横帯が現れる。

- 蛍光灯・ナトリウム灯・水銀灯など放電管による照明下ではこのような症状が現れることがありますが、故障ではありません。シャッタースピードを変えることで改善することがあります（31ページ）。

テレビやパソコンの画面を撮影すると黒い帯が出る。

- シャッタースピードを変えることで改善することがあります（31ページ）。

細かい模様がちらつく、斜めの線がギザギザになる。

- ［シャープネス］で「-」側に調整する（36ページ）。

再生について

「カセット/“メモリースティック　デュオ”について」（89ページ）もご覧ください。

テープ再生ができない。

- POWERスイッチを「VCR」にする。
- テープを巻き戻す（44ページ）。

“メモリースティック　デュオ”の画像データが正しく再生できない。

- パソコンでフォルダやファイル名を変更、または画像加工すると、再生できない場合があります（ファイル名が点滅）。故障ではありません（103ページ）。
- 他機で撮影した画像は、正しく再生できないことがあります。故障ではありません。

データファイル名が正しくない、または点滅している。

- ファイルが壊れている。
- 本機で対応しているファイル形式を使う（102ページ）。
- フォルダ構造が規格に準拠しないと、ファイル名のみ表示されることがあります。

画像に横線が入る、画像がぼけたり、映らなかったりする。

- ビデオヘッドが汚れている。別売りのクリーニングカセットできれいにする（107ページ）。

他機で4CHマイク記録した音声が聞こえない。DV

- [DV 音声ミックス]を設定する(67ページ)。
- HDV規格で4ch記録されている場合、CH3、CH4の音声を本機で聞くことができません。

音声が小さい。または聞こえない。

- 音量を大きくする(45ページ)。
- [バイリンガル]を[切]にする(67ページ)。
- [DV 音声ミックス]を設定する(67ページ)。
- なめらかスロー録画で記録した箇所には音声が記録されません。

画像や音声が途切れる。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

画像が一瞬静止画になる、音声が途切れる。

- テープやビデオヘッドに付着物があるときに起こる症状です(107ページ)。
- ソニー製のミニDVカセットを使用する。

[ー ー ー]が表示される。

- 日付時刻を設定しないで録画したテープを再生している。
- テープの無記録部分を再生している。
- テープに傷やノイズがあると、日時やカメラデータを読めません。
- ゲインを-6dBにして録画したテープを再生している。

ノイズが現れ、画面上に PAL または 50i と表示される。

- テープに記録されているTVカラーシステムがPALなど、本機のカラーシステム(NTSC)と違うため(100ページ)。故障ではありません。

日付サーチが正しく操作できない。

- 日付を変更したときは、2分以上撮影する。撮影時間が短いと正しく検出されない場合があります。
- テープの始めや途中に無記録部分があると、日付サーチが正しく働かないことがあります。

エンドサーチ、レックレビューのときに画像が出ない。

- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、故障ではありません。

他機でアフレコした音声が聞こえない。DV

- [DV 音声ミックス]を[ST1](オリジナルテープ音声)から、[ミックス]または[ST2]に設定する(67ページ)。

画面上に♪4ch-12b、24P、30P、25Pが表示される。

- 他機で4CHマイク記録されたテープを再生しているときには、♪4ch-12bが表示されます。本機は4CHマイク記録には対応していません。
- 他機でプログレッシブ記録されたテープを再生したときには、24Pや30Pや25Pが表示されることがあります。本機はプログレッシブ記録には対応していません。

テレビ接続について

i.LINKケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 接続するテレビのi.LINK端子がHDV1080i方式に対応していない場合は、HD（ハイビジョン）画質で見ることはできません（51ページ）。詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- HDV規格で撮影した映像をダウンコンバートしてDV規格(SD画質)で再生する（72ページ）。
- 他の接続ケーブルで接続して再生する（51ページ）。

S映像プラグ、またはコンポーネントプラグ（D端子）でつないで再生するとき、音声が出ない。

- S映像プラグまたはコンポーネントプラグ（D端子）だけでつないでいるため。白と赤のプラグもあわせてつなぐ（51ページ）。

D端子A/Vケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 接続する機器に合わせて［コンポーネント出力］を正しく設定する（72ページ）。
- コンポーネントプラグ（D端子）だけでつないでいるため。白と赤のプラグも合わせてつなぐ（51ページ）。

HDMIケーブルでテレビにつないで再生するとき、画像や音声が出ない。

- 著作権保護のための信号が記録されているDV規格の映像を、HDMI出力端子から出力することはできません。
- i.LINKでDV入力された画像（83ページ）を出力することはできません。
- 同じテープにHDV規格とDV規格の映像を混在させたときに起こる症状で、HDMIケーブルを抜き差しするか本機の電源を入れ直す。

4:3テレビにつないで再生したら、画像がつぶれて見える。

- ワイド（16:9）で撮影したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象で、［TVタイプ］を設定して再生する（72ページ）。

4:3テレビにつないで再生したら上下に黒い帯が入る。

- ワイド（16:9）で撮影したテープを4:3テレビで見るときに起こる現象で故障ではありません。

ダビング、編集、外部機器接続について

つないだ機器（外部入力）の映像が拡大できない。

- 外部入力している画像は本機でズームできません。

つないだ機器の画面にタイムコードなどが表示される。

- A/V接続ケーブルを使って接続するときは、メニューの[画面表示出力]を[パネル]にする（70ページ）。

A/V接続ケーブルを使ってダビングができない。

- A/V接続ケーブルが正しくつながれていない。
  A/V接続ケーブルが他機の入力端子へつながれているか確認する。

ダビング編集中、i.LINKケーブルを接続しているのに、モニターに画像が出ない。

- 接続する機器に合わせて[VCR HDV/DV]を正しく設定する（71ページ）。

追加録音（アフレコ）できない。

- 本機ではアフレコすることはできません。

HDMIケーブルを使ってダビングができない。

- HDMIケーブルを使ってのダビングはできません。

テープから“メモリースティック　デュオ”へ静止画を取り込めない。

- 繰り返しダビングしているなど記録状態の悪いテープは、録画できなかったり、乱れた画像が記録されたりすることがあります。

i.LINKケーブルを使ってワイド（16:9）で撮影した映像をダビングすると画面が縦に伸びる。

- i.LINKケーブルからアスペクト比の設定は出力できません。テレビ側で設定する。
- A/V接続ケーブルを使って接続する。

パソコンとの接続について

本機がパソコンに認識されない。

- パソコンと本機からケーブルを抜き、もう一度しっかりと差し込む。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動させてから、正しい手順でもう一度パソコンと本機をつなぐ。

テープの動画がパソコンで見られない、取り込めない。i.LINK

- ケーブルを抜き、本機の電源を入れてから、もう一度つなぐ。
- テープの動画をパソコンに取り込むには編集ソフトウェア（別売り）が必要です（83ページ）。
以下のホームページもご覧ください。
http://www.sony.co.jp/cam/support/

パソコンがハングアップする

- 接続する機器に合わせて、[VCR HDV/DV]を正しく設定する（71ページ）。
- パソコンと本機からケーブルを抜き、パソコンを再起動してから正しい手順でもう一度パソコンと本機をつなぐ（84ページ）。

警告表示とお知らせメッセージ

自己診断表示/警告表示

液晶画面またはファインダーに、次のように表示されます。
お客様自身で対応できる場合でも、2、3回繰り返しても正常に戻らないときは、ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

C:（またはE:）□□:□□（自己診断表示）

C:04:□□

- "インフォリチウム"以外のバッテリーが使われている。必ず"インフォリチウム"バッテリーを使う（104ページ）。
- ACアダプター/チャージャーのDCプラグを本機のDC IN端子にしっかりつなぐ（15ページ）。

C:06:□□

- バッテリーが高温になっている。 バッテリーを交換するか、バッテリーを涼しいところに置く。

C:21:□□

- 結露している。カセットを取り出して、約1時間してからもう一度入れ直す（106ページ）。

C:22:□□

- ビデオヘッドが汚れている。別売りのクリーニングカセットできれいにする（107ページ）。

C:31:□□/C:32:□□

- 上記以外の症状になっている。カセットを入れ直し、もう一度操作し直す。ただし、本機が結露気味のときは、この操作をしないでください（106ページ）。
- 電源をいったん取りはずし、取り付け直してからもう一度操作し直す。
- カセットを交換する。RESET（リセット）ボタン（115ページ）を押してからもう一度操作し直す。

E:61:□□/E:62:□□

- 修理が必要なため、ソニーの相談窓口（裏表紙）にご連絡いただき、Eから始まる数字すべてをお知らせください。

101-1001（ファイル関連の警告）

- ファイルが壊れている。
- 扱えないファイル（103ページ）。

（バッテリー残量に関する警告）

- バッテリー残量が少ない。
- 使用状況や環境、バッテリーパックによっては、バッテリー残量が約5～10分でも警告表示が点滅することがある。

（結露の警告）

- カセットを取り出し、電源をはずして、カセット入れを開けたまま、約1時間放置する（106ページ）。

（"メモリースティック デュオ"関連の警告）

- "メモリースティック デュオ"が入っていない（22ページ）。

（"メモリースティック デュオ"フォーマット関連の警告）

- "メモリースティック デュオ"が壊れている。
- "メモリースティック デュオ"が正しくフォーマットされていない（73、102ページ）。

（非対応"メモリースティック デュオ"関連の警告）

- 本機では使えない"メモリースティック デュオ"を入れた（102ページ）。

⚠ (バッテリーの温度に関する警告)

- バッテリーが高温になっている。 バッテリーを交換するか、バッテリーを涼しいところに置く。

(バッテリーの温度に関する警告)

- バッテリーが低温になっている。 バッテリーを交換するか、バッテリーを暖かいところに置く。

(テープ関連の警告)

遅い点滅

- テープ残量が5分を切った。
- カセットが入っていない。
- カセットが誤消去防止状態になっている(101ページ)。

速い点滅

- テープが終わっている。

⏏(テープを取り出す必要がある警告)

遅い点滅

- カセットが誤消去防止状態になっている(101ページ)。

速い点滅

- 結露している(106ページ)。
- 自己診断表示が表示されている(97ページ)。

(“メモリースティック デュオ”誤消去防止に関する警告)

- “メモリースティック デュオ”が誤消去防止状態になっている(102ページ)。

ちょっと一言

- メッセージによっては、表示されるときに警告音が鳴ります。

お知らせメッセージの説明

お知らせメッセージが表示されたときは、その指示に従ってください。

■ バッテリー/電源

このバッテリーは使えません(104ページ)

■ 結露

⏏結露しています
カセットを取り出してください
(106ページ)

結露しています
約1時間放置してください(106ページ)

■ カセット/テープ

⏏カセットを入れなおしてください(22ページ)

- テープの損傷などがないかも確認する。

⏏カセットの誤消去防止ツマミを確認してください(101ページ)

■“メモリースティック　デュオ”

メモリースティックを入れなおしてください(22、102ページ)

- “メモリースティック　デュオ”を2、3回入れ直す。それでも表示されるときは“メモリースティック　デュオ”が壊れている可能性があるので交換する。

このメモリースティックはフォーマットが違います

- “メモリースティック　デュオ”のフォーマットを確認し、必要ならばフォーマットする(73、102ページ)。

メモリースティックのフォルダがいっぱいです

- 作成できるフォルダは、999MSDCFまでです。本機でフォルダ消去はできません。
- フォーマットするか（73ページ）、パソコンで不要なフォルダを消去する。

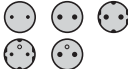
メモリースティックに静止画記録できない状態です

- 以下のときは静止画記録できません。
  - [プログレッシブスキャン]の設定が[切]または[30]で、シャッタースピードが1/60より遅いとき
  - [プログレッシブスキャン]の設定が[24]で、シャッタースピードが1/48より遅いとき
  - フェーダー中
  - なめらかスロー録画中
  - ショットトランジション確認、実行中

■ その他

この"VCR HDV/DV"設定では表示できない信号です。表示するには設定を変更してください。

- 再生や信号入力を停止するか、[VCR HDV/DV]設定を変更してください（71ページ）。

海外で使う

電源について

本機は、海外でも使えます。
別売りのACアダプター/チャージャーAC-VQ1051D(ACCKIT-D20に付属)は、全世界の電源（AC100V～240V、50/60Hz）で使えます。また、バッテリーも充電できます。ただし、電源コンセントの形状の異なる国や地域では、電源コンセントにあった変換プラグアダプターをあらかじめ旅行代理店でおたずねの上、ご用意ください。
電子式変圧器（トラベルコンバーター）は使わないでください。故障の原因となることがあります。

海外のコンセントの種類

壁のコンセントの形状例	主に北米	主にヨーロッパなど
使用する変換プラグアダプター	不要	

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには HDV1080i

HDV規格で記録した再生画像をHDV規格で見るには、HDV1080i方式対応のテレビ（またはモニター）とHDMIケーブル（別売り）、またはコンポーネントA/Vケーブル（別売り）が必要です。HDV1080i方式に対応している主な国、地域は、「テレビ方式がNTSCの国、地域」を参照してください。

DV規格で記録した再生画像をDV規格で見るには DV

DV規格で記録した再生画像を見るには、日本と同じカラーテレビ方式で、映像/音声入力端子付きのテレビ（またはモニター）と接続ケーブルが必要です。

テレビ方式がNTSCの国、地域（五十音順）

アメリカ合衆国、エクアドル、エルサルバドル、ガイアナ、カナダ、キューバ、グアテマラ、グアム、コスタリカ、コロンビア、サモア、スリナム、セントルシア、大韓民国、台湾、チリ、ドミニカ、トリニダード･トバゴ、ニカラグア、日本、ハイチ、パナマ、バミューダ、バルバドス、フィリピン、プエルトリコ、ベネズエラ、ペルー、ボリビア、ホンジュラス、ミクロネシア、ミャンマー、メキシコ など

時差補正機能ついて

海外で使うとき、[時差補正]で、時差を設定するだけで時刻を現地時間に合わせられます（75ページ）。

使用上のご注意とお手入れ

HDV規格と記録・再生について

本機は、HDV規格とDV規格の両方の記録機能を搭載したビデオカメラレコーダーです。本機は、ミニDVカセットのみ使えます。

Mini DV マーク付きカセットをご使用ください。

本機ではソニー製ミニDVカセットを使用することをおすすめします。

本機は、カセットメモリー機能には非対応です。

HDV規格とは

DVカセットにデジタルハイディフィニション（HD）映像の記録・再生ができるように開発されたビデオ方式です。

本機では、有効走査線数1,080本のインターレース方式（1080i、画素数1,440×1,080ドット）を採用しています。

記録時の映像ビットレートは約25Mbpsです。

デジタルインターフェースにi.LINKを採用し、HDVに対応するテレビやパーソナルコンピューターとのデジタル接続が可能です。

- HDV映像信号の圧縮方式は、BSデジタルや地上デジタルのハイビジョン放送やブルーレイディスクレコーダーなどで採用されているMPEG2方式です。

再生について

DV規格とHDV規格の1080i方式の両方を再生できます。

本機ではHDV規格の720/30pで記録した画像を再生できますが、i.LINK端子（i HDV/DV端子）から出力することはできません。

無記録部分を作らないために

テープを再生したときは、次の撮影の前にエンドサーチ（40ページ）を行って撮影終了位置に戻します。

著作権保護信号について

■ **再生するとき**

本機で再生されるカセットに著作権保護のための信号が記録されている場合には、他機をつないで本機の画像を記録するとき、記録が制限されることがあります。

■ **記録するとき**

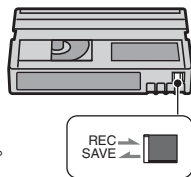
著作権保護のための信号が記録されている映像音声は本機で記録することはできません。このような映像音声を記録しようとすると、液晶画面またはファインダーに[コピープロテクトされています　記録できません]が表示されます。なお、ビデオカメラで撮影した画像には、著作権保護のための信号は記録されません。

取り扱い上のご注意

■ **長い間使わないときは**

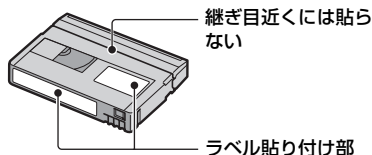
本機からカセットを取り出して保管してください。

■ **間違って消さないために**

カセットの背にある誤消去防止ツマミをSAVEの矢印のほうへずらします。

REC：録画できる。
SAVE：録画できない。
（誤消去防止状態）

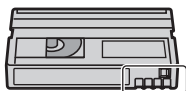
その他

■ ラベルは指定の位置に

カセットにラベルは、指定の位置に正しく貼ってください。指定以外の位置に貼ると故障の原因になります。

■ カセットの使用後は

必ずテープを巻き戻してください(画像や音声が乱れる原因となります)。巻き戻したテープはケースに入れ、立てて保管してください。

■ 金メッキ端子のお手入れ

カセットの金メッキ端子が汚れたり、ゴミが付着したりすると、テープ残量表示などが正しく表示されないことがあります。カセットの取り出し回数10回を目安にして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。

HDV1080i方式(i.LINK)対応のテレビについて HDV1080i

HDV規格で記録した再生画像を見るには、ハイビジョン対応テレビ(D3端子付きまたはHDMI端子付き)をおすすめします。
また、HDV1080i方式(i.LINK)対応のテレビと本機を接続するときは、i.LINKケーブルでつなぐことをおすすめします。
お手持ちのテレビがHDV1080i方式(i.LINK)に対応しているかどうかについては、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

"メモリースティック"について

"メモリースティック"("Memory Stick")は小さくて軽い大容量のIC記録メディアです。
"メモリースティック"のうち、本機で使えるのは次の表のとおりです。ただし、すべての"メモリースティック"の動作を保証するものではありません。

"メモリースティック"の種類	記録/再生
メモリースティック デュオ(マジックゲート対応)	○
メモリースティック PRO デュオ	○
メモリースティック PRO-HGデュオ	○

- 本機はパラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しておりません。
- 本機はマジックゲート機能を使ったデータの記録/再生に対応していません。"マジックゲート"とは暗号化技術を使って著作権を保護する技術です。
- 本機は"メモリースティック マイクロ"("M2")に対応しています。"M2"は"メモリースティック マイクロ"の略称です。
- 静止画の圧縮形式:本機は、静止画データをJPEG(Joint Photographic Experts Group)方式で圧縮/記録しています。ファイル拡張子は「.JPG」です。
- パソコン(Windows OS/Mac OS)でフォーマット(初期化)した"メモリースティック デュオ"は、本機での動作を保証いたしません。
- お使いの"メモリースティック デュオ"と機器の組み合わせによっては、データの読み込み/書き込み速度が異なります。
- 誤消去防止スイッチ付き"メモリースティック デュオ"では、先の細いものでスライドさせて、「LOCK」にすると、記録されているデータを誤って消去しないようにできます。
- 次の場合、画像ファイルが破壊されることがあります。破壊された場合、内容の補償については、ご容赦ください。
  - 画像ファイルを読み込み中や、"メモリースティック デュオ"にデータを書き込み中(ア

クセスランプが点灯中および点滅中）に、“メモリースティック デュオ”を取り出したり、本機の電源を切ったりした場合
– 静電気や電気的ノイズの影響を受ける場所で使った場合

- 大切なデータは、パソコンのハードディスクなどへバックアップを取っておくことをおすすめします。
- メモエリアに書き込むときは、あまり強い圧力をかけないでください。
- “メモリースティック デュオ”本体および“メモリースティック デュオ” アダプターにラベルなどは貼らないでください。
- 持ち運びや保管の際は、“メモリースティック デュオ”に付属の収納ケースに入れてください。
- 端子部に触れたり、金属を接触させたりしないでください。
- 強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- 分解したり、改造したりしないでください。
- 水にぬらさないでください。
- 小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲みこむおそれがあります。
- “メモリースティック デュオ”スロットには、“メモリースティック デュオ”以外は入れないでください。故障の原因となります。
- 次の場所での使用や保管は避けてください。
  – 高温になった車の中や炎天下など気温の高い場所
  – 直射日光のあたる場所
  – 湿気の多い場所や腐食性のものがある場所

■ “メモリースティック デュオ” アダプターの使用について

- “メモリースティック デュオ”を“メモリースティック”対応機器でお使いの場合は、必ず“メモリースティック デュオ”を“メモリースティック デュオ” アダプターに入れてからお使いください。
- “メモリースティック デュオ”を“メモリースティック デュオ” アダプターに入れるときは、正しい挿入方向をご確認のうえ、奥まで差し込んでください。差し込みかたが不充分だと正常に動作しない場合があります。また、逆向きで無理に入れると、“メモリースティック デュオ” アダプターが破損し、故障の原因となります。
- “メモリースティック デュオ” アダプターに“メモリースティック デュオ”が装着されない状態で、“メモリースティック”対応機器に挿入しないでください。このような使いかたをすると、機器に不具合が生じることがあります。

■ “メモリースティック PRO デュオ”についてのご注意

- 本機で動作確認されている“メモリースティック PRO デュオ”は16GBまでです。

■ “メモリースティック マイクロ”使用上のご注意

- “メモリースティック マイクロ”を本機でお使いの場合は、必ず“メモリースティック マイクロ”をデュオサイズのM2アダプターに入れてからお使いください。デュオサイズのM2アダプターに装着されていない状態で挿入されると、“メモリースティック マイクロ”が取り出せなくなる可能性があります。
- “メモリースティック マイクロ”は、小さいお子さまの手の届くところに置かないようにしてください。誤って飲み込むおそれがあります。

画像の互換性について

- 本機は（社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格“Design rule for Camera File system”に対応しています。
- 統一規格に対応していない機器（DCR-TRV900、DSC-D700/D770）で記録された静止画像は本機では再生できません。
- 他機で使用した“メモリースティック デュオ”が本機で使えないときは、73ページの手順にしたがい、本機でフォーマット（初期化）をしてください。フォーマットすると“メモリースティック デュオ”に記録してあるデータはすべて消去されますので、ご注意ください。
- 次の場合、正しく画像を再生できないことがあります。
  – パソコンで加工した画像データ
  – 他機で撮影した画像データ

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーについて

本機は"インフォリチウム"バッテリー（Lシリーズ）のみ使用できます。それ以外のバッテリーは使えません。"インフォリチウム"バッテリーLシリーズには InfoLITHIUM L マークがついています。

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

"インフォリチウム"バッテリーは、本機や別売りのACアダプター/チャージャーとの間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。
"インフォリチウム"バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。
別売りのACアダプター/チャージャーを使うと、使用可能時間や充電終了時間も計算して表示します。

充電について

- 本機を使う前には、必ずバッテリーを充電してください。
- 周囲の温度が10〜30℃の範囲で、本機のCHGランプが消えるまで充電することをおすすめします。これ以外では効率の良い充電ができないことがあります。
- 充電終了後は、接続コード（DK-215）を本機のDC IN端子から抜くか、バッテリーを取りはずしてください。

バッテリーの上手な使いかた

- 周囲の温度が10℃未満になるとバッテリーの性能が低下するため、使える時間が短くなります。安心してより長い時間使うために、次のことをおすすめします。
  – バッテリーをポケットなどに入れてあたたかくしておき、撮影の直前、本機に取り付ける。
  – 高容量バッテリー「NP-F770/F970（別売り）」を使う。
- 液晶画面の使用や再生/早送り/巻き戻しなどを頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
  高容量バッテリー「NP-F770/F970（別売り）」のご使用をおすすめします。
- 本機で撮影や再生中は、こまめにPOWERスイッチを切るようにしましょう。撮影スタンバイ状態や再生一時停止中でもバッテリーは消耗しています。
- 撮影には予定撮影時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前にためし撮りをしましょう。
- バッテリーは防水構造ではありません。ぬらさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

- バッテリーの残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる場合は、再び満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし、長時間高温で使ったり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。撮影時間の目安として使ってください。
- バッテリー残量時間が約5〜10分でも、ご使用状況や周囲の温度環境によってはバッテリー残量が残り少なくなったことを警告するマークが点滅することがあります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長期間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってください。本機からバッテリーを取りはずして、湿度の低い涼しい場所で保管してください。
- 本機でバッテリーを使い切るには、電源が切れるまで撮影スタンバイにしてください（18ページ）。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境、バッテリーパックごとに異なります。

i.LINK(アイリンク)について

本機の HDV/DV端子はi.LINKに準拠した4ピン端子です。ここでは、i.LINKの規格や特長について説明します。

i.LINKとは?

i.LINKはi.LINK端子を持つ機器間で、デジタル映像やデジタル音声などのデータを双方向でやりとりしたり、他機をコントロールしたりするためのデジタルシリアルインターフェースです。

i.LINK対応機器は、i.LINKケーブル1本で接続できます。多彩なデジタルAV機器を接続して、操作やデータのやりとりができることが考えられています。複数のi.LINK対応機器を接続した場合、直接つないだ機器だけでなく、他の機器を介してつながれている機器に対しても、操作やデータのやりとりができます。ただし、接続する機器の特性や仕様によっては、操作のしかたが異なったり、接続しても操作やデータのやりとりができない場合があります。

ご注意

- i.LINKケーブルで本機と接続できる機器は通常1台だけです。複数接続できるHDV/DV対応機器と接続するときは、接続する機器の取扱説明書をご覧ください。
- i.LINK(アイリンク)はIEEE1394の親しみやすい呼称としてソニーが提案し、国内外多数の企業からご賛同いただいている商標です。
- IEEE1394は電子技術者協会によって標準化された国際標準規格です。

i.LINKの転送速度について

i.LINKの最大データ転送速度は機器によって違い、次の3種類があります。

S100(最大転送速度　約100Mbps*)
S200(最大転送速度　約200Mbps)
S400(最大転送速度　約400Mbps)

転送速度は各機器の取扱説明書の「主な仕様」欄に記載され、また、機器によってはi.LINK端子周辺に表記されています。

最大データ転送速度が異なる機器と接続した場合、転送速度が表記と異なることがあります。

* Mbps とは?

「Mega bits per second」の略で「メガビーピーエス」と読みます。1秒間に通信できるデータの容量を示しています。100Mbpsならば100メガビットのデータを送ることができます。

本機でのi.LINK操作は

他のi.LINK端子付きビデオとつないでダビングする方法については78ページをご覧ください。

また、本機はビデオ機器以外のソニー製i.LINK対応機器(パーソナルコンピューターVAIOシリーズなど)とも接続してご使用になれます。

なお、デジタルテレビ、DVD、MICROMV、HDVなどの映像機器には、i.LINK端子を搭載しながらも、本機とは対応できない仕様のものがあります。接続の際はあらかじめHDV/DV対応の有無をご確認ください。

接続の際のご注意および、本機に対応したアプリケーションソフトの有無などについては、接続する機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

ご注意

- i.LINK端子を持つ機器と本機をi.LINK接続する場合、i.LINKケーブルを抜き差しするときは、あらかじめ機器の電源を切って電源プラグをコンセントから抜いてください。

必要なi.LINKケーブル

ソニー製i.LINKケーブルを使ってください。

4ピン↔4ピン(HDV/DVダビング時)

なお、純正品以外のケーブル使用による端子の破損、故障、損害については、弊社では

その他

次のページへつづく→

責任を負いかねます。また、この場合の弊社製品の修理については、保証期間内でも有償修理とさせていただく場合があります。あらかじめご了承ください。

x.v.Color(エックスブイ・カラー)について

- x.v.Colorとは、x v YCC規格の親しみやすい呼称としてソニーが提案している商標です。
- x v YCC規格とは、動画色空間の国際規格のひとつです。現行の放送などで使われている規格より広い色彩が表現できます。

本機の取り扱いについて

使用や保管場所について

使用中、保管中にかかわらず、次のような場所に置かないでください。

- 異常に高温、低温または多湿になる場所
  炎天下や熱器具の近く、夏場の窓を閉め切った自動車内は特に高温になり、放置すると変形したり、故障したりすることがあります。
- 激しい振動や強力な磁気のある場所
  故障の原因になります。
- 強力な電波を出す場所や放射線のある場所
  正しく撮影できないことがあります。
- TV、ラジオやチューナーの近く
  雑音が入ることがあります。
- 砂地、砂浜などの砂ぼこりの多い場所
  砂がかかると故障の原因になるほか、修理できなくなることもあります。
- 液晶画面やファインダー、レンズが太陽に向いたままとなる場所(窓際や室外など)
  液晶画面やファインダー内部を傷めます。

■ 長時間使用しないときは

- 3分間ほど再生するなどして、ときどき電源を入れてください。
- バッテリーは使い切ってから、保管してください。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の心臓部であるヘッドやテープ、レンズに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを傷めたり、故障の原因になります。結露が起こると、[結露していますカセットを取り出してください]または[結露しています約1時間放置してください]と警告表示が出ます。ただし、レンズの結露では表示は出ません。

■ 結露が起きたときは

カセットは直ちに取り出してください。警告表示が出ている間は、OPEN/EJECTつまみ以外は働きません。
電源を切ってカセットカバーを開けたまま、結露がなくなるまで(約1時間)放置してください。電源を入れてもお知らせメッセージが出ず、カセットを入れてビデオ操作ボタンを押してもやが点滅しなければ使えます。
結露気味のときは、本機が結露を検出できないことがあります。このようなときは、カセットカバーを開けてから約10秒間カセットが出てこないことがありますが、故障ではありません。
カセットが出てくるまでカセットカバーを閉めないでください。

■ 結露が起こりやすいのは

次のように、温度差のある場所へ移動したり、湿度の高い場所で使うときです。

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- スコールや夏の夕立のあと
- 温泉など高温多湿の場所

■ 結露を起こりにくくするために

本機を温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に空気が入らないように入れて密封します。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

ビデオヘッドについて

HDV規格で記録したテープを再生すると、まれに再生中の画像と音声が一瞬(約0.5秒)停止することがあります。
テープやビデオヘッドに付着物があるなどしてHDV規格の信号をテープに正しく記録、再生できなかったときに起こる現象で、カセットによってはごくまれに、新品またはご利用期間が短いにもかかわらず発生することがあります。
再生時に起きたときは、テープを少し送って巻き戻すと問題なく見ることができる場合がありますが、記録時に起きたときは、その部分を修復することはできません。
このような事態を予防するためにもソニー製ミニDVカセットのご使用をおすすめします。

- 以下のような症状になったときは、別売りの乾式クリーニングカセットを10秒間再生してビデオヘッドをきれいにしてください。
  - 再生画面の一部が動かない。
  - 再生画像が出ない。
  - 音声が途切れる。
  - 録画中に[⊗ ヘッドが汚れています クリーニングカセットを使ってください]が表示される。
  - HDV規格のときに以下の現象が起こる。

再生画像が一時停止する

再生画像が消える(青1色の画面)

  - DV規格のときに以下の現象が起こる。

四角いノイズが出る。

再生画像が消える(青1色の画面)

- ビデオヘッドは長時間使うと摩耗します。クリーニングカセットを使っても鮮明な画像に戻らないときは、ヘッドの摩耗が考えられます。このときは、ヘッドの交換が必要です。ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

液晶画面について

- 液晶画面を強く押さないでください。画面にムラが出たり、液晶画面の故障の原因になります。
- 寒い場所でご使用になると、画像が尾を引いて見えることがありますが、異常ではありません。
- 使用中に液晶画面のまわりが熱くなりますが、故障ではありません。

■ お手入れ

液晶画面の表面にはコーティング処理がされており、傷をつけるとコーティングが剥がれることがあります。お取り扱い、お手入れの際は下記の点にご注意ください。

- 汚れを拭き取るときは清潔な眼鏡拭き等、柔らかい生地の布でやさしく拭き取ってください。
- 汚れを拭き取る前に埃や砂などはブロワーなどであらかじめ払い落としてください。
- ティッシュペーパーなどで強く拭くとコーティングに傷がつくことがあります。
- 手の脂、ハンドクリーム等が付いたままにするとコーティングが剥がれやすくなりますので、早めに拭き取ってください。

本機表面のお手入れについて

- 汚れのひどいときは、水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽く拭いたあと、からぶきします。
- 本機の表面が変質したり塗装がはげたりすることがあるので、次のことは避けてください。
  - シンナー、ベンジン、アルコール、化学ぞうきん、虫除け、殺虫剤、日焼け止めのような化学薬品類。
  - 上記が手に付いたまま本機を扱う。
  - ゴムやビニール製品との長時間接触。

レンズのお手入れと保管について

- レンズ面に指紋などが付いたときや、高温多湿の場所や海岸など塩の影響を受ける環境で

次のページへつづく→

使ったときは、必ず柔らかい布などでレンズの表面をきれいに拭いてください。
- 風通しの良いゴミやほこりの少ない場所に保管してください。
- カビの発生を防ぐために、上記のお手入れは定期的に行ってください。また本機を良好な状態で長期にわたって使っていただくためにも、月に1回程度、本機の電源を入れて操作することをおすすめします。

内蔵の充電式電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入/切と関係なく保持するために、充電式電池を内蔵しています。充電式電池は本機がACアダプター/チャージャーでコンセントにつながっているか、バッテリーが入っている限り常に充電されています。ACアダプター/チャージャーで電源につながない、またはバッテリーを入れないままで**3か月**近くまったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使ってください。
ただし、充電式電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使えます。

■ **充電方法**

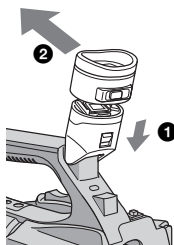
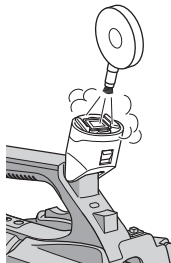
本機を別売りのACアダプター/チャージャーを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、POWERスイッチを「OFF(CHG)」にして24時間以上放置する。

“メモリースティック　デュオ”を廃棄/譲渡するときのご注意

本機やパソコンの機能による［フォーマット］や［全消去］では、“メモリースティック　デュオ”内のデータは完全には消去されないことがあります。“メモリースティック デュオ”を譲渡するときは、パソコンのデータ消去用ソフトなどを使ってデータを完全に消去することをおすすめします。
また、“メモリースティック デュオ”を廃棄するときは、“メモリースティック デュオ”本体を物理的に破壊することをおすすめします。

ファインダーのお手入れについて

1 接眼部をはずす。

ビューファインダー取りはずしつまみを下にずらしたまま（❶）、矢印の方向に接眼部をずらしてはずす（❷）。

2 接眼部の内側、ファインダー内部のゴミを、カメラ用のブロワーブラシなどで取り除く。

3 手順１の逆の手順で接眼部を取り付ける。

主な仕様

システム

録画方式(HDV)	回転2ヘッドヘリカルスキャン
録画方式(DV)	回転2ヘッドヘリカルスキャン
静止画記録方式	Exif Ver.2.2*
録音方式(HDV)	回転ヘッド MPEG-1 Audio Layer2 16ビット Fs48kHz(ステレオ) 転送レート 384kbps
録音方式(DV)	回転ヘッド、PCMシステム 12ビット Fs32kHz (ステレオ1、ステレオ2) 16ビット Fs48kHz(ステレオ)
映像信号	NTSCカラー、EIA標準方式 1080/60i方式
使用可能カセット	Mini DV マークのついたミニDVカセット
テープ速度(HDV)	約18.812mm/秒
テープ速度(DV)	SP:約18.812mm/秒 LP:約12.555mm/秒
録画/再生時間(HDV)	60分(DVM60使用時)
録画/再生時間(DV)	SP:60分(DVM60使用時) LP:90分(DVM60使用時)
早送り、巻き戻し時間	バッテリー使用時: 約2分40秒(DVM60使用時) ACアダプター/チャージャー使用時: 約1分45秒(DVM60使用時)
ファインダー	電子ファインダー:カラー
撮像素子	6.0mm(1/3型)3CMOSセンサー 静止画記録画素数:最大120万画素相当**(1 440×810)(HDV/DV 16:9記録時) 総画素数:約112万画素 動画時有効画素数(16:9モード):約104万画素 動画時有効画素数(4:3モード):約78万画素 静止画時有効画素数(16:9モード):約104万画素 静止画時有効画素数(4:3モード):約78万画素
ズームレンズ	Gレンズ 20倍(光学)、約30倍(デジタル、デジタルエクステンダー[入]時) f=4.1~82.0mm 35mmカメラ換算 29.5~590mm(16:9モード) (4:3モードでは36.1~722mm) F1.6~3.4 フィルター径72mm
色温度切り換え	オート ワンプッシュ(A、B) [屋内](3 200K) [屋外](5 800K)
最低被写体照度	1.5lx(ルクス)(シャッタースピード固定(1/30)、オートゲインコントロール、アイリスオート) (F1.6)

* (社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画用のファイルフォーマット。

** ソニー独自のクリアビッドCMOSセンサーの画素配列と画像処理システム、エンハンスドイメージングプロセッサーにより、静止画は表記の記録サイズを実現しています。

出力端子

A/Vリモート端子	10ピン特殊コネクター A/V接続ケーブル挿入時 映像:1 Vp-p、75Ω Y出力 1Vp-p、75Ω C出力 0.286Vp-p(バースト)、75Ω D端子A/Vケーブルまたはコンポーネント A/Vケーブル挿入時 Y:1Vp-p、75Ω PB/PR. CB/CR:±350mV、75Ω 音声:327mV(47kΩ負荷時)、出力インピーダンス2.2 kΩ以下
HDMI OUT端子	HDMIコネクタ
∩(ヘッドホン)端子	ステレオミニジャック (φ3.5mm)

入/出力端子

LANC 端子	ステレオミニミニジャック (ø 2.5mm)

その他

i HDV/DV端子	i.LINK（IEEE1394　4ピンコネクター　S100）
外部マイク入力端子	ステレオミニジャック（φ3.5mm）

液晶画面

画面サイズ	8.0cm（3.2型、アスペクト比16:9）
総ドット数	921 600ドット 横1 920×縦480

電源部、その他

電源電圧	バッテリー端子入力7.2V DC端子入力8.4V
消費電力	ファインダー使用時、明るさ標準： HDV記録時 6.4W DV記録時 6.1W 液晶画面使用時、明るさ標準： HDV記録時 6.6W DV記録時 6.3W
動作温度	0℃～40℃
保存温度	－20℃～+60℃
外形寸法	169×178×349mm （突起部含む、グリップベルト含まず）（幅×高さ×奥行き）
本体質量	約2.1kg（レンズフード含む）
撮影時総質量	約2.4kg（バッテリー：NP-F770、DVM60テープ、レンズカバー付きフード、大型アイカップ含む）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

保証書

この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。所定事項の記入と記載内容をお確かめの上、大切に保管してください。

このデジタルHDビデオカメラレコーダーは国内仕様です。海外で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスとその費用については、ご容赦ください。

アフターサービス

■ 調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

■ それでも具合の悪いときは

ソニーの相談窓口（裏表紙）にお問い合わせください。

■ 保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

■ 保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

■ 部品の保有期間について

当社はデジタルHDビデオカメラレコーダーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過したあとも、故障箇所によっては修理可能な場合がありますので、ソニーの相談窓口にお問い合わせください。

■ 部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

安全のために

→ 2ページもあわせてお読みください。

下記の注意事項を守らないと、**火災**、**大けが**や**死亡**にいたる危害が発生することがあります。

分解や改造をしない

火災や感電の原因となります。内部点検や修理はソニーの相談窓口にご依頼ください。

内部に水や異物（金属類や燃えやすい物など）を入れない

火災、感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電池を取りはずしてください。ACアダプターやバッテリーチャージャーなどもコンセントから抜いて、ソニーの相談窓口にご相談ください。

運転中に使用しない

自動車、オートバイなどの運転をしながら、撮影、再生をしたり、液晶画面を見ることは絶対おやめください。交通事故の原因となります。

撮影時は周囲の状況に注意をはらう

周囲の状況を把握しないまま、撮影を行わないでください。事故やけがなどの原因となります。

指定以外の電池、ACアダプター、バッテリーチャージャーを使わない

火災やけがの原因となることがあります。

機器本体や付属品、記録メディアは、乳幼児の手の届く場所に置かない

電池などの付属品や"メモリースティック"などを飲み込む恐れがあります。乳幼児の手の届かない場所に置き、お子様がさわらぬようご注意ください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

電池やショルダーベルト、ストラップを正しく取り付ける

正しく取り付けないと、落下によりけがの原因となることがあります。
また、ベルトやストラップに傷がないか使用前に確認してください。

電源コードを傷つけない

熱器具に近づけたり、加熱したり、加工したりすると火災や感電の原因となります。また、電源コードを抜くときは、コードに損傷を与えないように必ずプラグを持って抜いてください。

長時間、同じ持ち方で使用しない

使用中に本機が熱いと感じなくても皮膚の同じ場所が長時間触れたままの状態でいると、赤くなったり水ぶくれができたりなど低温やけどの原因となる場合があります。

以下の場合は特にご注意いただき、三脚などをご利用ください。

- 気温の高い環境でご使用になる場合。
- 血行の悪い方、皮膚感覚の弱い方などがご使用になる場合。

次のページへつづく→

注意

下記の注意事項を守らないと、**けが**や**財産に損害**を与えることがあります。

水滴のかかる場所など湿気の多い場所やほこり、油煙、湯気の多い場所では使わない

火災や感電の原因になることがあります。

禁止

ぬれた手で使用しない

感電の原因になることがあります。

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いた所に置いたり、不安定な状態で三脚を設置すると、製品が落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

コード類は正しく配置する

電源コードやパソコン接続ケーブル、A/V接続ケーブルなどは、足に引っ掛けると製品の落下や転倒などによりけがの原因となることがあるため、充分注意して接続・配置してください。

通電中のACアダプター、バッテリーチャージャー、充電中のバッテリーや製品に長時間ふれない

長時間皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

使用中は機器を布で覆ったりしない

熱がこもってケースが変形したり、火災、感電の原因となることがあります。

長期間使用しないときは、電源をはずす

長期間使用しないときは、電源プラグをコンセントからはずしたり、電池を本体からはずして保管してください。火災の原因となることがあります。

レンズや液晶画面に衝撃を与えない

レンズや液晶画面はガラス製のため、強い衝撃を与えると割れて、けがの原因となることがあります。

電池や付属品、記録メディア、アクセサリーなどを取りはずすときは、手をそえる

電池や"メモリースティック"などが飛び出すことがあり、けがの原因となることがあります。

ヘッドホンを使用するような場合、大音量で長時間続けて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与える事があります。呼びかけられたら返事が出来るくらいの音量で聞きましょう。

⚠危険 電池についての安全上のご注意とお願い

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲による大けがや**やけど、火災**などを避けるため、下記の注意事項をよくお読みください。

⚠危険

- バッテリーパックは指定されたバッテリーチャージャー以外で充電しない。
- 電池を分解しない、火の中へ入れない、電子レンジやオーブンで加熱しない。
- 電池を火のそばや炎天下、高温になった車の中などに放置しない。このような場所で充電しない。
- 電池をコインやヘアーピンなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 電池を水・海水・牛乳・清涼飲料水・石鹸水などの液体で濡らさない。濡れた電池を充電したり、使用したりしない。

禁止

⚠警告

- 電池をハンマーなどでたたいたり、踏みつけたり、落下させたりするなどの衝撃や力を与えない。
- バッテリーパックが変形・破損した場合は使用しない。
- ボタン電池は充電しないでください。

禁止

- 電池を使い切ったときや、長期間使用しない場合は機器から取りはずしておく。

指示

お願い

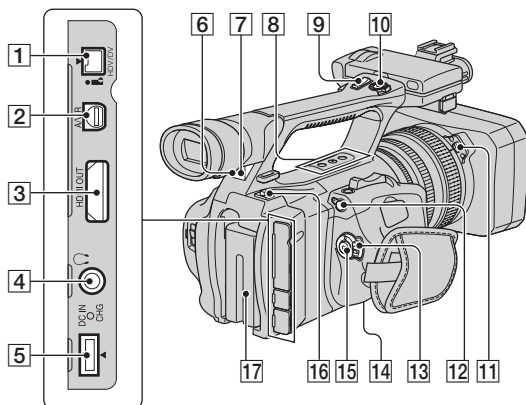
リチウムイオン電池はリサイクルできます。不要になったリチウムイオン電池は、金属部分にセロハンテープなどの絶縁テープを貼ってリサイクル協力店へお持ちください。

充電式電池の回収・リサイクルおよびリサイクル協力店については

一般社団法人JBRCホームページ
http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html
を参照してください。

Li-ion
リチウムイオン電池

各部のなまえ

（　）内は参照ページです。

1 i HDV/DV端子（51）

2 A/Vリモート端子（51）

3 HDMI OUT端子（51）

4 ☊（ヘッドホン）端子

ヘッドホンを使うときはステレオミニジャックのものを使ってください。ヘッドホンを使うとスピーカーから音は出ません。

5 DC IN端子（16）

6 リモコン受光部（後部）（118）

7 録画ランプ（後部）（24）

テープやバッテリーの残量が少なくなると点滅します。

8 ASSIGN4～6*ボタン（39）

9 ハンドルズームレバー（27）

10 REC START/STOPボタン（24）

11 PUSH（レンズフード取りはずし）ボタン（14）

12 LANC端子

LANC端子は、ビデオ機器と周辺機器をつなぎ、テープ走行などをコントロールできるようにした端子です。

13 POWERスイッチ（18）

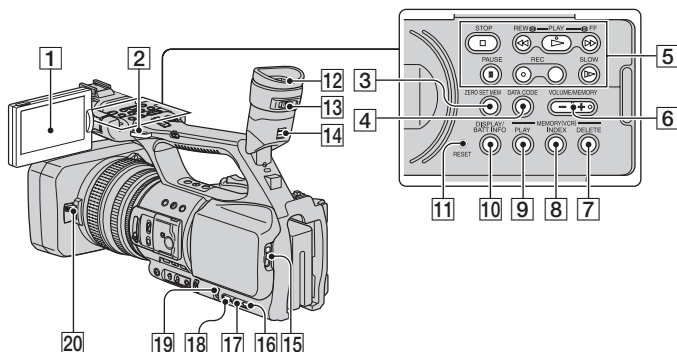
14 三脚用ネジ穴

三脚を使うときは、ネジの長さが5.5mm以下のものを使ってください。ネジの長い三脚ではしっかり固定できず、本機を傷付けることがあります。

15 REC START/STOPボタン（24）

16 BATT RELEASEボタン（16）

17 バッテリーパック（15）

* ASSIGN5 ボタンに凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

1 液晶画面（19）

2 ショルダーストラップ取り付け部（116）

3 ZERO SET MEMボタン（49）

4 DATA CODEボタン（47）

5 ビデオ操作ボタン（STOP/REW/PLAY*/FF/PAUSE/REC/SLOW）（44）

6 VOLUME/MEMORYボタン*（45）

7 MEMORY/DELETEボタン（45）

8 MEMORY/INDEXボタン*（45）

9 MEMORY/PLAYボタン（45）

10 DISPLAY/BATT INFOボタン（47、48）

11 RESET（リセット）ボタン
RESET（リセット）ボタンを押すと、日時を含めすべての設定が解除されます。ただし、ピクチャープロファイルとカメラプロファイルで設定した内容は解除されません。

12 ファインダー（19）

13 視度調整つまみ（19）

14 ビューファインダー取りはずしつまみ（108）

15 ⏏OPEN/EJECTつまみ（22）

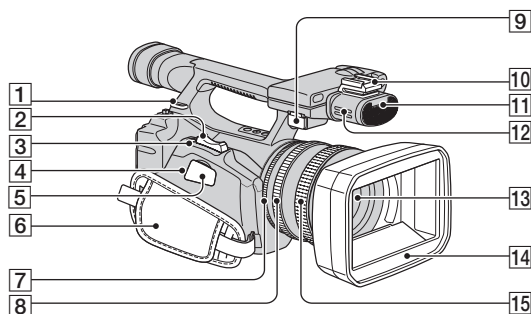
16 STATUS CHECKボタン（48）

17 PICTURE PROFILEボタン（33）

18 MENUボタン（57）

19 SEL/PUSH EXECダイヤル（21）

20 レンズカバーレバー（14）

* PLAY ボタン、VOLUME/MEMORY ボタン（+ ボタン）、MEMORY/INDEX ボタンに凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

1 ショルダーストラップ取り付け部

2 ズームレバー（27）

3 PHOTO/EXPANDED FOCUSボタン（25、28）

4 アクセスランプ（23）

5 "メモリースティック　デュオ"スロット（22）

6 グリップベルト（18）

7 アイリスリング（29）

8 ズームリング（27）

9 外部マイク入力端子

外部マイクを接続すると外部マイクが内蔵マイクより優先されます。

10 アクセサリーシュー

11 録画ランプ（前部）（24）

テープやバッテリーの残量が少なくなると点滅します。

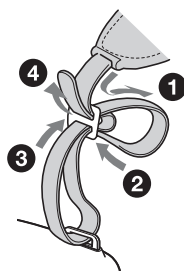
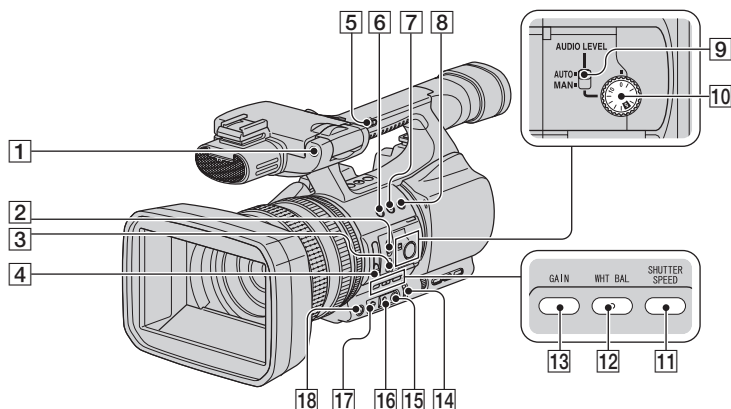
12 内蔵ステレオマイク（38）

13 レンズ

14 レンズカバー付きフード（14）

15 フォーカスリング（27）

ショルダーストラップ（別売り）を取り付けるには

ショルダーストラップ（別売り）取り付け部に図のように取り付けてください。

1 リモコン受光部（前部）（118）

2 FOCUSスイッチ（27）

3 PUSH AUTOボタン（28）

4 ND FILTERスイッチ（OFF/1/2/3）（31）

5 ハンドルズーム切換スイッチ（FIX/VAR/OFF）（27）

6 ASSIGN1ボタン/ZEBRAボタン（39）

7 ASSIGN2ボタン*/AE SHIFTボタン（39）

8 ASSIGN3ボタン/REC REVIEWボタン（39）

9 AUDIO LEVELスイッチ（38）

10 AUDIO LEVELダイヤル（38）

11 SHUTTER SPEEDボタン（31）

12 WHT BALボタン*（32）

13 GAINボタン（30）

14 AUTO/MANUALスイッチ（30）

15 （ワンプッシュ）ボタン（32）

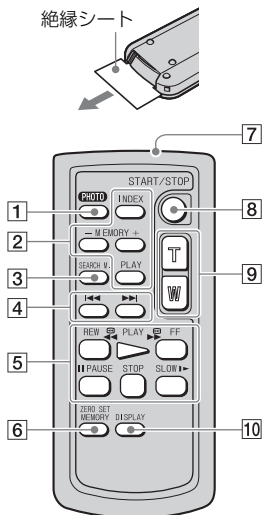
16 ホワイトバランスメモリースイッチ（32）

17 ゲインスイッチ（30）

18 IRIS/EXPOSUREボタン*（30）

* ASSIGN2ボタン/AE SHIFTボタン、WHT BALボタン、IRIS/EXPOSUREボタンに凸点（突起）が付いています。操作の目印としてお使いください。

ワイヤレスリモコン

絶縁シートを引き抜いてからリモコンを使ってください。

1 PHOTOボタン(25)

押したときの画像が静止画として"メモリースティック　デュオ"に記録されます。

2 MEMORYボタン(INDEX、−/+、PLAY)(44)

3 SEARCH M.ボタン(50)

4 ⏮ ⏭ ボタン

5 ビデオ操作ボタン(REW、PLAY、FF、PAUSE、STOP、SLOW)(44)

6 ZERO SET MEMORYボタン(49)

7 リモコン発光部

8 START/STOPボタン(24)

9 ズームボタン(27)

10 DISPLAYボタン(49)

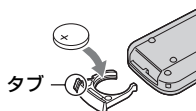
リモコンについてのご注意

- 本体のリモコン受光部に向けて操作してください。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や照明器具の強い光が当たらないようにしてください。リモコン操作ができないことがあります。
- 付属のリモコンで本機を操作しているときに、ほかのビデオデッキが誤動作することがあります。その場合、ビデオデッキのリモコンモードスイッチをVTR2以外のモードに切り換えるか、黒い紙でリモコン受光部をふさいでください。

リモコンの電池を交換するには

① タブを内側に押し込みながら、溝に爪をかけて電池ケースを引出す。

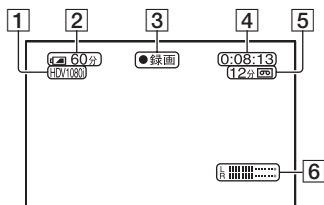
② ＋面を上にして新しい電池を入れる。

③ 電池ケースを「カチッ」というまで差し込む。

ご注意

- リモコンには、ボタン型リチウム電池(CR2025)が内蔵されています。CR2025以外の電池を使用しないでください。

ファインダーと液晶画面の表示

( )内は参照ページ。
撮影中の画面表示は録画されません。

動画を撮影中

1 録画フォーマット（HDV1080iまたはDV）（71）

録画フォーマットがDVのときは、録画モード（SPまたはLP）も表示される。

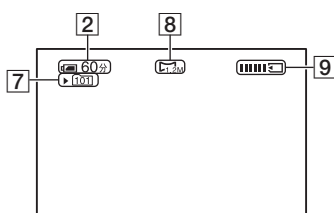
2 バッテリー残量の目安

3 撮影状態（[スタンバイ]/[●録画]）

4 撮影中：テープカウンター（時：分：秒）
再生中：タイムコード（時：分：秒：フレーム）

5 テープ残量の目安

6 オーディオレベルメーター（69）

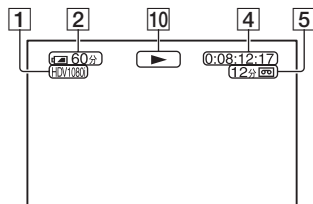
静止画を撮影中

7 記録先のフォルダ（73）

8 画像サイズ（25）

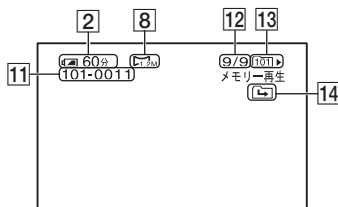
9 静止画記録中（25）

撮影時のデータについて

撮影中の日付時刻と撮影条件を示したカメラデータが自動的に記録されます。
これらのデータは、撮影中には表示されませんが、再生時にDATA CODEボタンを押すと確認できます（47ページ）。

動画を再生中

[10] テープ走行表示

- 録画モード(SPまたはLP)は、DV規格で記録されたテープを再生するときに表示されます。 DV

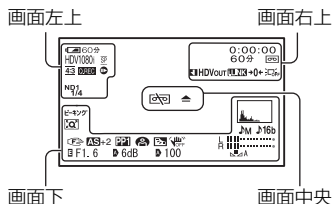
静止画を再生中

[11] データファイル名

[12] 再生中の画像番号/フォルダ内の合計枚数

[13] 再生フォルダ(74)

[14] 前後フォルダ表示

“メモリースティック　デュオ”内に複数のフォルダがあるとき、フォルダ内の最初/最後の画像になると、 が表示されます。VOLUME/MEMORYボタンでフォルダー移動できます。

表示画面の説明

画面左上

表示	意味
HDV1080i DV	録画フォーマット(71)
SP LP	DV録画モード(71)*
4:3	DVワイド記録(72)*
Q.REC	クイック録画(75)**
	DVコマ撮り(65)*
ND OFF CLR ND1 1/4 ND2 1/16 ND3 1/64	NDフィルター(31)
	インターバル録画(64)

画面右上

表示	意味
	インデックス信号(40)
HDVIN DVIN	HDV入力/DV入力(81)
HDVOUT DVOUT	HDV出力/DV出力(80)
i.LINK	i.LINK接続(55、77)
→0←	ゼロセットメモリー(49)
OFF	液晶バックライト 切(19)

画面中央

表示	意味
	警告(97)

画面下

表示	意味
	ヒストグラム(68)
♪16b ♪12b	DV音声モード(67)*
♪M	音声録音レベル(38)
	手動フォーカス(27)
PP1 ～ PP6	ピクチャープロファイル(33)
	スポットライト(62)
	逆光補正(62)
OFF	手ブレ補正(62)
ピーキング	ピーキング(68)
	デジタルエクステンダー(63)
AS	AEシフト(61)
E	カメラ明るさ設定(29、60)
A	自動設定(69)
A B	ホワイトバランス(32)
(COLOR)	x.v.Color(66)**
	ゼブラ(68)
24pSCAN 30pSCAN	プログレッシブスキャン(60)

* DV規格のときのみ設定できます。
** HDV規格のときのみ設定できます。

ちょっと一言

- 表示内容や位置は目安であり、実際とは異なることがあります。

各部のなまえ・索引

索引

次のページへつづく➡

ワ行

アルファベット順

数字

商標について

- “ハンディカム”、HANDYCAMはソニー株式会社の登録商標です。
- “Memory Stick”、“メモリースティック”、“MEMORY STICK”、“メモリースティック　デュオ”、“MEMORY STICK DUO”、“メモリースティック PRO　デュオ”、“MEMORY STICK PRO DUO”、“メモリースティック PRO-HG デュオ”、MEMORY STICK PRO-HG DUO、“メモリースティック マイクロ”、“マジックゲート”、MAGICGATE、“MagicGate Memory Stick”、“マジックゲート メモリースティック”、“MagicGate Memory Stick Duo”、“マジックゲート メモリースティック デュオ”はソニー株式会社の商標または登録商標です。
- InfoLITHIUM（インフォリチウム）はソニー株式会社の商標です。
- G はソニー株式会社の商標です。
- “x.v.Color”はソニー株式会社の商標です。
- i.LINK、i はソニー株式会社の商標です。
- Mini DV Digital Video Cassette は商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、Windows MediaはMicrosoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の米国およびその他の国における登録商標です。
- HDVおよびHDVロゴは、ソニー株式会社と日本ビクター株式会社の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLC の商標または登録商標です。
- PentiumはIntel Corporationの登録商標または商標です。
- Adobe、Adobe ReaderはAdobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

その他の各社名および各商品名は各社の登録商標または商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。

ライセンスに関する注意

個人的使用以外の目的で、MPEG-2規格に合致した本製品をパッケージメディア向けビデオ情報をエンコードするために使用する場合、MPEG-2 PATENT PORTFOLIOの特許に関するライセンスを取得する必要があります。尚、当該ライセンスは、MPEG LA. L.L.C.,（住所：250 STEELE STREET, SUITE 300, DENVER, COLORADO 80206）より取得可能です。

■ 製品についてのサポートのご案内

ホームページで調べる

ハンディカムの最新サポート情報
（製品に関するQ&A、パソコンとの接続方法など）
http://www.sony.co.jp/cam/support/

ハンディカムホームページ
http://www.sony.co.jp/cam
ハンディカムの最新情報、撮影テクニック、アクセサリーなどに関する情報を掲載しています。

"メモリースティック"対応表
http://www.sony.co.jp/mstaiou
使用可能な"メモリースティック"を確認することができます。

電話で問い合わせる（ソニーの相談窓口）

●使い方相談窓口
フリーダイヤル 0120-333-020
携帯・PHS・一部のIP電話 0466-31-2511
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「400」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
受付時間:月～金 9:00 ～ 18:00　土･日･祝日 9:00 ～ 17:00

●修理相談窓口
フリーダイヤル 0120-222-330
携帯・PHS・一部のIP電話 0466-31-2531
上記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「400」+「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。
受付時間:月～金 9:00 ～ 20:00　土･日･祝日 9:00 ～ 17:00

ホームページ　http://www.sony.co.jp/di-repair/
FAX（共通）:0120-333-389

ソニー株式会社　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1　　http://www.sony.co.jp/

この説明書は古紙70%以上の再生紙とVOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

SONY

HANDYCAM

HDR-FX1000